11-390

序

函館每日新聞記者井原辰五郎氏頃者著最新函館案內需序余夫函館五港之一而恰當北海之咽喉蓋貨物集散之區而商賈來往之巷也港灣之設備雖有未盡完美而隨伴於本道內地之開拓及外國貿易之隆昌而倍促其發展復不容疑矣其山水之明媚風光之絕佳內外來遊者之其認而所許也唯至如其名所舊跡其人既逝其跡既滅有不可復尋者徒擧前人之偉績委之於草昧泯々終使不傳焉井原氏之著如有所深鑑於此故其開幽顯微也或考之於口碑或案之於傳說引證上古之歷史記述維新之事蹟以詳其所淵源大者即尋治亂興亡之跡以究將

來之趨勢小者卽說日常生活之狀以及巷閭之些話入微穿細
凡欲通於函館之眞相者必不可不知事項殆擧而網羅焉實可
謂不背於其所題矣而若賴之顯揚前人之偉績於未滅以得爲
勸奬後人之資此著不啻函館案內也卽叙所感以塞其責云爾

明治四十年六月　函館稅關長正六位　三好海三郎

序

其昔蝦夷カ島根ト一概ニ總稱シタル北日本十一州ハ廣袤實ニ六千壹百三十五方里山河壯大沃野千里氣候亦他ノ豫想ノ如ク嚴ナラス隨テ土壤ノ大部分ハ農耕牧畜ニ適ス之ニ加フルニ無盡ノ礦物ヲ產シ且ツ沿岸一帶水產ニ富ムコト殆ド全國ニ冠絕シ寔ニ是レ天賦ノ良土國家ノ寶庫ト云フヘキナリ今ヤ府縣幾百萬脾肉ノ歎ニ堪ヘザルノ健兒之チ雲烟過眼ニ付セス奮起一葦ノ海峽ヲ蹴テ此寶庫ニ入ラントスルニ當リ其關門タル而モ全道ノ粹ヲ代表シ古來外國貿易ノ市場タル函館港頭ノ一瞥ハ先其關鍵ヲ手ニスル

ト齊シク喫緊事ナラン函館ハ街衢政然大厦高樓軒ヲ並ベ
商貨集積人馬絡驛港内ハ船舶輻輳帆檣林立其段賑ナル恐
クハ首都以外稀ニ見ル所ニシテ所謂蝦夷ナル通稱ハ今ヤ
霧消シ去レルモノト云フベシ井原辰五郎氏ハ函館之實力
ヲ洽ク社會ニ紹介セントシ最新函館案内ナルモノヲ編シ
予ニ序ヲ請ハル之ヲ閲スルニ地勢風俗ヲ始メ交通及金融
機關商工業各勝舊蹟等森羅萬象載セテ一モ剰スナシ既往
斯ノ種ノ著數多アリト雖モ簡ニシテ明ナル蓋シ優秀ナル
ヲ信ジ茲ニ一言ヲ述ベテ之ヲ紹介ス

明治四十年六月下澣函館區長　從五位勲五等　山田邦彦

序

函館毎日新聞經濟記者井原君頃日「最新函館案内」と題する冊子を編し予に序を求む聞く君の此の著ある主として函館經濟事情の變遷を叙し、汎く之を世上に紹介し、併せて我函館産業界の發奮振作を期するに在りと其擧や誠に適切なりと謂ふ可し、惟ふに戰後函館經濟の膨脹は之は他地方に比して著るしきものあり君や我函館に經濟記者たること多年從て其の造詣亦深かるべく此等經濟事情の解釋は必ずや君の筆に依りて能く其完きを得む故に本書梓に上ぼる日必ず讀者を裨益すること多からむ予謝

劣菲才自ら揣らず敢て君の需めに應ずるもの亦以て君の
抱負に感ずるの餘に出づ。
聊か所感を述べ以て序に代ふ。

明治四十年七月

函館商業會議所
會頭　内野高吉

明治四十年七月壹日點檢了

函館要塞司令官渡邊忠三郎

自序

函館案内の著述からず此書或は蛇足を添ふるの誚りを免れざるべしと雖も十人十種其見る處各同じからず或は一部に簡にして他に精しきものあり或は記事に約にして廣告に侈きものあり今を專らとして昔を顧みざるものあり著者謂らく函館の今日ある決して豫言者の甑の如く一夜忽然として渡島半島の一角に起りたるものに非ずして必ずや其淵源たる處深且大なるものあるべしと蓋し往を考へ來を推すも亦以て現在を明にする所以の道なるを思ひ爾來口碑傳說の苟も函館に關するものは即ち之を筆にし蒐集多年殆んと帙を爲せり庶幾くは之に據りて以て前人の事蹟を尋ね以て後人の進む處を知らしむるの一助と成さんと頃日書肆大盛堂主人小島氏函館案内記を公にせん

とするに志あり來りて之を余に謀る主人の意亦余と其感を同ふせるものあるを見即ち最近の函館に就き人情風俗、經濟の消長、貿易の盛衰等旅行家遊覽者は勿論凡そ函館と關係を有するもの、必ず知らざるべからざるもの數十項を撰て更に其發達の徑路を示す爲め諸般の統計表を交へ又嚮きに蒐集せしものを併せて之に贈に題して「最新函館案內」と云ふ固より日進月歩の函館を紹介するに於て遺憾なきを保せずと雖も其期する處は唯獨り遠來の客をして一時の玩弄物たらしむるに止めず汎く之を江湖諸彥の座右に進め以て日常の好侶伴たらしめんとするに在り故に若し不幸にして世人の滿足を買ふ能はざるものあらば之れ却て著者苦心の罪なり明治四十年櫻花爛熳蛙鳴く谷地頭の僑占に於て著者誌す

凡例

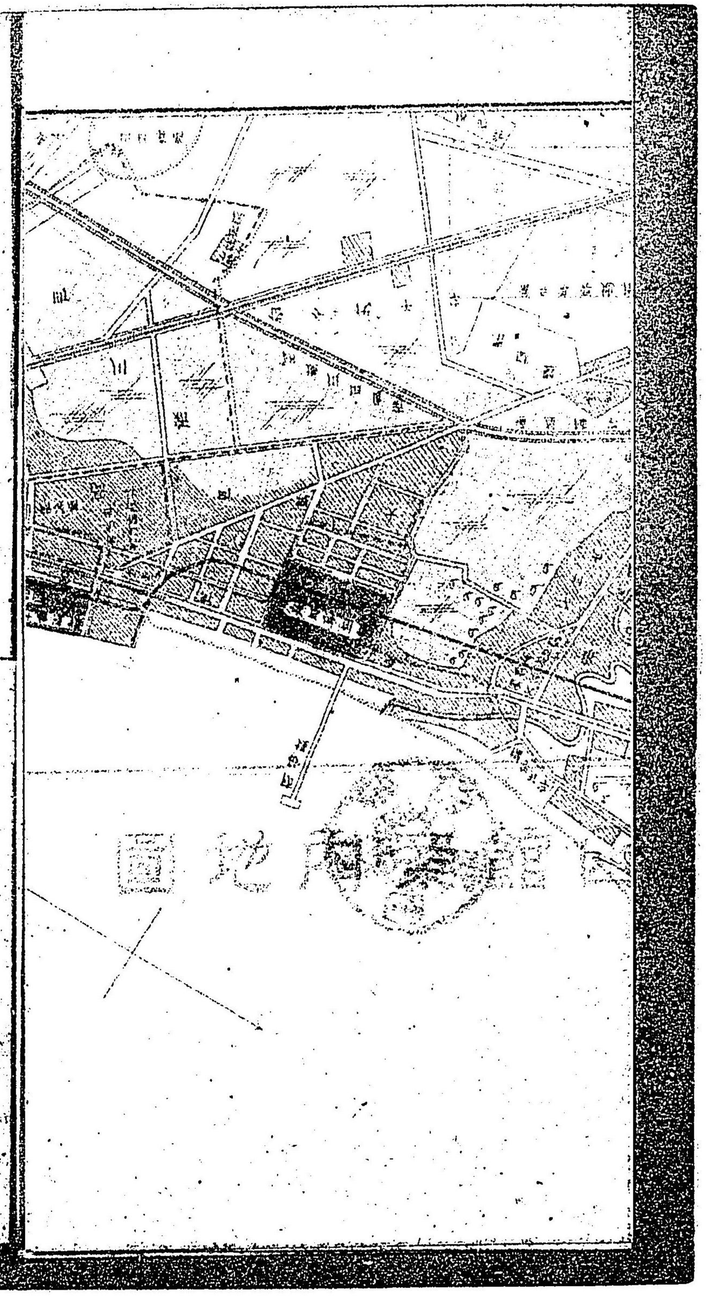
一本書は各般の事項を網羅して函館の發達端緒及び其精華を確實的に廣く紹介するにあり

一目次に現はれざるもの、內、旅人宿は營業種類、植木屋は別莊庭園、資產家を營業種類、汽船汽車貨金、宿屋、腕車貨等を記事の都合上或は編纂の秩序を保たんが爲め同項に記載せり

一事の行違ひ、年所、氏名等の誤記は江湖諸彥の幇助に依り第二版より訂正、修補努めて完璧となすを期す

一一版毎に新規の事項を補足して旅行者の便覽に供すると共に過去、現在、將來の書作を一卷に收め讀者諸彥が日常座右の好侶伴たらしめんとするは著者の希望なり

著者識



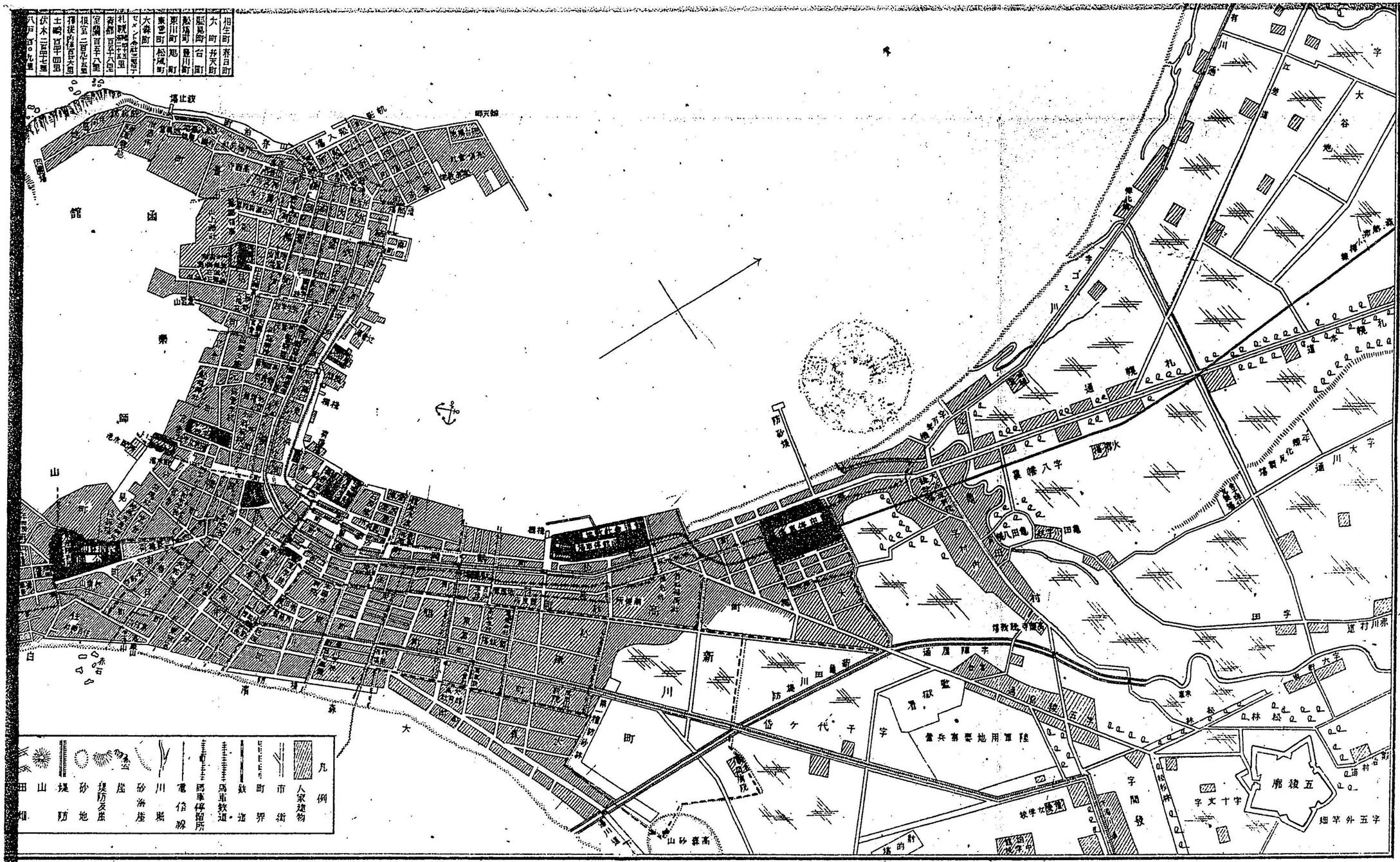
函館案内地圖

町名	元町	倉所町	蔣町	曙町	汐見町	相生町	蔣日町
町名	大黒町	富岡町	天神町	蔵沿町	魚屋町	末廣町	大町	弁天町
町名	出雲町	船魂町	西浜町	寺町	仲浜町	東浜町	蔵篤町	納屋町	船場町	弁天町
町名	汐留町	地蔵町	鶴岡町	厩町	西川町	宮町	東川町	鬼町	船場町	魯川町
町名	若松町	音羽町	高砂町	大縄町	海岸町	榮町	東雲町	松城町
町名	湯川温泉	二里	新浜町	臺場町	仲町	新川町	小船町	弥川町	大森町
森	十里六丁	赤川水道	二里二丁	江差	十九里七丁	七飯	四里八丁	セメント會社	三里
一森里	福山	二十三里三丁	江差	十九里七丁	札幌	十五里
福山	四十二里	江差	八十二里	函館	百五十八里
岩内	百十里	小樽	二百十二里	宗谷	三百廿一里	室蘭	百五十八里
寶泉	百二十一里	厚岸	二百五十三里	濱中	二百三十里	根室	二百九十五里
根室	三百十一里	國後泊村	二十三里	色丹	六十三里	擇捉内保	百六十五里
沙流	二百七里	内地各港里程	青森	五十九里	土崎	百四十四里
酒田	百六十九里	新潟	二百四十七里	原海	三百〇二里	伏木	二百四十七里
敦賀	四百三十四里	境	五百十九里	境	六百八十九里	八戸	百〇九里
山田	百七十九里	萩濱	二百六十九里	宮古	百六十九里	釜石	百六十八里
石濱	二百十三里	稚濱	百二十九里	四日市	六百九十四里	大坂	六百五十五里
海外諸港里程	上海マデ	一千五百三十里	上海マデ	一千二百二十里	湖湖斯徳マデ	四百二十四里

波止場
船入場
船渠
函館山
山麓
師
町
見
山
館
函
倉右衛門
山麓
山麓
山麓

旭生町	青日町
大町	弁天町
堀易町	台町
船場町	豊川町
栗川町	旭町
東雲町	船魂町
大森町	

セメント会社三箇所	二百五十里
札幌	二百五十五里
青都	百五十六里
室蘭	百五十八里
根室	二百七十五里
稚内	四百六十六里
土崎	百四十四里
伏木	二百五十七里
八戸	百九十九里


函館
函館山
元町
末広町
弁天町
大町
船場町
豊川町
旭町
東雲町
船魂町
大森町
青柳町
若松町
新川町
川原町
住吉町
入船町
大川町
千代ヶ岡
陸軍用地
陸軍兵舎
監獄
五稜郭
字五稜郭
字十文字
字五稜郭外
字間発
字八幡
字小田島
字大谷地
字川通
字古川通
字赤川通
字村田
字新川
字ゴミ川
字大川
札幌本道
函館支庁
函館区役所
函館警察署
函館病院
函館水電会社
函館水電株式会社
函館ドック
函館船渠
函館船渠会社
函館船渠株式会社
函館ドック会社
函館ドック株式会社

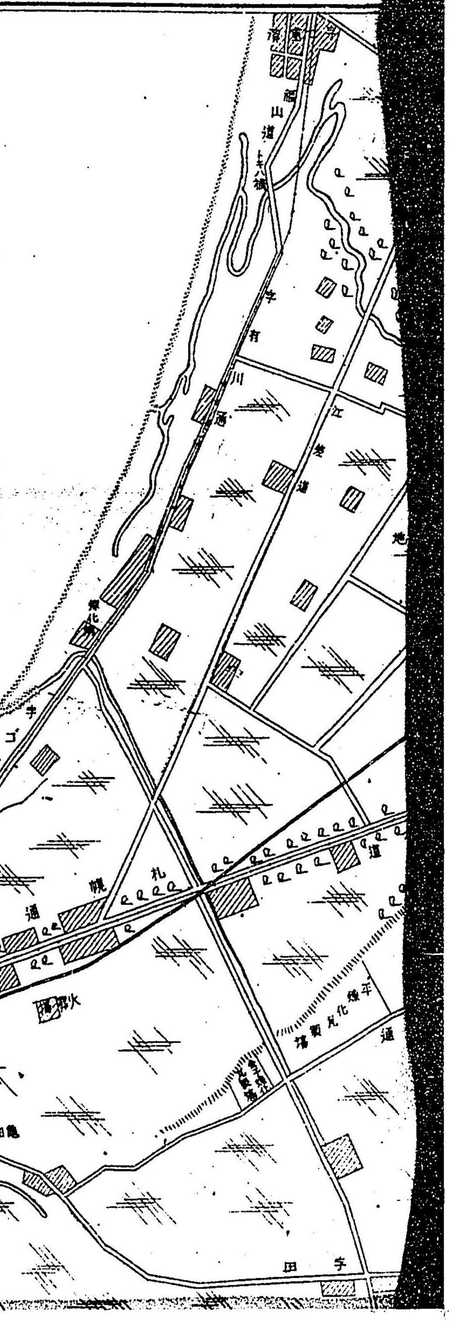
函館案內地圖

町名	別名	町名	別名
魚所町		青柳町	
谷地頭町		住吉町	遠東町
富岡町		天神町	鰮治町
船渡町		西浜町	幸町
地藏町		鶴岡町	真砂町
若松町		高砂町	大濱町
新浜町	臺場町	仲町	幾影町
川汲町	二重ノ下	赤川水道	二重ノ七銭四重八厘
森	十重八厘	福山	二十三里三丁
一嶺	里	福山	四十二里
室内	百七十里	小樽	二百二里
磯谷	百二十一里	厚岸	二百三十三里
根室	三百十里	國後泊村	二十三里
光郎	二百七里	内地各港	海里
酒田	百八十九里	新潟	二百四十七里
敦賀	四百三十四里	境	百二十九里
山田	百七十九里	萩濱	二百六十九里
石濱	二百十三里	櫃濱	百三十九里

海外諸港港路程

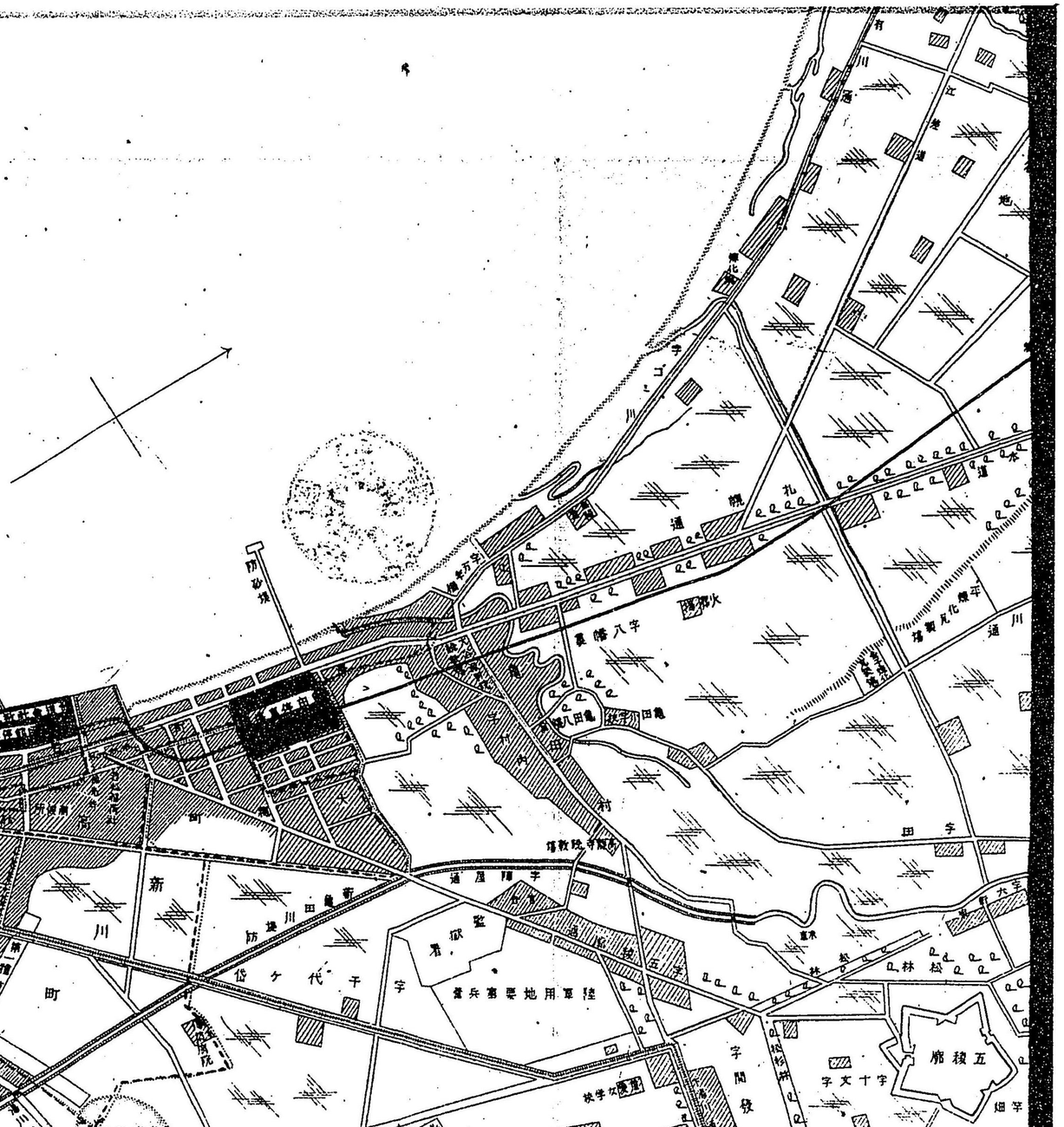
天津マデ	一千五百三十里	上海マデ	一千二百二十里
香港マデ	一千八百二十五里	芝罘マデ	一千二百九十里
厦門マデ	一千五百五十六里	新嘉坡マデ	三千二百七十里
馬尼剌マデ	二千〇七十里	孫港マデ	四千四百六十九里

潮潮斯德マデ	四百二十四里		
大坂	八百五十五里	四日市	六百九十四里
横濱	三百三十九里	神戸	四百九十八里
宮古	百六十九里	釜石	百八十八里
馬關	六百八十九里	長崎	六百九十三里
境	百二十九里	敦賀	四百三十四里
萩濱	二百六十九里	山田	二百七十九里
櫃濱	百三十九里	石濱	二百十三里


函館山道
函館山道
函館山道

相生町	末日町
大町	若天町
弁天町	台町
松陰町	豊川町
新川町	旭町
東雲町	松風町
セメント会社三菱ヶ	
大森町	

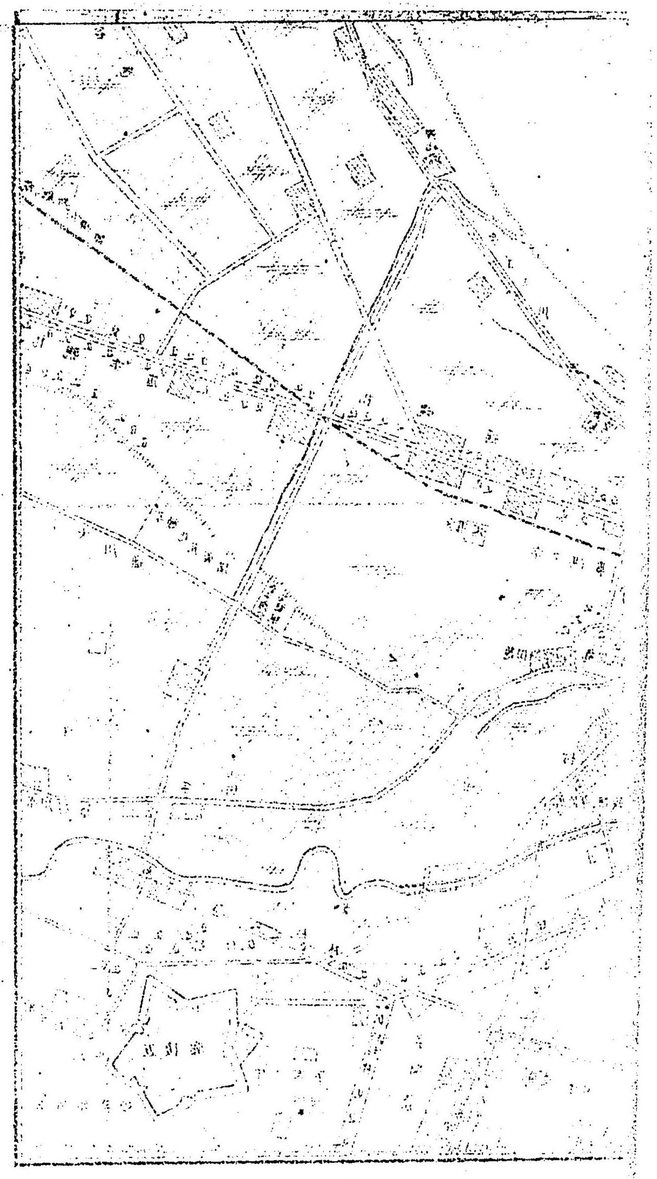
札幌	百四十五里
青森	百五十八里
室蘭	百五十八里
根室	二百九十五里
稚内	百六十五里
江差	百四十里
八戸	百八十八里
釜石	百八十八里
大阪	八百五十五里
西	二百二十四里
仙台	二百二十里
横浜	二百九十里
西	千四百六十八里


函館
新川町
東川町
通船町
通船川
通船川口
通船川口橋
通船川橋
通船川口橋
通船川口橋
通船川口

最新函館案内目次

上篇

●函館の位置……一
●古代の函館……二
●幕府の函館……九
●明治の函館……一三
●將來の函館……一八
●主管者の歷任及氏名……二〇
●函館と戊辰の役……二六
㊀海より見たる函館……二七
㊁陸より見たる函館……三一
㊂方角案内……四二
㊃町名移動……四三
●各地道程……五五



▲汽車汽船旅客賃金汽車汽船乘降心得 二
●家屋の構造 六一
●人情風俗 六三
●營業者數 六七
●營業種類 七〇
●勤工商場 八六

中篇

●所得高累年比較表 一
●所得納稅者人名表 一
●函館港累年輸出入額 一〇七
●國別貿易輸出入趨勢 一〇九
●最近內外國輸出入表 一一〇
●外國輸出入品別表 一一一
●最近內國出入船年表 一一三

●最近外國出入船年表 一一五
●戶口最近十年對照表 一一七
●在留外國人員三ヶ年對照表 一一八
●經濟力消長累年表 一一八
●最近之金融界一斑 一一九
●爲替金額對照表 一二一
●米價高低比較表 一二三
●龜田上磯兩郡農蠶漁業一斑 一二五
▲並に三ヶ年對照表
●上陸移住民調 一二七
●內外國人宿泊人員三ヶ年對照表 一二八
●鐵道及汽船乘者出入調 一二八
●倉庫現在數 一三〇
●貨物數量換算標準並に所在地 一三一
●諸官公衙 一三二
●各國領事館 一三三

●諸新聞社……一三
●各學校、病院、附慈惠院……一三
▲公私立學校……一三
▲區私立病院……一三
▲函館慈惠院……一三
●銀行諸會社……一四
●商工業團體……一四
●實業團體……一五
●諸稅負擔額……一五
●氣溫對照表……一五

下篇

●神社佛閣……一
▲寺院　▲神社……一
●名所舊蹟……九

▲函館八景……一四
▲義經井戸……一四
▲碧血碑……一五
▲公園地……一五
▲水道配水地……一五
▲辨天砲臺……一五
▲海水浴湯……一五
▲五稜廓……一五
▲五棧廓氷切……一五
▲競馬場……一五
●湯の川温泉場……一六
▲瀧の澤瀑布……一六
●大沼公園……一八
▲口碑……一八
▲勝景……一八
●別莊及庭園……二六
●遊廓繁昌記……二六
▲蓬萊町……二六
▲寺町……二六
▲藝妓……二六

目次

●料理店……六
●劇場及席亭……六六
●日常生活及物價……七〇
●方言及誤音……七三
附錄
●松前追分ぶし……七五
●土産物……八二
●函館戰爭雜話……八五

合名會社 函館支店

呉服部

洋物部

御定宿

船客貨物取扱店

万旅館

函館區仲濱町稅關前

（電話二四二番）

株式會社 函館貯蓄銀行

本店 末廣町十四番地（電話五二三）

出張所 鶴岡町貳番地（電話三六二）

同 辨天町廿番地（電話六三七）

營業課目

貯蓄預金
當座預金
定期預金
貸付金
手形割引
當座貸越

取締役頭取 田中正右衛門
取締役 杉浦嘉七
仝 渡邊熊四郎
監査役 相馬哲平
仝 廣谷源治
支配人 杉浦周作

HAKODATE HOTEL

函館公園内

函館ホテル

電話五七三番

函館區地藏町六十五番地　（電話六二〇番）

久西堀本店

◎商業學校、中學校、商船學校、高等女學校其他諸學校教科書取揃有之
◎新刊書箋雜誌は各出版元と特約日々着荷店前陳列有之候
◎筆、墨、硯、雜記帳、洋罫帳、簿記帳、ペン軸、ペンサキ、インキ入、舶來インキ大小、水彩畫用具一式、各色インキ消劑
◎筭盤、簿記棒、萬年筆、如意軸、製圖器械一式
◎繪の具其他學校用品一式取揃有之候
◎ベースボール用具、ロレテンニス用具、室内テニス用具取揃有之候

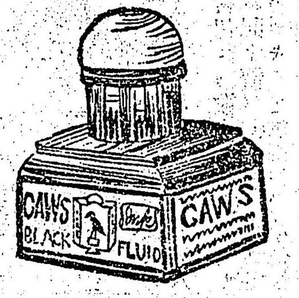
◎東京美滿津商店　商社、字屋、島屋、製樂器、運動具特約販賣仕候
◎北海道風景、及函館名所、美人繪葉書並に舶來繪葉書、各地紀念書繪葉書及繪葉ブック各種新着
◎以上の函館諸學校用教科書目錄◎參考書目錄◎新刊書籍雜誌目錄◎筆墨文房具定價表◎各流謠曲番謠本種目錄◎諸帳簿日記定價表◎樂器運動具定價表並に目錄◎繪葉書目錄等御入用の方は往復ハガキにて御申越次第郵送可仕候
◎地方より御注文被下候へば親切に發送可仕候御注文の際は可成代金見積相添御用命奉希上候
◎御入用の書籍樂器文具類品切等の節は早々取寄せの便利可致候

ラツケトヴワイヲリン
手風琴ハモニカ類新着

特約廣告

カウス印インキ……大小
メリケン形インキ……各色
日本ブニックインキ……
土瓶入インキ……大小
スタンプインキ……各色
復寫紙……各種
カブト印萬年筆……
ゴム糊……大小
篠崎製文具品……各種

製造元　東京日本橋　篠崎又兵衛
北海道特約店　函館相生町　松邑文房堂卸部



函館寶町

村上旅館

寶町一番地
（寶學校向ヒ）
電話五百十七番

室内清潔電鈴水道浴場等ノ設置アリ

停車場及ビ棧橋ヨリ僅カ四五丁以内ニ在リ

弊店ノ特色

◎旅館は區の中央にありて控訴院、裁判所、支廳、警察署、諸官衙、八幡宮、招魂社、各寺院及函館公園地等へは五丁以内にあ、又劇場、遊廓へは一二丁以内にありて何れを問ふとも最も便利なり

汽車、汽船、及鐵道馬車乘降に至極御便利、止宿の經便に宿泊料の抵廉なる本道に冠たり乞ふ一宿を試みられ此言の僞ならざるを知られ度弊館主人の切に希望する處に候

御宿料

一泊　卅五錢ヨリ五十錢マデ

一食貳拾錢

温泉旅館

湯の川 林長館

一本館の温泉場及客室ハ清潔ニ
志ス庭前雅趣あり保養ニ適ス

一本館ハ店客ニ對シ親切叮
嚀を專一ニ店取扱ヒ候

一店料理ハ精良を旨とし廉價
ニ調進一の致具ハ玉突場の設ケ有之候

電話五百三十八番

SAPON

英國製萬能洗粉

サッポン

効用

一各織物、器具洗、髪洗、化粧用等に効あり

一殊に油汚れを洗ふに最も適當として好評嘖々たり

一毛織物絹物等は縮むことなくして光澤を出す

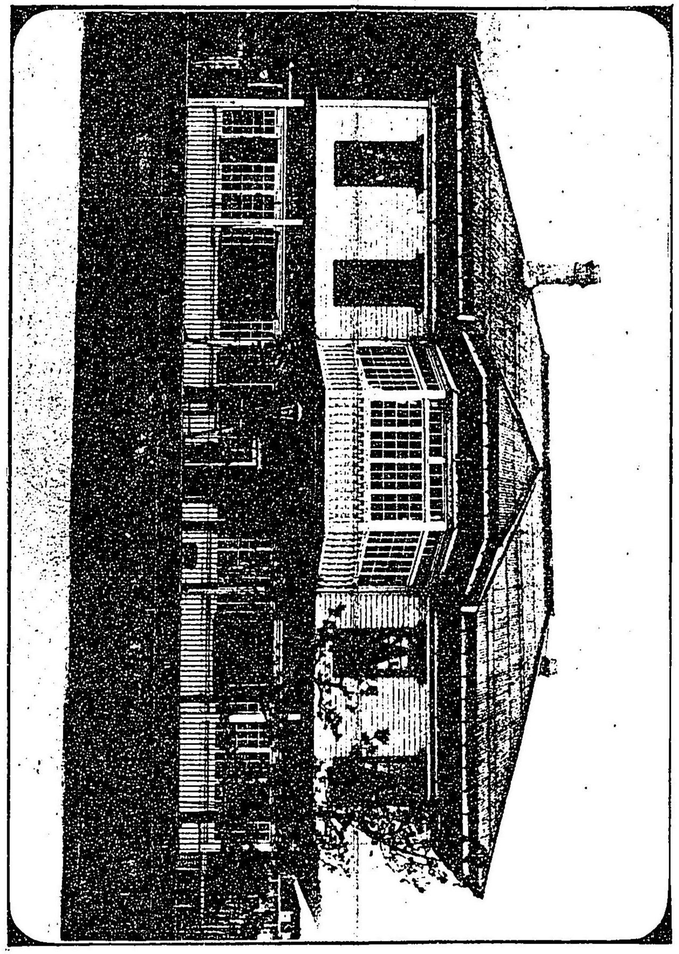
一本品は洗濯曹達と異り全く無害にして手あれる事なし

一洗濯物はこするの必要なければ時間を省き品質を損めず便利德用の洗い粉なり

北海道一手販賣

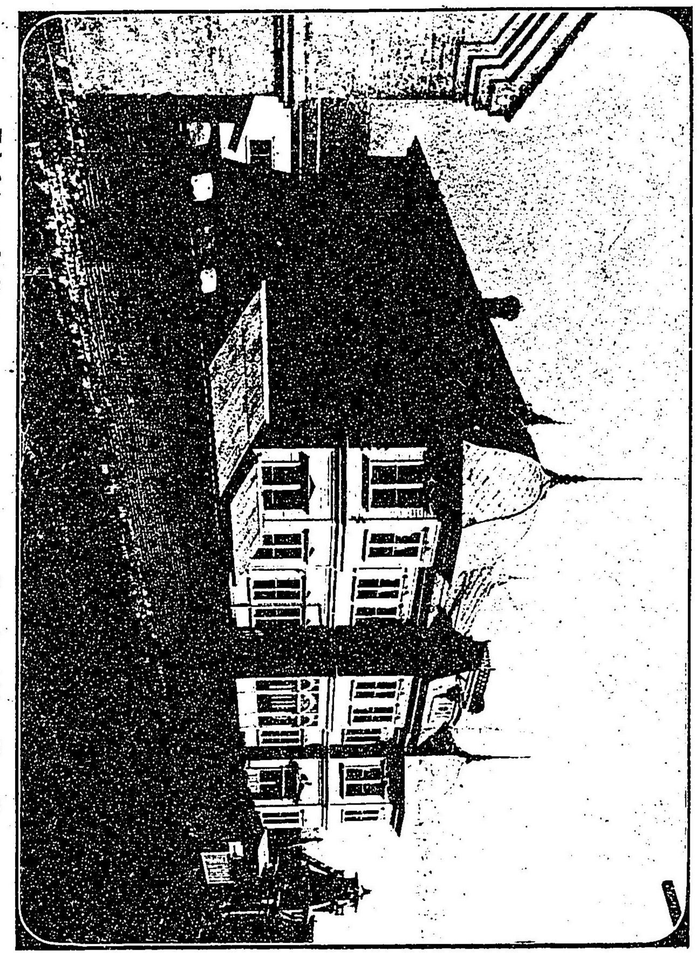
關根光商店

函館區汐留町



Hakodate Chamber of Commerce.

所議會業商館 四



Hakodate ward office

所役區館 四

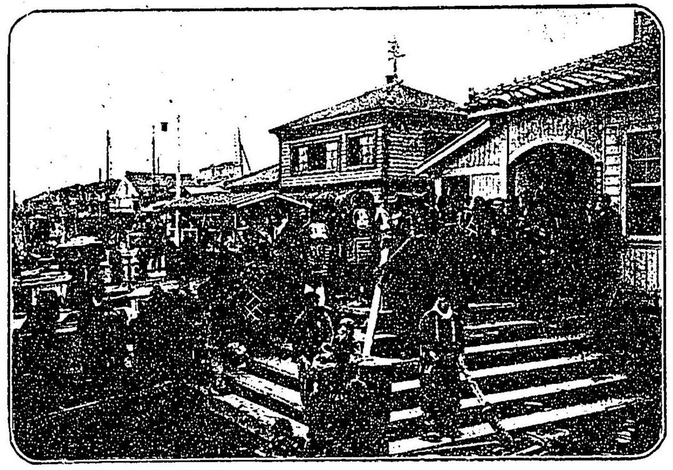
寫真
撮影

函館會所町十三十四十五番地

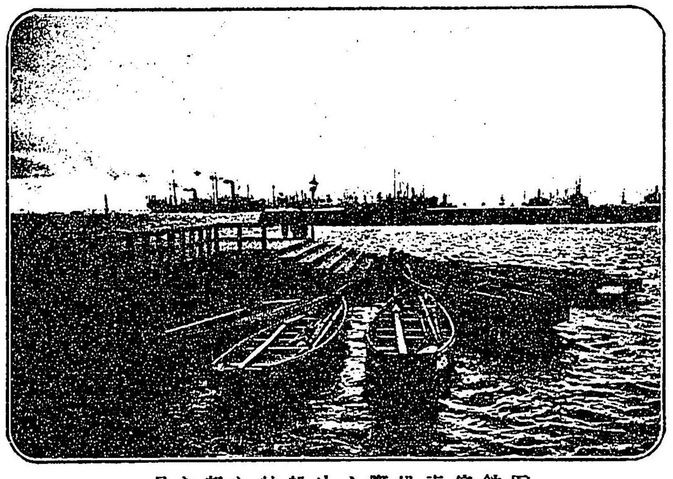
田本寫真館

電話百十九番

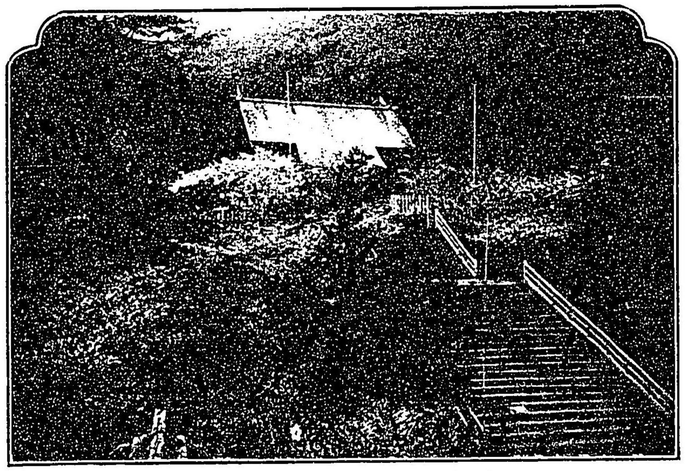
出張撮影ハ遠近ヲ不問御需ニ可應候



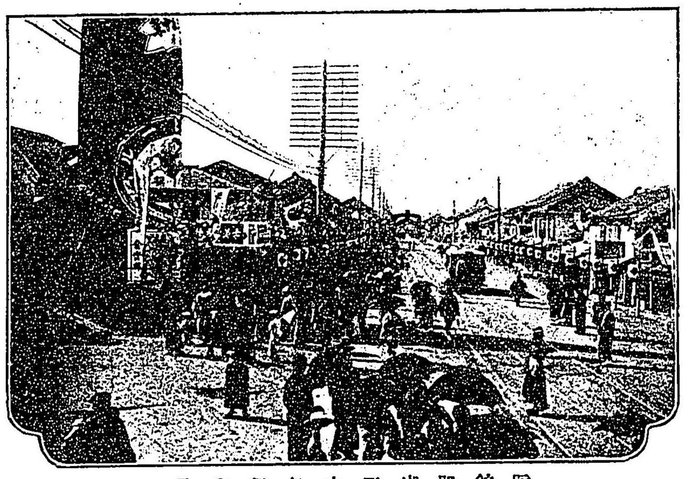
函館停車場より棧橋船客送迎の光景
The View of the passengers to be received on Hakodate pier and seen off.



函館停車場より船舶を望む景
The Vessels seen from Hakodate. Station.

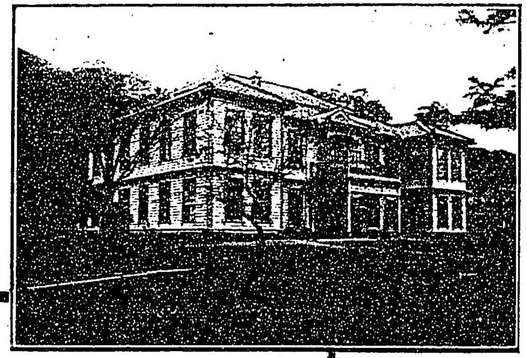


官幣中社函館八幡宮
Governmental Hakodate-hachi-man temple



函館開港五十年祭光景
The View of the fiftiesth year celebration of Hakodate port.

函館支廳の圖
Hakodate branch government.

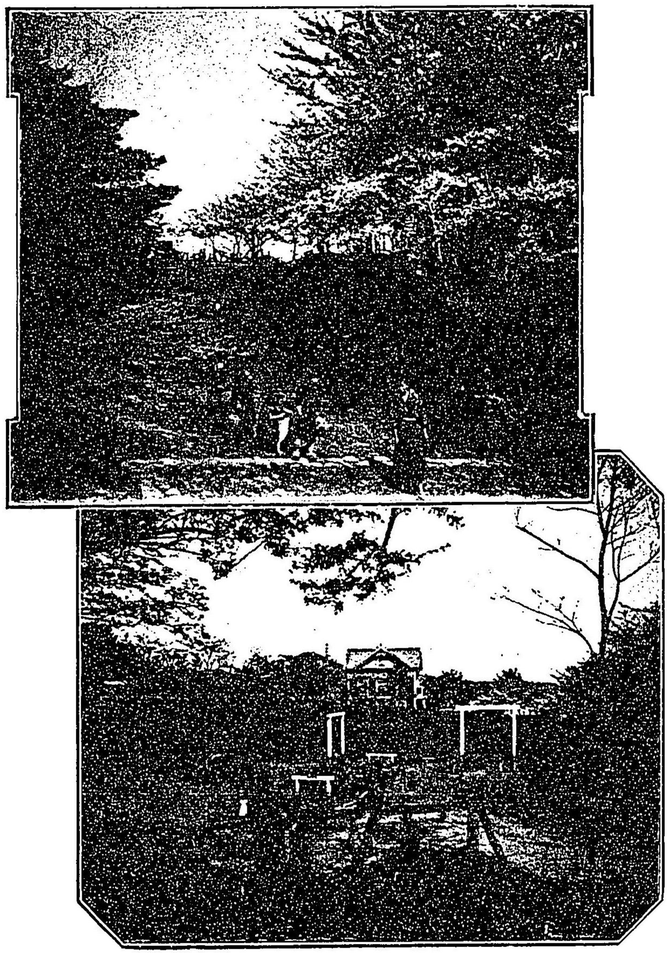


函館
區の校學船商

Hakodate college of mercantile of Navigation.

函館稅關の圖
Hakodate customs.

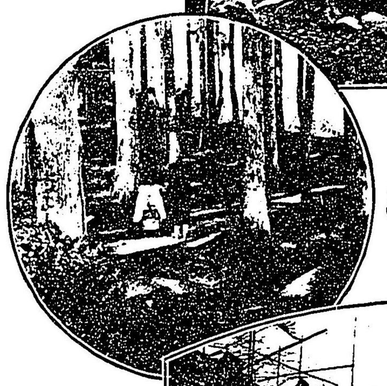
函館公園櫻花滿開の光景
Cherry bloosoms in Hakodate Park.



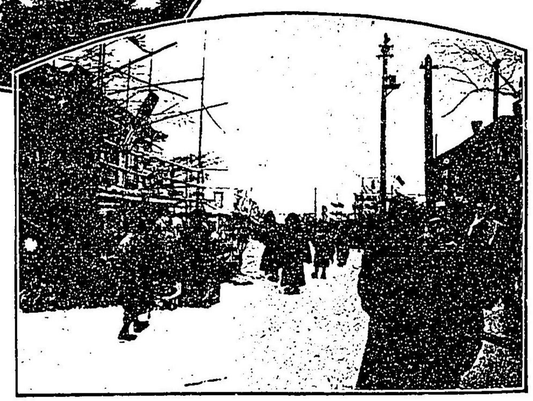
函館公園運動場の景
The play-ground of Hakodate park.

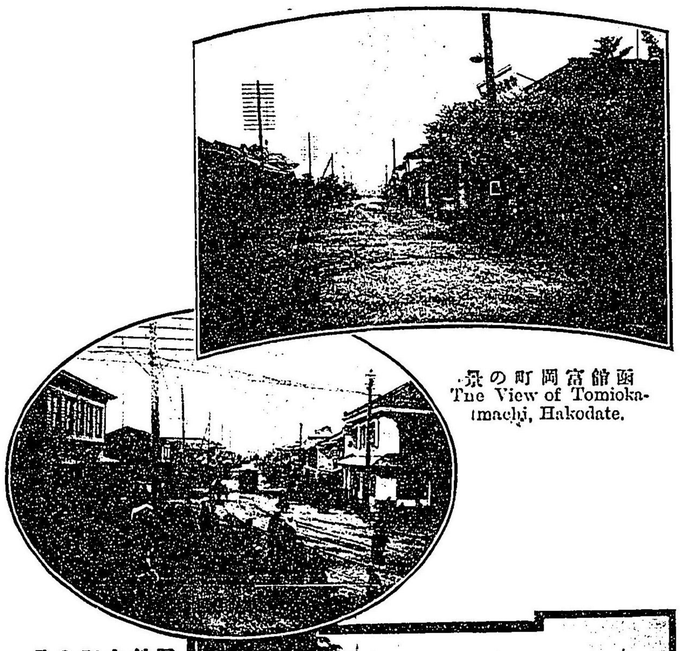
函館公園内噴水の景
Fountain in Hakodate park.

函館公園内古木の景
Old trees in Hakodate park.



函館恵比須町歳市の景
The View of the market of the end of the year (Toshino-Ichi) of yebisu, Hakodate



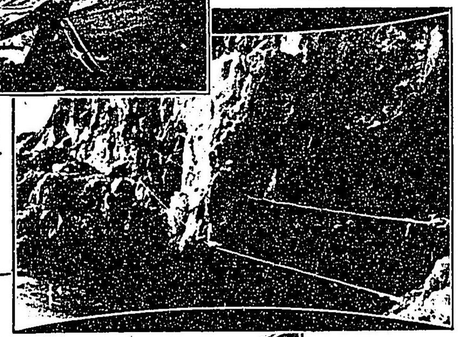


函館富岡町の景
The View of Tomioka-machi, Hakodate.

函館大町の景
The Viewof Ōmachi, Hakodate.

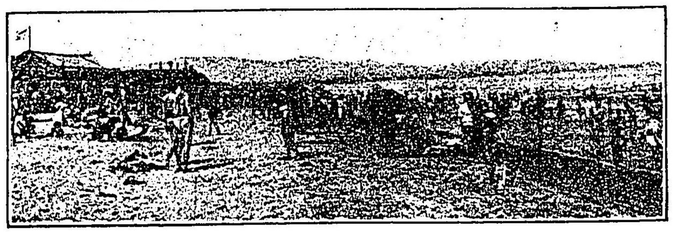
函館基坂々下の景
The View of Sakashita, motosaka, Hakodate.

函館穴間針金橋の景
The View of Hariganebashi (wire-bridge) at Anama, Hakodate.



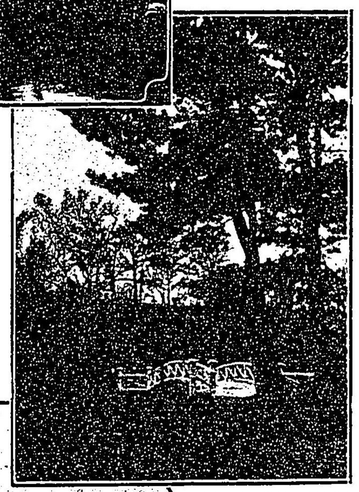
函館住吉町鰊大漁光景
The view of the "good herring hand" of Sumiyoshicho, Hakodate.

函館末廣町積雪光景
The Snow view of suehirocho, Hakodate.

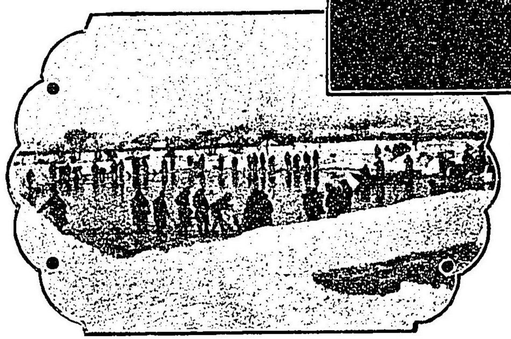


函館大森濱海水浴場の景
The sea-bathing place of Ōmori, Hakodate.

湯の川冬月別荘の景
Kumeichi villa at Yunokawa.



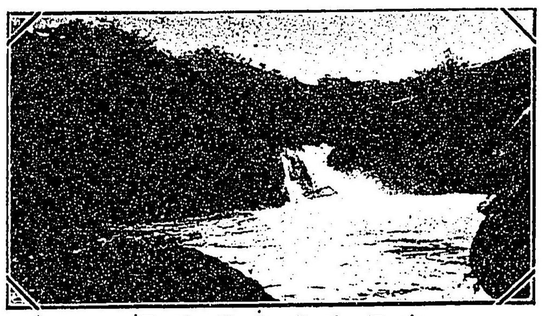
湯の川冬月別荘の庭園の景
The view of the Kumeichi garden, Yunokawa,



函館五稜郭氷切の景
The ice work Goryokaku, Hakodate.

北海道大公園大沼勝景
The view of the largest park "Onuma," No 1. Hokkaido.

同上（其二）
The same view No 2.



大沼止米の滝光景
The view of the water-fall "Tomekome" Onuma.

巴港の花（其一）

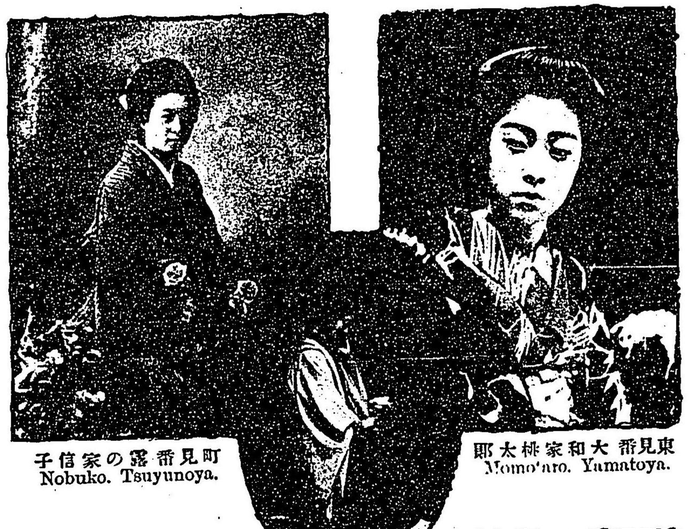
幸家水鈴　番見町
Miyuki. Suzukiya.

東見番　泉家すゞめ
Suzume. Izumiya.

くろ家村中　番見東
Puku. Nakamuraya.

助六家の花　番見町
Rokusuke. Hananoya.

巴港の花 (其二)



東見番 大和家桃太郎
Momotaro. Yamatoya.

町見番 露の家信子
Nobuko. Tsuyunoya.

四見番 福非家桃子 福島家誘子
Momoko. Fukuiya.
Katsuko. Fukushimaya.

蓬萊番見蓬萊
Horai

四見番 つ る家清子
Kiyoko. Tsuruya.

最新函館案内

●函館の位置

（位置）函館は渡島國の南岸にありて北緯四十一度四十六分七秒東經百四十度四十三分六秒に位す

（地勢）函館は渡島國の首府にして南は津輕海峽を隔てゝ一葦帶水陸奥國と相對し北は膽振後志二國に連續して東西南の三面は海に瀕し津輕海峽に突出せる一小半島なり元渡島蝦夷中の首部落にて函館縣の管轄するまでは明治元年松前氏城を館村に築き館藩となし四年七月館港を廢して館縣と改め之れを領したる歷史を有し又蝦夷時代渡島の割據せし處なり、函館港を一名巳港と云ふは其狀巳字に酷似するが故に

して明治二年露艦フサードニック灣内測量の時と現今とは大に異なり東方に突出せるは汐首崎にて遙に南部の尻矢岬と相對し其前面は渺茫たる大平洋　西は知内岳の東に折れて更に矢越岬を爲し之れより西に突出せるものは白神崎にて陸奥の龍飛岬と面す白神と惠山との中央に斗出せるは有名の函館山（一名臥牛山）にて之れ即ち函館なり市街は山を脊にして水に枕む人家櫛比鱗次山腹に據り水際に迫る横津岳障子山、矢内岳等東北に起伏し青空一抹の煙を曳いて駒ケ岳の劔峯遠く北嵎に聳ゆ風光明媚四季の趣雅俗共に賞玩に値す蓋し函館は五港の一として北海道第一の都會なるのみならず津輕海峽の價値近年倍々其地歩を進むると共に倍々朝野人士の注意を惹くに至りたるは獨り此天與の山水のみに非ざるなり

●古代の函館

温古知新函館の沿革起源を尋ねんと欲せば遠く古代に溯つて本道の沿革を研究する

の要あり今諸書を參酌して左に其梗概を示す

祖宗

神武天皇始て東征の偉業を創定し萬古不易の大基業を橿原に占定し給ふと雖も函根以東關左を蝦夷となす十二代

景行天皇二十七年春二月武内宿禰東國より還つて東夷の内日高見の國あり土地沃穰其國人は男女椎結文身人となり勇悍擊て取るべきことを奏上す

齊明天皇四年夏四月阿倍臣比羅夫船帥一百八十艘を率ゐて蝦夷を擊つ今の秋田、能代二郡の蝦夷恐懼して降を乞ふ五年三月其虜を厚く饗して地神を祭祀し時間菟蝦夷膽鹿島菟穗名二人の語に從て後方羊蹄（今の後志國有珠郡）に郡領を置き進んで肅愼を擊ちて歸る

六年春三月阿倍臣船帥二百艘を率ゐて肅愼を討しめ又北蝦夷の來て渡島蝦夷の地を侵すものを擊退す

古代の函館

元正帝養老四年庚申唐玄宗開元八年正月渡島津輕司從七位上諸君鞍男等六人を靺鞨國に遣はし其風俗を見せしむと續記にあり即ち靺鞨國のこと此時を始めとし開元八年は靺鞨已に渤海國と更まる七年の後にあり又多賀城の碑石に靺鞨國界を距る三千里多賀城の西北にあり即現時の魯領沿海元滿洲の一部にして蝦夷地と一葦帶水を隔て往時其來往の頻繁を告けしものならん乎此多賀城碑文は

孝謙天皇天平寶字六年按察使惠美朝猶陸中宮城郡鎭守府に碑石を建つ宮城郡去蝦夷國界一百二十里此里法今の二と有りて惠美朝猶按察使の建られたるものなり蓋し十里に準す

往昔東方の邊陲は皆蝦夷の名稱にして就中熟蝦夷荒蝦夷の名稱ありて動もすれば皇化に叛くの勢ひありとありて其後百二代

後花園天皇享德三年松前氏の祖武田信廣蝦夷の海峽を渡り地を畧定し子孫を彼地に據守せしむ爾來區域を擴張して蝦夷全島より許多の屬島に跨り盡く本邦の版圖に歸す云々

史上に散見する處如上諸說區々なる中にも之等は確說として按ずるの外なく、扨往昔の此函館は史上に於ての蝦夷中の蝦夷とすれば如何なる經營の中に如何なる變遷轉化を受けて今日の現象を告げしものにや地勢よりするも一小島今の東川町より眞砂町に掛け橫斷せらるゝに相違なかるべし

されしことも疑ひなかるべし又千年以上の事歷は想像するに餘りありて知る由なき

孝謙、元正の兩帝時代に於て現今の露領東西比利亞黑龍江方面と交通を開始して盛に貿易せられしは疑ひなかるべく而して比羅夫蝦夷征討軍の上陸あり後年信廣の蝦夷畧定等あり又北蝦夷等の平和破れて干戈を交ゆるあり幾度か血を流して今日の時代を見るに至りしは信じて疑はざる所なり先づ之れが例證とも云ふべきは土中より

の發掘品、公園地より右方の山腹に於ける蝦夷館（別項に說明す）春日町の淺利坂（地下淺利目多し）近くは住吉町に土人の住居して今に何んとなく宇賀浦風にも其風俗の殘り居る

古代の函館

に徴しても明かならん乎

地理こに於ても然り臥牛山は遠く何時代に於て噴火せしや明かならざるも一葦帶水を隔て居る南部の恐山、近くは大沼名所を代表せる駒ケ嶽の火山脈と同系の噴火山なる事跡は慥かにして誰人も認むる所なり而して此地に棲息せし蝦夷人とは如何なる者なりしや口碑に傳ふる所孟浪にして蝦夷種類内部に雜居するもの〻其濫觴を詳にすることを得ざるも景行天皇の御代に於て東蝦の中蝦夷最も強くして邊疆を犯し以て人民を畧奪し皇化に霑はざる今の臺灣に於ける生蕃の如き種類なるは明かなり杜氏通典に曰く東蝦に九種あり又伊吉博德の書には蝦夷人に三種あり曰く都加留蝦夷、荒蝦夷、近きものは熟蝦夷即ち都加留は荒服（古へ松前を渡島にありて史上蝦夷と稱するは皇化に服せざるものを總稱する代名詞に過ぎず源頼朝以降德川幕府に至るまで世々征夷大將軍の官職を置かれたるは奥羽邊陲の蝦夷幷に北海蝦夷を鎭撫するに在りしは勿論桓武の朝坂上將軍東夷（陸奥蝦夷出羽蝦夷津輕蝦夷鰐田蝦夷渡島蝦夷）を膺懲

せしとき皇化に服するものは居り然らざるものは奔つて海を渡り其種を別つて三となすに至れるともありて蝦夷の跋扈繁昌せるは疑ひなく其當時の蝦夷人は如何なる風俗の下に生活せしや其の一般を概記するも強ち無用のことにあらざるべし且つ勇悍に於ても今の露國西比利亞コサック兵我國の薩摩隼人に勝るとも劣らざるは疑ひなからん

男子の容貌裝飾は現住の土人と大差なく髪を被り衽を左にし全身毛生慶に小刀或は弓矢を携へ歩行には跣足乘馬を能くす婦人は耳に連鎖嫁後面を蔽し手を刺し之れを失つて他なきを表する爲か容儀を正するに胸間に矢篦氣とて鏡を懸け左右耳より彩條を穿て青玉金銀銅鐵等を貫きて裝飾となす又深く肌膚を見するを恥づ故に濟るに裾を襲げず子に乳するに布を以て掩ふを常とす而して婦人の常業は薪を採り衣服を織り禽獸を養ふにありて良人出で漁する時は之れを助く即ち子熊を養ふに我子同樣乳を給して養生するが爲め熊祭の時其婦人の哭泣する甚しきも無理ならず

婦人の性情は貞淑にして夫婦の情を厚うし夫の樂を欲して己れは樵蘇漁獵百般のこ

とを身自ら勉むるを美徳とせり

界子は酒を好み又婦を蓄ふる十餘人に至る者あり嫡妻を寡女と稱し夫の家に置き餘は別居させて各生を爲す夫家事あれば衆妾相和し途に遇ひても手を握り肩を撫し相親睦なる骨肉同様更に妬忌せず或は父母老病身孤貧にして生活する能はざる者は人の媒介に依りて之れを納れて養ひ奢侈淫欲の爲めなるのみならず遠地に於て宿泊の時の便に供せり之れが多婦を養ふ一の習慣となり婦其者も右の如く夫の爲めに勞して徃る處のものは皆夫の家に廢めて私財を有せざりき故に妾多き者は益々富めりと結婚法は幼稚の時父母豫約し女家に遣はすに匕首を以てす成人に至て男子婦の家に往々婚し始く留りて終に別居して生を爲す他族を娶る者は之れと異なり媒介人は誰知らざる樣其婦を燈影暗く爐火消なんとするを幸に婿の側に遣て去る婿を迎ふるも其方法なり

寡婦は夫の喪終りて夫の近親に嫁し敢て父母の家に歸らず故に親戚多きものは婦を蓄ふること亦多く長子先づ娶れば居を別ち生を異にす二子三子も亦然り父死すれば家に止まる者其家を嗣げり然れども喪に臨みて慟哭の度甚しく聲を張揚げて泣くこと傍若無人又宴席に於ての喜悦は何んとも云はれず男女相和し相謔しヤイシャマ舞踏として婦人の臀部を叩き舞ふは歡喜如何計りかに思はれけり

右按ずるに幕府中世の蝦夷風俗にして近世の本道土人の風俗と比較し大同小異なるを見れば餘程時勢の進歩したる風俗にて往古も之れと同樣なるや否詳にすることを能はず

●幕府の函館

前記の如く渡島と云へば北海一圓を總稱し蝦夷地と云へば松前と指稱したるが如きに止まりて史乘証據すべきものなく齊明天皇の朝に於ける比羅夫對渡島蝦夷も臆斷にて持統天皇の朝丙申二月越の渡島蝦夷伊奈理武志等に錦袍其他を賜ふと亦元正天

皇より光仁天皇寶龜十一年渡島蝦夷朝化に懐き貢獻闕かすと云ふも此渡島は佐渡島の誤りなりともありて史上に散見する處のもの皆臆測として考ふるに由なし唯聊か信を措に足ものは桓武帝の朝延暦二十年坂上田村麻呂蝦夷を征せし時頑強なる蝦賊も敵し兼ねて碑石を七戸に建てゝ津輕海峽を航したると一條天皇の時陸奥の人安倍國東兵を率ゐ海を航して蝦夷を討ち酋長數名を虜として歸る等にて後鳥羽天皇文治五年藤原泰衡源頼朝と戰て利あらず大敗蝦夷に奔竄せんとし糠部に入るや途にして殺され其將士糠部津輕の者多く逃れて北海の蝦夷地に入る（後世其海を渡りて入りし徒なるを以て渡黨と稱す）是れ本邦人の北海渡島に移りたる抑も始めにて又北海渡島の名稱も此時に起因せり扨之れを端緒として其後如何に開發經營されしや左に主要の點を摘採す

文治五年より嘉吉五年迄二百五十餘年の間史乘に據る可きものなきも嘉吉三年十二月下國安東太盛季南部大膳太夫義政に破られ永善坊道明法師萬願寺寛相坊等を率ゐて南部小泊より北海渡島に渡航す

享德三年八月新羅三郎十七代の後胤若州小濱武田大膳太夫國信嫡子武田彦太郎信廣從屬佐々木三郎兵衛尉後綱工藤九郎右衛門尉祐長等を率ゐ南部田名部より奥尻島に渡る同時に相原周防守政胤河野加賀守政通等之に從ふ（今以て其城跡）信廣後上の國に渡り蠣崎季繁（蠣崎姓は松前家の家老職にて今に其系統あり）に頼る長祿元年五月蝦夷亂を起す志濃利舘を攻む函館領主河野加賀守政通相原周防守政胤其他諸舘主之れを援く信廣上の國の城主蠣崎修理太夫季繁を扶けて功勞あり依て之が女婿となり遂に蠣崎氏を冒す（舘主の濫觴は略す）年六十四にして死す武勇絶倫松前氏の祖蝦夷開拓の鼻祖なり後子孫相襲ぎて章廣崇廣修廣に至る

函館は往昔ウスケシと稱し又原名をウシヨケシとも云ふて土語に入輪の端の義にて後轉訛して臼岸と稱せしものなりとあり長祿年間河野加賀守政通館を築きて此地に據る安文二年其子孫政季城壁を築き空壕を堀り本丸二ノ丸を區別す（今の函館支廳の地なり）永正八年四月蝦夷亂を起し函館を攻む政季之と戰ひ利あらず終に函館陷落し爾來荒

廢に屬すること多年の後慶長年間松前志摩守時代に至り番所を開設し市街を施き船舶の出入を改め漫りに無頼漢の入港を禁じ又蝦夷に對する條目を制定せり

古老の言に依れば加賀守政通は今を距る四百五十餘年寶德年間臼岸に館を築き（今の彌生長祿年間東蝦と戰て利あらず茲に陣沒するまで十餘年間此地に據れり（學校附近）ともあり

寬政十一年正月東蝦夷地浦河より知床に至る迄七ケ年を限り幕府假りに之を措置することを命ぜらる享和二年七月遂に之を收めて幕府の直轄と爲し函館に政廳を置き戸川安倫羽太正養を以て奉行となし三年春函館政廳落成す文化四年幕府西蝦夷地を收め松前章廣を陸奥築川に移封し政廳を松前に遷し松前奉行を置き全島を總管す

文政四年冬十二月更に東西蝦夷地を松前章廣に付す嘉永二年七月松前崇廣に命じて福山城を築かしむ

安政元年正月日米假條約成立米使水師提督ペルリ函館開港を請ふ幕府函館奉行竹

内下野守保德堀織部正利熙に命じて函館近傍の地を收めしむ六年六月函館を開港して互市を允す英米魯清等の諸國領事廳を開設す之れ函館今日の盤賑を致したる開基にして王政復古の曉鐘と共に函館は前途の希望に向つて其曙光を放てり

明治の函館

嘉永六年六月開港して各國に互市を許すや日進月歩の大勢は急潮の太洋を行くが如く海築かれ山夷らぎ以て今日の市街を見るに至れり今明治初年より今日に至るまでの小史を編年的に列叙して其大體を介す

明治元年四月函館裁判所を置き侍從清水谷公考を總督に土井能登守を副總督に任じ五月函館府を建て清水谷公考を知府事に爲す此年十月德川脫走の徒函館を侵す清水谷總督青森に退く二年五月官軍進擊して之を平げり（此記事は函館戰爭の項に詳記す）六月松前修廣を館藩知事となし議定從二位鍋島直正本官を以て蝦夷開拓總督に

任す七月函館府を廢し縣を置き尋て縣を改めて開拓使を置き鍋島直正を長官に任す八月蝦夷を改めて北海道と稱し分て十一國八十六郡と爲し省府藩士族寺院の支配を定め此月東久世通禧開拓長官に三年五月兵部大丞黒田清隆を次官に任す四年六月札幌開拓使廳を開き函館根室を以て出張開拓廳となし七月館藩を館縣と爲し九月縣を廢して函館根室宗谷浦川樺太の五支廳を設け福島津輕秋田志摩山四郡を青森縣より開拓使に移し全道始めて本使の管轄に屬す七月忝くも天皇東巡十六日青森より函館に幸し蹕を駐る一月十八日歸路東京に還幸あらせらる

十四年八月

天皇北海道に幸し三十日御乘艦後志國小樽手宮に着し汽車にて札幌行在所に入り蹕を駐る三日室蘭を經て九月六日函館に幸せらる此時松前修廣の祖武田信廣北地開拓の功績少なからざるを以て特旨を以て正四位を贈らせらる十二月黒田清隆兼官を免ずるを請ふ十五年一月内閣顧問に補し陸軍中將兼參議農商務卿西郷從道を以て開拓

長官に兼任す二月八日開拓使を廢し札幌根室函館三縣を置く殖民山林七重勸業試驗場札幌勸業育種場等を農商務省に屬す同月函館縣廳を統轄す三月十五日函館縣開廳

十六年十月二木彦七函館大經等發起人となり大繩町に函館厩馬會社を設立す

十七年八月十一日より第二回博覽會を七重勸業場内に開會十一月函館區役所を船見所へ移轉二木彦七區長に任せらる

十九年一月函館縣廢止三月函館支廳を置かれ時任大書記官支廳長に任せらる四月函館町會所新築成る十月海岸町に博覽會を開く此年虎列刺病流行患者千百餘名死者七百餘名各學校休業興業禁止す十二月二十八日函館支廳を廢し長官出張所を置き函館區役所を支廳内に移す

二十年四月水上警察署を設置し船政所の構内を共同物揚場に充つ

二十一年六月豊川町與砂町等の溝渠を埋立て道路を改築大下水を設け八月

區役所時大破を廢す

是より曩二十年十一月函館水道敷設工事の議決定し公借金十一萬圓補助金七萬五千圓共有金五萬圓計基本金二十萬圓を以て二十一年十月起工式を擧げ總經費二十三萬六千百二十四圓を以て二十二年九月二十二日水道流通落成式（委しき事は水道の項にあり）を公園に擧げたり此式や我國開闢以來の文明的大工事とて其式も亦會有の盛大を告げたり開港日尚淺きも財界富裕市內稀有の殷賑を極めりと云ふ

二十四年函館山に松杉苗木十萬本櫻苗木三千本公園內に櫻二千本を植付八月橫山吉四郎公證人役場を開設す之れ公證人役場の嚆矢なり

二十五年三月淸國領事館開設（領事は黃書霖）船見町四十四番地に館を建築し六月有志相謀りて北海道議會開設の議を衆議院に提出す八月土方宮內大臣西鄕海軍大臣本道巡視の途次寄港せり

二十六年一月八日財部若函館區長として來り曩に渡邊熊四郎歐米視察の途に上りて

歸函七月小松宮殿下北白川宮殿下井上內務大臣本道巡視の途次寄港此月露國副領事ウスキノーフ任を帶びて來り船見町に領事館を開けり

二十七年一月函館商品取引所設立の件認可二月北垣北海道廳長官號外を以て市街地區劃擴張及其他の件に關せる訓示を發せられたり

二十九年一月二十三日函館築港及水道費國庫補助の件衆議院に於て可決二十八日貴族院通過三月函館銀行設立認可八日函館築港其筋の許可を得六月十三日函館船渠會社創立總會を東京に開き七月二十五日區長財部若灣に轉任龍岡信熊其後任となり八月十六日商業會議所開會式を擧げ二十六日前一時辨天町より出火延燒十六個町二千二百六十五戶當區未曾有の大火なり三十一日金二千三百圓御救恤金の御下賜あり十一月八日函館船渠會社創立認可十九日區內有志市制施行請願書を政府及兩院に提出す

三十年四月函樽鐵道敷設の件認可十月十六日馬車鐵道軌道敷設の件認可九月一日龍

岡區長非職加藤廣說其後任となり七日前夜來未曾有の大雨本道中の損害夥多人畜の死傷少なからず十一月加藤區長非職龍岡信熊復職十二月十六日新任園田本道長官着函す

以上年鑑体に主要なるものを略述し來れば本道開拓の祖としては黒田清隆函館繁榮の先導者としては時任開拓大書記官の功績顯著なるもの丶如く今以て人口に膾炙し北海道の開拓事業、函館の開始及び明治初年の事を問へば人皆黒田、榎本、時任の諸氏を謳歌せざるなし、吾人は今や倒幕四十年の現在を目擊して函館の既往を追想し徐ろに將來に及へば又多少の惑なき能はず左に其一端を漏すは曾に讀者の意を迎へんが爲めのみに非ず

●將來の函館

巴字形の水と臥牛形の山より成立てる函館の盛衰は別記各項に就て知るが如く去る明治二十七八年の戰後各般の事業著しく發達して月に歲に其戸口を增加し外國貿易も亦長足の進歩を示せり日露戰役の當時樺太の漁業に一頓挫を來し財界一時不況を嘆せしことありしも今や北方樺太の南半部を得近時更らに沿海州一帶の漁區を加ふ

夫れ沿海漁業貿易は函館港の獨占事業と稱せしが日露役後殆んど世界的の大問題となりしより內外の視聽一時に集りしを以て從つて其利益の配當に與からんとするもの漸次其數を加ふるに至れり故に皮想の見を懷く者は此一事を引例して函館の前途を悲觀せんと欲するも若し北海の利源は滾々として盡きざるを知り漁業船の帆檣港內の一半に林立するを見ば自己の見識の陋なるを覺知し得ん

人或は函館港灣の不備を嗤ふ港民亦之を知らざるの理なし彼等は嚮きに數十萬金を投じて水道敷設の經營を完ふし更らに巨資を裂りて港灣の改良工事を成就せり而して是皆共に本邦に於ける最大事業の一なるを思はゝ時代の要求は此進取敢爲の閘休を驅りて一層雄大なる計畫に當らしむるは聊か疑を容れざる處なり夫れ沈默は活動の裏面なり沈默なきの活動は之を盲動と稱す函館港民の沈默は蓋將來の大活動を意味するものに非ざらんや

北方海を外にしては無限の寶庫を藏するあり山海の勝は以て內外の貨物を吸集し自

ら其大を成さんとす若し人事を盡して天命を俟たば函館の前途洋々たる春海も啻ならざるなり

●主管者の氏名及其經歷

海は濶きも霧深くして白日尚ほ咫尺を辨ぜず汽笛の鳴報も其効なくして時に或は危險あるを免れず若し夫れ氷山海を壓して來るに遭はゝ文明の利器も亦以て施すに餘地あらんや現時の北海道既に然り一千年前の蝦夷の島根は果して如何なりしぞ

越後守阿部比羅夫蝦夷を討ちて郡領を後方羊蹄に置きしは其勳功赫々として傳はり延暦の朝坂上將軍蝦夷を征して偉勳を樹てしは又史上に歷々たり文治の朝藤原泰衡の殘黨糠部より脱して海を渡り北海蝦夷に入り始めて渡島と稱せり蓋し當時渡島の名稱は蝦夷島全部を指したるものなれば現今の渡島は所謂其一小部分に過ぎざるも又以て古來文華の根源地たるを證して餘りあり

降て武田氏の祖若狹の人信廣一世の雄を以て寶徳三年（今より三百七十餘年前）陸奥田名部の豪族蠣崎氏の後援を得下國藤太を討伐して之に代る下國藤太は舊家の裔にして下國に據り蝦夷を威壓せしこと玆に年あり信廣後姓を蠣崎と改め蝦夷一圓を平らげ其苗胄世々相襲ぎて本道開發の功勞からず然れども政綱の樞府は一隅に偏在して現今の渡島以外に及ばず隨て其勢力微弱なるより寛政十年（今より百享年前）徳川幕府は御目附渡邊久藏御使番大河内善兵衛御勘定奉行吟味役三橋藤右衛門に下命して蝦夷地の巡視をなさしめ其結果北陲の防備一日も忽せに附すべからざるを悟り松前家の主權を收め幕府の直轄に移せり然れども其政廳の偏在せしと民治の方法其當を得ざりしが爲め見るべき成績を擧るに至らざりし享和二辛酉年（今より百六年前）御小納戸頭所戸川筑前守安倫及御目附羽太庄左衛門正養（後安藝守となる）を奉行として之を統治せしめしが文化四丁卯年四月（今より百年前）再び松前家の主管に復し安政元年更らに復た幕府の直轄に收めたり而して之れ皆中央執政者の交迭に伴ふ政府の無方針なりしを示したる一現象に過

主管者の氏名及其經歷

ぎす

王政復古明治の聖代に移りてより開拓使を置き箱館を改めて函館とす蓋し函谷關の函字を取りしものなりと爾來函館の盛運駸々として進み以て今日の大都會を形成せり今左に享和二年より明治四十年に至る本道統治の任に當りし諸公を紹介して其功績を表彰す

享和二	年	箱館奉行戸川筑前守安倫仝四年羽太安藝守正養筑前守と交替して箱館奉行と爲る
文化四	年	松前奉行河尻肥後守元春
仝六	年	村垣淡路守直行
仝九	年	荒尾但馬守成章
仝十	年	服部備後守、伊勢守貞勝
仝十二	年	本田淡路守繁文、

仝十四	年	夏目左近將監信平
文政三	年	高橋越前守重監
仝四	年	松前家復封松前若狹守章廣
仝十	年	章廣子隆之助良廣
天保十	年	良廣子志摩守昌廣
嘉永二	年	章廣六子伊豆守崇廣
安政元	年	箱館奉行竹内下野守保德、堀織部正利熙
仝三	年	村垣淡路守範正
仝五	年	津田近江守正路
萬延元	年	勝田加賀守充滿
文久元	年	稻谷筑後守義明
仝二	年	小出大和守秀實

仝	三年	奉行格新藤鉛藏方凉
元治	元年	奉行格橋本悌藏
慶應	二年	杉浦兵庫守勝誠
仝	三年	外國奉行兼勘定奉行栗本鯤
明治	元年四月	函館裁判所を置き侍從清水谷公考總督に土井能登守副總督に任す
仝	五月	函館府を建て清水谷公考を知府事と爲す
仝	二年六月	松前修廣を函館藩知事と爲す
仝	六月	議定從二位鍋島直正本官を以て蝦夷開拓總督に任す
仝	七月	開拓使を置き鍋島直正を長官に任す
仝	八月	東久世通禧を開拓長官に任す
仝	五月	兵部大丞黑田清隆を開拓次官に任ず

仝	七年八月	參議黑田清隆を開拓長官に任ず
仝	十五年一月	陸軍中將兼參議農商務卿西鄕從道開拓長官を兼任す
仝	二月八日	開拓使を廢し札幌函館根室の三縣を置き札幌縣令に調所廣丈函館縣令に時任爲基根室縣令に湯池定基任ぜらる
仝	十九年一月	札幌函館根室の三縣を廢し北海道廳を置き陸軍少將岩村通俊を北海道廳長官に任ぜらる
仝	廿一年六月	永山武四郎仝上
仝	廿四年六月	渡邊千秋仝上
仝	廿五年七月	男爵北垣國道仝上
仝	廿九年四月	原保太郎仝上
仝	三十年九月	男爵安場保和仝上

主管者の氏名及其經歷

仝　三十一年七月　杉田定一仝上

仝　三十一年十一月　男爵園田安賢仝上

仝　三十九年十二月　河島醇福岡縣知事より仝上

右の如く享和二年より其主管者を更ふること四十餘人其都度施政の方針異なるは論を俟ざるも幕末の前後露國は樺太及び擇捉に渡來し漸次南進して熊石沖に現はるゝや鎖國主義なる幕府は何條默止すべき事体愈々急なるを以て松前家にのみ委するに耐へず前述の如く松前若狹守をして蝦夷を割いて幕府に上地せしむるに至れり其達狀に曰く

蝦夷地の儀は前々より其方進退致し來り候處東蝦夷の方先達て當分御用地に相成候場所永々上地仰付られ西蝦夷の儀は是迄の通相心得仕置の儀は厚く心を用ゐ候樣仰出され其意を得られべく候

とありて東蝦夷一帶の制權は幕府の掌握するところとなりさなきだに幕府は土人の

露國化せるもの多きを配慮し和語を敎へ農具諸種を給し其撫育に力むる等法令を設けて我宗門に歸依するもの或は殺人偷盜の事を嚴禁し且つ唇邊に黥し耳に環する陋風を禁じ龜田外數ヶ所に制札を立たり其施政の要綱は

一異國人萬一來ることあると雖も交易は申すに及ばず凡て通路應對堅く禁制の事附若し疑はしき船等見かけ候へば早速其所の役所へ注進すべきは勿論差圖なくして右体の船へ堅く乘り寄るべからざる事

一蝦夷人と相對の商賣は申すに及ばず凡て蝦夷地に於て私に產物商賣堅く禁止の事

一蝦夷人に對し非分の儀申かけ或は產業の妨げに相成候儀決して致間敷事

一商人とも幷に商船の類私に蝦夷地に入るべからざる事

一何船に限らず蝦夷地へ漂着の節は其處理役所へ早々申出で差圖を受くべき事

弘化三年閏五月亞米利加の軍艦二隻浦賀に來りて船將ヒツテレは奉行に通商互市を迫りたるは抑も上下混亂鎖國の夢を破る端緒となり又

箱館の關のふせもり心せよ

波のみよする御代にあらねば

と水戸烈公が詠せし如く事愈々事實となりしを以て如何に幕吏の肝膽を寒からしめしにや右制札の蝦夷人に對し內國人との產物賣買をすら禁止するに急なる者ありしを見ても鎖國主義の全面を窺知するに足るべしされど時勢の潮流は滔々として已ます種々の苦心皆水泡に歸して文政四年再び松前藩の所領に復せり此に於てか松前家は要地に兵備を設け漁場を藩主の直轄となし弊政を整理せしが復び松前家は之を幕府に返上することなれり幾何もなくして外國の壓迫は所詮の道なく輿論を犧牲に供して開國するに至れり委細は前各項に記せるを以て茲に揭載する必要なきも北海道主管者の歷任氏名及び其功勞を列擧するに當り幕末當時に於ける松前家の行政一班を示すも亦無用の業に非ずと信じて茲に略記せり

明治十九年箱館縣を廢し函館支廳を置き時任大書記官を支廳長に任ぜられ仝年支廳を廢し長官出張所を置き理事官として二木彦七代理し二十三年六月右出張所を廢し書記官を置き開港の事務を管理せしめ區長をして區內の事務に當らしむ二十

六年十月新廳建築の落成を擧げ三十年十二月官制改革區役所を廢し函館支廳と改稱す今函館區役所設置以來の區長歷任者の氏名を揭ぐれば左の如し

常野正義、林悅郎、二木彦七、（二十年區長に任せらる）添田殉、（二十二年仝上）椎原國太、曾我部道夫、財部羌（二十六年書記官にて仝上）龍岡信熊（二十九年仝上）支廳長加藤廣說（三十年仝上）龍岡信熊（三十一年仝上）

（附記）財部羌の書記官を以て區長の任に當りしは外國人の取扱上且つは各國領事館の抗議に依り長官代理の資格を要すればなり

又三十二年區制實施以來の區長歷任者氏名は左の如し

林悅郎、末弘直方、山田邦彥（現在の區長にして三十八年就任）

●函館と戊辰の役

錦旗一度動いて三百年の德川幕府其政權を奉還し慶喜公亦恭順の意を表して暫し身

を忍ケ岡に墨染の衣を纏ひしも上意下風に通せず騎下の士或は上野に戰ひ果ては
榎本釜次郎等軍艦を掠奪して品川より海路函館に航し大鳥圭介等と五稜廓に據り共
に官軍に抗戰せしも終に利あらずして降服せり之れ即ち函館己巳の役と稱する蝦夷
開闢以來の大戰役なり今其の梗概を左に記述す
戊辰より己巳に亘る戰役は實に維新大革命戰史の重要部分なりとす初め明治元年十
月大鳥圭介等仙臺に在りし脫艦將榎本釜次郎等と相合し
謀議一決函館を取り之に據らんとし仙臺を出でゝ函館を去る十里鷲木港に入れり此
時函館知府事清水谷侍從五稜廓にありて佐竹津輕等の兵を各所に分ちて守らしむ然
しども敵は攻勢を取りて愈々函館に逼ると聞き人心恟々清水谷公は青森に退却して
判事堀眞五郎を東京に遣はし其急を報ず此時既に鷲木港の賊軍は兵を二つに分岐し
一は大鳥圭介にて函館に向ひ一つは中央軍として宿野邊村に進む官軍之れを大野村
に迎撃して之れを卻けり大鳥之を聞き新に增兵して忽ち官軍を破り而して一方の賊

將土方歲三なるもの大鳥等の軍と聯絡の付たるを幸とし間道より函館に進入大野村
文月村に陣地を布けり之れ七飯大野村の戰爭として函館の得喪に係る大決戰なれば兩
軍の死傷多く連日の降雪にも不拘力戰奮鬪したりと福山及び其他の官兵事體穩なら
ざるを聞き之れを七飯に迎擊せしも賊軍大擧又頑強に抵抗し兩軍混戰搭鬪數合に及
び賊の大隊大岡某諏訪某を殺せしも尙屈せず官軍は却て打破れて死傷過多賊軍は此
勢ひに乘じて士氣益々旺盛となり終に五稜廓は賊軍の掌裡に歸したり幾何もなくし
て鷲木港の賊艦回天蟠龍の二艦も函館に入り此地方を挾取したる祝砲として軍艦及
砲臺より祝砲を連發せり爲めに白日朦朧函館の天地は愈々殺氣を呈せり是より先榎
本等五稜廓を發して松前城江差等を拔き兵を率ひて五稜廓に歸り此間賊艦開陽丸江
差海岸にて暗礁に乘揚げ沈沒したる等兵氣稍阻喪せしも榎本等は在留各國領事に向
ひて港內の事務を裁決することを通知せり各領事は榎本等を慰諭して兵を撤退せんこ
とを勉めしも應せず謝して答ふるに德川血統のものを以て蝦夷を開拓せんことを以

てす船將書を作り之れを政府に呈するに先たち賊兵投票を以て早くも榎本を總裁に松平太郎を副總裁に荒井郁之助を海軍奉行に大鳥圭介を陸軍奉行に推し五稜廓を本營と定め松前江差に奉行を置き地方の庶務を統轄せり是耶非耶勝利の結果一旦は賊軍のものとなりしも之れに對し官軍は如何なる作戰計畫を立しや函館住民は賊の行爲を慕ひて內心は官軍を嫌厭せり

時恰も明治元年なり官軍薩州細川備前其他の諸藩大擧して江差松前の脫兵を擊ち血戰數日松前江差を取り續いて木古內二俣を襲擊す此時の戰爭には函館戰爭雜話にあるが如く滑稽談あり賊將土方歲三堅守するや四月十九日官軍濃霧を利して一擧大に之を破る賊兵狼狽潰亂せしも兵を指揮する鬼神の如き大鳥のことゝて尻內の兵力を假りて再び官軍を逆擊して木古內を取る同二十五日官軍二俣口を攻しも賊頑強にして容易に屈せず砲聲山岳を震動せしめ尙勝敗決せず發砲千餘發銃身熱して桶に水を入れて冷せしと云ふ明けて二十六日賊兵の猛擊に堪えず官軍百餘步退却せしを駒井

正五郎憤激兵を勵して賊兵を蹂躙し流彈に當りて斃る賊復砦を防守すること元の如く同廿九日官軍最後の總攻擊として海陸兩軍より攻擊し甲鐵艦の百斤彈は賊の大砲を破碎するや賊敗走函館五稜廓に竄入す五月四日未明諸艦函館港に逼る回天蟠龍千代田三艦來りて諸艦を包擊す海水爲めに震動春日艦の彈は蟠龍の機關室を打破り甲鐵の彈は臺場の兵を斃して賊の兵氣大に衰退日暮に臨みて諸艦引上げたり之よりは陸と海との血戰なるも二俣口に於ける官軍の敗衂畧取の困難は斥候の充分ならざるが爲めなり思ひても見よ當時の函館は兵火の爲め今ならば日露戰爭に於ける旅順市街の如くなるべく五月七日官艦有川を拔錨す是より先賊辨天砲臺を堅め砂川より七飯濱に大索數條を張り又水雷を布設せるも官軍水手を雇入れて之を切斷し奏功否や甲鐵春日朝陽港奥に進航して回天蟠龍を砲擊し陽春丁卯は辨天砲臺に對して砲擊戰洛闘す賊艦沈沒回天淺瀨に乘上げたれば賊は之を浮臺となして砲十三門を以て戰ふ此海戰や近距離にて小銃を以て交戰するに足れり又激戰なることは想像するに餘

函館と戊辰の役

うあるべし

八日榎本自ら兵八百に將として官軍の本營七重村に向ひしも赤川大川の伏兵に敗られて利あらず賊死傷甚しく官軍の追撃石川村に至て止まる十一日官軍海陸軍圖を組織して大擧進撃することゝなり甲鐵春日兩艦は辨天砲臺陽春艦は大森濱より相呼應す又陸軍は七重函館大川桔梗野の四つに分ち朝陽丁卯は七重濱の軍を援くることゝなし愈々總攻撃を始めしが此時の賊の防禦方は永井玄蕃瀧川充太郎函館にあり大鳥本多は大川七重濱桔梗野雚田に出で〻官軍を防ぎ回天は辨天砲臺にありて荒井郁之助之を率ひ松岡磐吉幡龍に將として七重濱の賊軍を助け拂曉火蓋を切つて戰を開始す扨戰酣なるや衆寡敵せず戰闘力不足の爲め賊支ふること能はず瀧川千代岡に走り榴彈朝陽の硝庫を爆發し賊艦幡龍之に勢ひを得て官艦に當りしも遂に支ふるを得ず荒井郁之助は五稜廓に至り陽春は大森濱より函館を砲撃し官軍は終に回天幡龍二艦を燒けり賊軍は茲に於て全く戰闘力を失ふことゝなりさなきだに兵氣衰退

桔梗野一本木其他の賊は能く戰ひ能く防ぎしものゝ運の極みの悲しさは土方歲三死し又二關毙れ僅かに五稜廓及辨天砲臺千代岡を此處先途と保持するのみ官軍終に函館を畧定せりされば此日は賊も最終の戰爭とて一晝夜の間力戰健闘砲聲絶ず割腹するものあり或は砲彈に斃るゝものあり死傷多く官軍之を收容せしと云ふ亦して榎本も實に此割腹の仲間に在りしなり當時の感想果して如何なりしならん

十二日官軍五稜廓に肉薄す距離三十町砲彈達せず船將距離を量て更に發砲す百發百中忽まち土壘破壞死するもの七人官軍も之れにて敵の戰闘力盡きたること分明し敢て迫らず黒田了介等は函館病院にある諏訪常吉を以て朝旨の難有順逆の道を告げしも榎本等之を聽かず書を以て之に答へ海律全書を官軍に贈る此日一本木の敵及び辨天砲臺は降服せず戰を挑みしも黒田了介は田島圭藏を遣はして降服を諭さしむ松岡等五稜廓に至て議す十三日圭藏辨天砲臺に至り榎本に會せんことを求む其結果千代岡にて會したれど順逆の理に應せず轅門に相見んと去て五稜廓に還れり是れよ

り先榎本は門を砕きて怯懦の兵を出さしめ郊外の民家を燒拂ひて一決戰を試みんとし戰備を整へたるも十五日永井玄蕃を始め二百四十人の降服あり五稜廓の賊之れを知らざる爲め先づ官軍千代岡の賊に恭順を勸めしも聽かず即ち翌十六日攻めて之を拔く千代岡は津輕氏の砦にて老將中島三郎助其二子等を率ゐて能く戰ふ終に三郎助斬られて斃る二子皆砲門に跨りて割腹す中島は當時の勇將にて年七十有餘今は埋沒して人其人格を知らざるも函館戰爭に於て能く作戰計畫を施し官軍を苦しめたるは中島親子なり殘兵自由行動を取りて處々に離散せり此日黑田了介酒五樽を榎本に贈る添書あり

（書は略す）

十七日曉きに榎本時局の非なるを覺り屠腹し以て衆に代はらんとす衆之を見て涙溜然其死を止めしのみならず皆就刑の議に贊同す爲めに滿城蕭然たりと後黑田了介等と龜田に見て降を乞ひ其の條件を約して十八日榎本大鳥等終に軍門に降れり官軍も

制規の取扱をなし兵器を收め五稜廓を受渡したる時精々五六百人の兵と思ひしもの千〇八十人あり室蘭の兵も來り降りて前後千三百余人の降服に達せりと之れに て函館は全く平定し清水谷公考は函館に入り賊徒の平定を祝さんため諸艦及び外國艦國旗を飜へし祝砲を放つと共に二十一日各滿の兵を大森濱に會し酒を賜ひて且つ戰死者を祭り或は將士の勞を謝し若干の守備を配置して東京に凱旋せり而して六月十二日軍務官をして降服者の處分をなさしむ函館府知事の清水谷公考たりしこと元の如くにて是れぞ戊辰より己巳に於ける函館戰爭とす

●海より見たる函館

函館山は愈々見える騷ぎに船內の臭氣を掃はんとして甲板上に出でたる時の氣心は如何ん遙かに津輕海峽より函館山を眺望したる時の風景は如何、近づくに從ひ趣味益々多かるべく北海の要港として巴字形に奥深く埠頭まで着する間合のある感じは

誰一人として差ふものやある

先づ津輕海峽より函館山を眺望すれば露領西比利亞及び我新領土樺太島の諸山に髣髴して内地の山と其風景を異にせり然れども入港して左右を回顧すれば無量の感に打れざるを得ず

左右山を以て包まれ觀光の好時季は春夏の候にて山麓に白ペンキの家屋段々散點するは各官衙學校若しくは寺院なり櫻花散りて若葉より青葉に移り行く程に何人の邸宅か其間に隱見するは又格別の風致あり夜景の佳絶なるは何んとも言葉に形容し難く郵船會社の棧橋の大電氣は陸と海とを照らし遠く山隱れに見ゆるは函館公園の電氣なり其他大小高低の狀各趣を異にすと雖も天空の星の如く月夜の明鏡に似て遠望の壯絶佳絶なる言語に絶し唯見るべくして言ふ可らず假令詩人ならざるも天來の神韻に一タの俗塵を洗ひ得ざらんや若し夫れ百般の舩燈波間に明滅して細浪鱗波之を浮燿するを見ば忽ちにして水天其何れなるやを疑はん

秋冬の季に入りては何地と同樣梧桐の一葉春戸に落ると共に萬山色付き初めて降霜愈々深ければ遂に常綠樹の時代となる殊に積雪噎々滿地に及ひては雪見の雅遊が内地のそれと大に趣を異にし其風景と相俟ちて嘗て他に於て見るべからざるものあるなり益し之を世に紹介する必す大詩人に俟たざるべからず若し之なくんば日本風景史中豈月ケ瀨あらんや又何ぞ耶馬溪なるものあらんや

●陸より見たる函館灣

花と葉と同時なるは今も珍しからず、先づ函館の好時季は海の函館同樣陽春四月否夏五月初旬に始まり秋は八九月より十月初旬までならん乎其場所に依て風景を異にし風景に由りて看客の感想をして異ならしむるは最も興味ある事柄なるべし

先づ舩見町慈尊寺境内米國領事館田中正右衛門平出喜三郎氏等の別莊附近にて櫻花爛熳の候眼下に函館灣内を見下さん乎帆檣林の如く眼を突くの憂に堪へん遠くは

駒ケ岳の白峰雲表に向て巍然煙を吐き其壯觀云はん方なし又山脊泊は消毒所附近にて高龍寺稱名寺の晩鐘に暮るゝ知内岳より當別燈臺邊を眺むるに夏は涼風徐々と懐に入り諸行無常の念慮は港上の細波に消へて一際の爽快を覺ゆ、有川のセメント會社の煙筒は黒煙を吐き汽船の出入織るが如く納涼は此處のみに限らざるも水は巴字形に奥深く其風趣や昔の偲ばれて想像するに餘りあり

次は公園、立待崎にて之れは函館八景の項に明記するも晩春の頃青葉隱れに公園より宇賀の浦波を見れば詩歌俳句の思想自ら湧出すべく一段高き摺鉢山に登りては勢ひ自然の形勢に俗塵を拂はざるを得ず汐首崎より南部の尻矢崎を見渡すも目の良藥雲耶山耶陸奥の山は遙かに霞みて住吉町より南部の大間まで海上七里とのことなり靜穩の時は便船にて航海するものあり此地は住吉町とて皆漁業を以て生活となし夏より秋にかけて烏賊の漁季には降雨の日は矢橋の歸帆にも似て漁船幾百を數ふべく夜景は格別汐首崎より南部沖に於ける一帶の海面の景色は何んと形容すべきか數千

の烏賊釣船は皆點火して萬家の點燈を掲げしが如し立待崎の秋の月は殊更清澄白波巖を刻みて足下數十丈の岩石に砕く、多角の尖石錯列の狀行人をして覺えず戰慄せしむ而して鰮漁季の散策興なきに非ざるも十一月下旬より十二月冬至に亘るを以て海風餘りに寒く道路又泥濘殊に近年不漁續きの爲め見る程のことなし函館八幡宮は國幣中社にて住吉町の背後、山の中段に鎭座ましまして遠く大平洋の商權を擁護するの觀あり花の頃は神の御惠みに花香るらん心地して何んとも云はれざるの好景なり

又招魂社境内も宜しく秋期境内の鰡釣も一入の興味あり遙か七飯村方面より汽笛一聲白煙を吐き來るは函樽鐵道にて一直線に突出せるは若松町の防砂堤下方に見ゆる煙筒は船渠會社海岸は倉庫旋廻回漕店を以て包圍され冬は雪吹いて見る影だになきも春より秋にかけての港内夜景は一奇觀として是非案内せざるべからず高地なれば皆見ゆるも先づ眺望の場所を船見町邊と定めん乎碇泊燈の火光は市街の萬燈と映射

して水上にも大市街あるかと疑はるゝ許り其光景は横濱に勝るとも劣るべからず初來の客をして拍手嘆賞長安に入る心地せしむるは之れ陸より函館灣内を見たる光景なり

●方角案内

旅客の爲めに記載す、船より棧橋に上りたる時今は交番所あるを以て巡査に尋ぬれば直ぐ明るも之れまでは眞砂町に行く人は往々谷地頭町に間違ひ行く等の例少なからず之れ方角に注意せざる失策なれば棧橋に向て左右に區別して案内せん

（正面）杉林の下に白くペンキ塗の大建物あるは函館支廳にて此處は元町其下は會所町等なり

（右方）下通りは仲濱町、大町、西濱町、辨天町、幸町、永濱町、臺場町、仲町、帆影町、小船町、大黒町、鱸潤町、山背泊町にて（上方）は鍛冶町、富岡町、旅籠町、天神町、繪見町、駒止町、臺町なり

（左方）下通りは末廣町、東濱町、船場町、惠比須町、蓬萊町、寶町、地藏町、豊川町、汐留町、眞砂町、鶴岡町、西川町、音羽町、高砂町、東川町、榮町、旭町、東雲町、松風町、大森町、海岸町、大縄町、若松町、にて（上方）は會所町、元町、相生町、壽町、曙町、汐見町、青柳町、春日町、谷地頭町、住吉町なり

●町名及移動

函館區の面積は東西一里二十六町南北一里十一町にて臥牛形山と巴灣水より成れり現在町數五十三町に區劃せらる其町名は左の如く商業の盛なる或は東京以北の大都會なり

（町名）大町、仲濱町、辨天町、西濱町、幸町、大黒町、鱸潤町、富岡町、鍛冶町、末廣町、會所町、船見町、旅籠町、天神町、駒止町、臺町、山背泊町、元町、相生町、壽町、曙町、汐見町、青柳町、春日町、谷地頭町、住吉町、東濱町、船場町、惠比須町、蓬萊町、地藏町、汐留町、豊川町、西川町、寶町、東川町、榮町、

東雲町、旭町、松風町、大森町、鶴岡町、若松町、音羽町、高砂町、海岸町　大縄町、眞砂町、新濱町、臺場町、仲町、帆影町、小船町、

而して重なる町内に就て繁昌の一斑及び其由來記を掲載すれば左の如し

（豊川町）元遊廓地にして妓樓巍然たりしものなりしが明治六年春火災に罹りて悉く焼失し獨り有名なる武藏野樓のみ其災を脱し今以て其家屋あり然れども此豊川町は海岸に接近し居りて倉庫の便に宜しく遊廓を他に移さん議論起り居りたる折柄なれば臺町に移轉せられたり此火災たるや當時の大火にて死者五人支廳より十五圓宛下賜金あり焼失家屋千三百有余戸家賃騰貴大工の手間賃騰貴市中大不景氣を呈せりと後明治三十二年九月十五日午前九時丸平酒店より出火西風強く延焼數町に及び焼失家屋二千有余戸此時東川町の西別院焼失　兩陛下より四千五百圓の御下賜金ありし等最も慘憺たる歴史を有す今は海産商對清貿易商の淵藪地たり之れ船場町よりの接續地にて倉庫及び貨物積出しの便あればなり

（辨天町）西に於ける大通りにして大町の次にあり明治九年四月廿八日火災あり延焼九十五戸當所は漁業家及び雜貨卸問屋の大なる家屋軒を列ね五六月に至り露領行の漁業帆走船の入港と共に繁昌を極む明治二十九年八月二十六日午前一時出火延焼十六ヶ町二千二百六十五戸焼失し函館未曾有の大火にて卅一日　兩陛下より御救恤金二千三百圓御下賜あり九月一日東園侍從大火視察として來函せられ大火前の市勢とは違ひ火災毎に建築法も吟味されて今は壯麗なる家屋櫛比し更に整然たる觀あり、當町には月六回づゝの夜店市を開く市日は三、八日にて夏分は夜間最も賑へり

（元町）海を抜いて高く山麓にあり今を去ること四百五十余年前河野加賀守政通の築館を始めとなし明治元年四月箱館裁判所同年閏四月箱館府を置かれし等明治十一年四月二十七日出火五十八戸災厄に罹りしも世々官衙及び學校寺院病院等の適當地として今は最も之等の家屋多く重なる、營造物は函館支廳、英國領事館等

にて其眞下通りは會所町とて開業醫多く醫者町の稱ありき因に今以て元町に露國の寺院あるが明治五六年頃は僧侶二人居住して本邦人の生徒二十四名あり教法學を教へ勤行の節はヲルゴールを鳴らして勤めたりと

（末廣町）明治十四年前までは内澗町と稱して今の日本銀行支店より十五六間先まで波打來りて水際は石垣を以て防波堤とせり明治十四年七月地藏町の一部を併して末廣町と改む當町は函館區に於て東京の銀座通りとも云ふべく最も繁昌の地にて大廈高樓甍を列ね商店としては卸賣の豪商多く銀行諸會社あり呉服商の丸井、今井、曲夕、齋藤、西洋小間物商の曲森、渡邊、今市、丸九加藤、角サ星新田、酒醬油商の菊泉林、梅津、金物商の寺井、金二、菓子商の千秋庵、風月堂、萬年堂、砂糖商の逸見、增田屋等は重なるものにて其他馬具、菓物、文房具紙、書籍、時計、洋服、雜貨、煙草商及び和洋料理店あり官衙は郵便電信局にて冬の雪景より も春夏の夜景は電燈昭々として一際の壯觀なり商品の陳列方も漸次進歩して商港

を以て自負するの趣あり此上通りを會所町と云ふ寫眞師あり長崎に於て傳習を受け其術又精妙を極めしが一朝脫疽病の爲め一脚を失ひたるにも不拘尚寫影に心を盡して其名高く東京の内田九一か函館の音無榕山、健強なる體軀を持ちながら其意氣地なき人の模範にもせりと云ふ之末廣町歷史の一般なり

（會所町）元町の下通にて明治十四年七月八日上大工町下大工町の内を併せて今の會所町に改め函館病院其他開業醫多きを以て俗に醫者町の稱あり

（東濱町）明治十四年七月八日堀江町の一部を併合し今の棧橋通りは埋地にして旅客の出入最も頻繁を極め交通機關の發達と共に愈々其狹隘を感ずるに至れり旅館の重なるものはキト宗、澤茂吉、違三勝、田彌吉、角長納代、東平、角大樋口、丸和和田、角上等其他廻漕店、郵船々客待合所、函館稅關等ありて海より見たる函館中

にも夜景は格別人目を惹く繁華の地なり群鷗飛亂鰊鰛を案内し來る頃は三層樓上の風光又一段の趣あり

（富岡町）明治十四年七月松影町を併す（天神町）同上愛宕町、常磐町、梅ヶ枝町、花谷町、坂町、神明横町を併合す（船見町）芝居町、元新町、中新町、上新町を合す（旅籠町）山の上町其他を併す（鍛冶町）茶屋町、片町を合す（幸町）明治八年十二月海岸を埋立たるものなり、（天神町）施籠町の一部は明治四年前までは遊廓地として絃歌夜を徹し不夜城を極めし事歴あるも今は函館病院を有するの外記すべきなし

（西川町）明治十四年七月藏前町、龍神町を併合したるものにて藏前町は元函館の御圍米倉庫の設置ありしを以て藏前町と云へり西川町は此通なる爲め里俗一名藏前通と呼べり當町は古道具、古着商を以て名高く古着を賣買せんとすれば早速西川町に走るべく又一家を持たんとして家財道具の必要を感ずる時は他人依頼より

も自分躬から出陣して此町に行けば目的物を廉價に買入るゝことを得のみならず立所に一切の物をも準備することを得べし先づ行て見るに現金懸直なき處家屋こそ小なれ古着類を陳列したる其有樣は實に見物にて東京柳原を見るの感あり

（蓬萊町）明治七年九月三日出火延燒四十六戸同八年四月十八日出火延燒四百三十四戸仝十四年七月龜若町を併合したる者也其遊廓地となりし起源を尋ぬれば明治四年山の上常盤町より此所に移轉し來りしに始まる其頃の町勢は今の大通は引手茶屋横通りは遊女屋にて宅地割渡法は七間半に奥行二十一間（遊女屋建築地）にて大通りは間口六間奥行十五間にて宅地割渡にならざる以前までは六龜樓と云ふ長屋住居の遊女屋一軒に過ぎざりしが割渡法の實施さるゝや常盤町より移轉したるもの二十五軒あり今此の二十五軒は現存するかと云ふに貸座敷こそ倍數以上に增加すれ一軒も之れなく只古昔の名殘を止むるは現在梅香樓（今は金盛樓）の前の老柳之なり此柳の歴史は町會所より貰受けたるものにて此處に植付る時藝娼妓總出

にて牛に曳せ來れりと今以て口碑に存す又梅香樓の前は大門にて黒の門あり引時は吉原の如く立切りたる者なりと此頃の線香代及び揚代金（お極り）は

藝妓線香一本一朱にてソレから三本で引まで勉める又「アケナホリ」とて夜の九ッ打てば見番に一旦戻りたるものにも今日の如く引手茶屋にお客と隱るゝを事とせず藝を賣るは專業なりしに似たり

娼妓は吉原風に裲襠を着て店張りをしたるものなり、女は南部、津輕、秋田の

もの多くおキマりは上等一分並等二朱

にて流石養氣臺を主眼とする蓬萊遊廓地丈けありて世の景不景氣其土地の人情風俗を知らんと欲せば遊廓に出陣しろデ中々重寶なこともあれども世の憤慨を晴さんとして此處に繼遊を極め或は朝々の別を惜む不孝息子、病妻を棄てゝ家内は亂れ麻の體にも不拘藝妓の舌出すを嬉しがる不德の主人、必らず惡しき夢を見せるなと養氣臺に訴ふるもの數へ來れば擧げて數ふるに暇なからんやだ之れ雪月花の遊

里鄉不老長生の別世界なる以所とす

大樓は丸山樓、金盛樓、金菊樓、武藏野樓、蓬萊樓を擧げ料理屋には小林亭を最とす三千の美姬夢魂頻りに驚きて春宵の短きを悲み立ちて朱簾を揚げて玉欄に倚れば、宇賀の浦波を耳にして北方の碧巒翠峰を一眸に鍾む一刻千金の春霄巫山の夢を買ふともなく一度足を入るれば螢狩せし谷地原も今はかくやと許り今昔の感に打れて無常を悟る緣ともならん

（●●●

投棄場と變じたる等元は勞働者貧民の多く棲息せるを以て近頃まで東川町と云へば侮蔑の念慮絶ねざるが如く出火と云へば見すてソレ東川町と云が如く見受られしも今は湯ノ川村への通路にて鐵馬の通するあり火災毎に家屋の建築法を改良し明治三十年九月の大雨には汚物一掃して後年排水溝渠の設けあり其後汚穢極まる町名を以て目されし名稱は漸次音羽町、若松町に推移して壯麗なる家屋櫛比殆んと面目を改めたるのみならず明治三十八年春榮町、東雲町、旭町、松風町、東川町、新川町の六ケ町に分割され爾後は一際町の體面を改めて往年の東川町は殆んと其影を止めず

（地藏町）　末廣町に續いての繁華なる町なり當町に永國橋とて今は形斗りなるも元は之れ函館第一の橋梁なり現今にても函館永國橋と云はゞ何人も直ちに地藏町を指すべし地藏町横大通り郵船會社へ通ずる（今は目貫の一等道路）道は元大河にして今の遊園地が藏前にて園米を藏するのとき其他諸荷物揚陸に際し此河を上り永

國橋下を通りて藏前に行きたるものなり明治九年五月二十二日出火三十餘戸燒失之れより先き明治六年の豊川町大火の際類燒の厄に遭ひ近くは明治三十三年の大火に延燒したる等なり位置は西に永國橋を境に末廣町北は鶴岡町を境とし追年繁華に向ふのみならず近來停車場の若松町に置かるゝや一層賑はひを見るに至れり、酒造家として丸善菅谷、丸正幽原、呉服商としては山田外山一今加藤、書肆としては小島大盛堂、久星西堀、小間物商としては山田藤代八二西澤金物店としては金二　金三其他各種商店のあらざるなくふときは多少遠くとも地藏町に出でゝ買求むると云ふ最も商賣活潑にて雜沓す

（大町）　末廣町と辨天町の間にありて大廈巍然甍を列ね他町に勝るとも劣るとなく軒頭整然小賣小間物商多く文化三年冬十月の出火に函館皆燒失此結果奉行正養、警衛官石川忠房及び戸川安倫三人協議して井戸を大町に穿ち清泉出づ爲めに此井戸を鼎泉と云ふ歴史を有するも桑田變じて海となるで今は其形跡もなし市日は十

五の日にて人出の多きこと恵比須町に譲らず

（汐留町）明治十年一月六日汐留町出火八十戸焼失す十二年十二月六日堀江町（汐留町豊川町）より出火二百三十戸餘焼失　陛下より金千圓御下賜あり今は停車場の通の一部）

路として往來頻繁、魚市場を以て名高く（鶴岡町）地藏町に接續す豊川町汐留方面の大火毎に延焼を蒙り明治十二年八月九日の強雨に水溢れて人家を浸す（鰮濶町）元辨天砲臺に接續せる地にて明治十一年十一月出火九百五十四戸焼失右砲臺は船渠會社に變じて函館座と云ふ劇場の出來て以來は更に面目を一新す（山脊泊町）鶴岡町の水溢れて人家を浸せし時山崩れて民家を潰し死者三名を出せり

其他猶過去に溯れば記すべき多々あれども餘り繁縟に渉りて案内する必要なきものと信じ大体の説明に止めたり唯最後に函館の重なる天變地異を記して參考に資す安政三年七月大雷雨地大に震動し溜水溢るゝこと丈餘船舶人家を破壊す

明治十年五月海嘯あり平地にて水尺餘に及べり

各地道程

函館郵便局を基點とし各地への里程及び汽車汽船旅客賃金汽車汽船乘降心得宜までに記載す

附　汽車汽船旅客賃金汽車汽船乘降心得

（陸程）

森村　十一里十八町（自森村至室蘭港）　海上二十五里半（自室蘭至幌別）　五里一丁

（自幌別至白老）六里三十丁廿四間　（自白老至苫小牧）五里三十一丁五十一間　（自苫小牧至千歳）六里三十四丁

（自千歳至札幌）九里二十五丁四十五間　計札幌四十五里

赤川水源池　二里十八丁　七飯　四里八丁　セメント會社　三里三十丁

湯川温泉　二里　大沼　十六哩半　小樽　百五十九哩

江差　十九里十七丁　福山　二十五里五丁

（海程）

福山　四十二哩　江差　八十二哩　壽都　百五十八哩　岩内　百七十哩
小樽　二百二十一哩　濱中　二百三十一哩　室蘭　七十九哩
十五哩　濱中　二百三十一哩　根室　二百九十五哩
青森　五十九海里　狄濱　二百六十九哩　横濱　五百二十九哩　土崎　百
四十四哩　新潟　二百四十七哩　直江津　三百〇二哩　伏木　二百四十七
哩　敦賀　四百三十四哩
樺太マウカ　四百哩　仝コルサコーフ　三百二十浬　浦鹽　四百二十四海里

（賃金）

●湯ノ川温泉　鐵道馬車にて往復割引十五錢片道十錢
●大沼　瀧車賃並等三十八錢（小兒四歳未滿は無賃四歳以上十二歳未滿は半賃金）にて僅か一時間内に瀧笛一聲到達することを得

●小樽　並等三圓〇三錢にて今は直行列車午前七時二十分午後七時の二回に發し途中故障なき時は午後七時發の汽車は明朝午前八時に小樽に着せり
●汽船賃金　函館樺太定航同盟會の賃金は並等一人にてマウカまで金四圓（冬季は六圓）マウカよりの乘船賃は六圓（中等は五割增）貨物は百石六十圓（冬季は三割增）マウカの解賃は乘客一名十五錢（冬季は二十五錢）同貨物は百石十圓（冬季は三割增）にて又當港より各地への郵船旅客賃金は左の如し（但冬季及び時化の時は解賃に異動あるものと知るべし而して樺太行は月三回にて出帆期日は新聞に廣告す郵船も同樣）

青森（並等九十錢）横濱（三圓五十錢）狄ノ濱（二圓）新潟（四圓）直江津（五圓にて夏は重に寄港せず）伏木（五圓五十錢）小樽（二圓）室蘭（一圓二十錢）根室（三圓五十錢）岩内（一圓六十錢）厚岸（二圓八十錢）マウカ（八圓）コルサコーフ（六圓）

以上郵船定期の三等旅客賃金にて樺太は月四回西廻は平均三回東廻は十回の航海

規定なるも出帆期日は新聞に廣告するが如く一定せず又艀賃は青森、當港、室蘭を除くの外自辨にて通船組合の規定賃金は左の如し

一金拾三錢　商船浮標近傍片道一人に付艀賃
一金二十錢　往復
一金十五錢　東西浮標近傍片道二人以内艀賃
一金二十三錢　同往復
一金二十五錢　浮標を距る西北百間以内片道二人に付
一金三十五錢　同往復
一金四十錢　燈明船近傍片道一人に付
一金六十錢　往復
一金十錢　船客送迎人往復一人に付
一金十錢　本船にて待合一時間增艀賃

一金十三錢　手荷物十貫目以上十六貫目迄一個に付賃金

一個に付賃金十六貫目以上は手荷物外として荷物相當割合の增賃金を申受くべし

一金七錢　手荷物三貫目以上十貫目迄一個に付賃金

以上時化は五割以下の增賃金を申受くることあるべしと

本道移住者よりは本定額の半額を申受くるものとすと

手荷物は一個に付金五錢宛なり

右の外汽車汽船にて旅行するものは左の通行稅を要す

二百哩又は二百海里以上
一等金五十錢　二等二十五錢　三等四錢
二百哩又は三百海里未滿
一等金四十錢　二等二十錢　三等三錢

百哩又は百海里未満

一等金二十錢二等十錢　三等二錢

五十哩又は五十海里未満

一等金五錢二等三錢　三等一錢

汽車汽船を問はず乘る時よりも降る時は注意しろと云ふが如く假りに青森より入港の汽船は函館山を見て碇泊の場所に徐々進行をなし汽笛一聲投錨せんか旅人宿の客引は我先にと船室に突入しワイ〳〵騒ぎ立てゝ手荷物に紙札を付くるも行きたければ行くので一向おカマイなきものゝ旅人宿に至らず早速滊車にて小樽に向はんとする初來の客は番頭の口と其親切を無にして一飯幾千と云ふ宿泊料を拂ひて後に馬鹿見るもの少なからず之は番頭の口と輕蔑したる咎めなれば致方なきも直ぐ滊車に乘んとするものは艀船にて聯絡待合所に向はるゝは輕便の上に費用は除けることなれば此邊は心得居りても然るべし

又上陸の心得を記載せんか

▲鐵馬　は湯の川線を除くの外何區にても二錢にて荷物は手に持切れざる重量物は一個に付き二錢を要す

▲腕車　は警察署の規定は左の如く風雨惡路の時は三割增にて之より格高の賃金を要求するものなく又東京の如く田舍の客と見て態々遠方を輓廻し不法の賃金を強請する惡車夫のなき代りには車体の美麗ならざる處は容赦ありたし

五丁以内	七錢	五丁以上十丁以内	十錢	十丁以上二十丁以内	十五錢
二十五錢	二十丁以上三十丁以内	二十錢	三十五錢	一里迄	四十錢

區内終日雇六時迄　一圓五十錢　六時ヨリ　待車一時間　八錢

但二人にて二人乘を輓く時は一人乘の賃金の二倍の一割增終夜雇は三割增なり

●家屋の構造

家屋の構造

茅茨葺の家根は石止めの長柾家根となり、鱗葺の家根は瓦亜鉛板の家根と變じ、圍(サクリと云ふ)も板より壁となり、天井なきものは節付の粗末板ながらも裏板張りとなり火災毎に家屋の構造法は改良されて舊式の家屋は年毎に新規となり、既に道廳令を以て屋上制限令を設けられたる等全然舊態を脱して完美を盡すに至れりされば大厦高樓和洋折衷の家屋少なからざるも就中近來評判の高きものは有江金太郎(東川町)明石正三郎(汐見町)氏の家屋にて明石氏の家屋は和洋折衷の模範的に構造したるものとも云ふべきか何程の建築費を要せしや外面より見れば餘り鄙しからず之れに反し有江氏の如きは表面は大金を費したる割に引立ず種々の批評免れざるも室内は馬鹿に張込みたるものにて裏板は勿論障子は神代杉の張合にて柱類は皆紫黒檀、便所は珊瑚の塗込みと云ふ大仕掛なりし、去れど只遺憾なるは後は如何なる大家が宿泊するや之れに相應の庭園を造り得るや否やにあり

●人情風俗

一般よりすれば人情は正直質朴の方なるも無智に起りて不正に終る風免れず風俗は質素より奢侈節約より吝嗇とも申すべき乎之れ時勢の然らしむる處にて無據、壯年と老者、男子と女子、雇人と主人其營、其家の家風に依て習ひ性となる譯なれば程度問題に拘泥せず左の記事に就て相當の代名詞を見出されたし

▲今の學校生徒が老爺株とならば多少趣きを異にすべくも只今の處は根が敎育に關係薄き一代上りの親方衆第一人に物を聞くと云ふことを恥とし暗に聞取りて知らぬ顔の半兵衛サンを極め込むのみならず義理又は恩誼と云ふことに就ては其時許りで總べて此風なりし之れ樂より苦に向ふ健強の意思を有せざる爲めならんか

▲日露開戰以來軍　の奉公として大に節約主義となり又園田長官の勤儉貯蓄奬勵法も與りて力あり盂蘭盆會正月の贈答品は虚禮形式的として廢されたるが其以

前は商家取引先は勿論目上のものには非常に義理を立て目下のものは後廻しと云ふ風になり結局は第國主義の收賄して其罪を隱蔽し阿附するの趨勢に傾けり

▲近きより遠きに及す慈悲心は更に衰頽せしが縁者は如何に貧苦なるも祖先の法要或は死去の時は慈惠院に寄贈するを名譽功德とせり之れ新聞に出で名義の世間に知らるゝ僞善を意とする許りにあらざるべし

▲子供の服裝も敎育者は一定の服裝を定め呉れたは貧乏者に取りて大に助かりしが其以前は貧者は子供の爲めに喜怒愛樂を大に異にせり金持は子供の衣服に大金を掛けて試驗の時はマルで競爭の姿を呈せり先づ子供の養育法は松方正義サン等を眞似たが間違なく考へらるゝが此頃は又乳母車とて唐製の高價なるものが流行し來れり

▲明治五六年頃までは土人織を着して其上に博多帶を卷き親方衆は之に甲斐絹裏を附けて皆今の女縮緬帽子を被りたる者なりしが世は進行して〳〵通機關の發達す

るや人智も之に促がされて世の風潮を追驅する樣になりカチンの半茶よりメクラジの半茶、女の髮は島田、銀杏返し何處ソコのおカアサン附にならざれば丸髷を結ず男はワザ〳〵半茶の上に土人織を附けて目クラジの半茶を着れば人の目に立ちて冷評かされたるものなり

▲扨明治の聖代となり交通機關の發達に促がされて各國人の入り込むや半茶はバフリと長くなりバフリは總甲斐絹裏附となるに至れり之は近頃の變化なるも今日に至りては現に見らるゝが如く女は丸髷より横兵庫、束髮より廂髮（昨今）、白齒より金齒、合羽より東コートとなり何れか女郎やら令孃やら妾やら夫人やら服裝混亂し男も同樣バフリより七子の羽織、洋服姿と變じ鳥打帽より山高、中折より中山帽、下駄も其通り元は雜木なりしも今は桐の柾目に一夜作りの紳士となり衣服の縞柄は元祿摸樣より桃山となり東京の人は函館は中々着物に凝り居ると云ふが如く一寸金さへあれば金の指輪蓄妾此後如何になり行くべきものにや復舊の傾きあ

るも流行極まつて今にも扮裝は總洋服とならん風情仲買連中にも弗々見受けられし嗚呼流行とは水の流れ行くにや

▲葬儀に何百圓と云ふ造華を附くる樣になりたるは靑木控訴院長死去の當時よりにて日露戰爭此方は實利主義となり贈華の斷りを新聞に廣告する樣になりしも造華の美極まつて樂隊附となり緣者にもあらざるに財産家の葬儀には喪服を附くる等之れ何れ社交の一なるべし死者地下に何んと答へんや

▲衛生は春秋二期の大掃除あり室內の掃除は殆んど競爭的に勵行するも身体と云ふ衛生に就てはマダ幼稚にて財産家の如きは運動よりも飮食の營養を主とし殊に紳士と云ふ側に健康を害するもの多き樣見受らる

▲金錢貸借上に就ては堅く約定を守るもの丶如し然れども信用取引は漸次薄らぎて稍や擔保制度となりしが今以て一ヶ月或は一週間支拂の存する點は元の信用貸借の面影あるも針小棒大の利益話しに氣迷ひて損をなすを見れば又性粗暴にして調査するの觀念なく、事業家を山師と云ふて嫌忌する所以ならん乎

▲雇人奬勵法に就ては矢釜しいが尤もの次第にてイクラ雇人とても牛や馬であるまいし僅か一圓や二圓の給料で此物價騰貴の世に日曜もなく鷄鳴より星を見るまでならマダしも十時過ぎまで使役されては學門は愚か到底健康を保つことは覺束なしされば雇人の使込を責ると共に多少親方にも酷なる咎め免れざるべし

▲婦人は樂して夫の勞するは我國の常態なれど函館は殊に甚し之れ工業地にあらず物を賣買するにも十錢に何程とやうに樂なる點あるに因るならんも家庭敎育には一向顧慮せず三人寄れば夫の意氣地なき、他人の財産、劇場、衣食住等の話位に過ぎず之れ餘り氣樂なる爲めか嫉妬心の深き爲めか智識の度低きに因るか研究するの要あるべし

●營業者數

明治四十年六月函館警察署に於て調査せる警察の取締に關する營業者數左の如し

新聞雜誌轉賣業	九	銃砲業	五		
銃砲製造業	三	同修繕	四		
火藥業	四	煙火製造	二		
同販賣	一七	古着商	一、三二九（兼業 二七三）		
古道具屋	三一五（兼業一、四〇七）	古書畫業	二〇（兼業一、四二八）		
古銅鐵	二三（兼業一、二八七）	潰金銀	二〇（兼業一、二四七）		
古時計	二一（兼業一、四七三）	古刀劒	二〇（兼業一、五六一）		
質屋	一四四	彫刻業	四五		
人力車業	九〇	乘合馬車業	二		
同馬橇	三	人馬繼立	一		
鍼治	九八	灸治	六四		

按摩	一三八	賣藥部外品製造	一一		
同販賣	四四六	湯屋	八一		
理髮業	三四〇	旅人宿	七四（兼業六）		
下宿屋	一六〇（兼業 三）	木賃宿	七六		
雇人口入業	八九	料理屋	二九三		
氷雪請負	一二五	氷雪行商	一一		
清凉飲料水販賣	二六七	清凉飲料水製造	九		
賣肉業	八〇	牛乳搾取業	一〇		
同請賣	二一七	劇場	四		
寄席	一四	遊戲場	九九		
貸馬屋	二二	藝妓	一五三		
貸座敷	七九	娼妓	五五一		

營業者數

酌婦　七四
案内業　二
飲食店　一八八
同製造　一
屠畜場　一
狭隼射的場　一
代書　四七
火工場　一一
乳製品販賣　九
同請賣　六六
化製場　三

營業種類　附旅人宿其他

天與の良港に祝福して發展せる函館港は交通機關は云ふに及ばず商業、金融其他文明の利器一として備はらざるなし今其重なるものを紹介して讀者の好奇心に投ずる迄商業てふ觀念の未だ發達せざる爲めか一利一害で之を勵行するは困難なり先づ

（物産商）　函館物産商組合員二百十二名にして組合規則は中々嚴に設けられつゝあり

（東濱町）の三氏ならんが着實家として老練家としては又十谷津菊右衞門（船場町）山三鱗松田（豊川町）氏等の聞えあり之れに次で福泉榮藏、橋本金太郎、其他數氏あり

（米穀商）　産地よりの委托米買付米を廣く販賣する專業家の住居する處は古來海陸の便宜上西濱町辨天町にして專業家は二十二軒あり中にも小手筋にて能く切り廻るは井守、丸萬高橋氏にて先づ注文買或は廻米に向て引取らうかと靜かに出で居るは太刀川善吉氏ならん乎其人名左の如く去る明治三十二三年頃に比較し運輸機關の發達したるにも依れど今は其形跡もなく商慣頓んと一變斯界の年々衰退さるゝが如く思はるゝは遺憾なり

肥料商としての大家は元商業會議所會頭岡本忠藏（末廣町）次は川名得太郎（大町）橋本丸一郎（仲濱町）岩出（同上）前田（末廣町）森本（船場町）の諸氏なり對清貿易商としての敏腕家は船場町の佐々木忠兵衞、鰊の寺尾正藏（鶴岡町）昆布の丸加村上鮭鱒商にかけては岩崎岩次郎（幸町）森卯兵衞（仲濱町）氏の呼聲は高かりき

※小川彌四郎、公濱崎、仝中津、公橋谷甚右衛門、㊁新、㊂鍋田、㊃今井、公後藤、刃石澤、分相馬理三郎、刃太刀川善吉、二西原、※松田、分川上與左衛門、㊄高橋善平、分横山、公西口、㊀相馬健一郎、刃鎌重、刊田中、北海産業合資會社、井守、㊇高橋、

（印判師）何れも専門の技能を有し居れど大抵似り依たりであるが獨り三好天山は十二刀法に依らざるものは篆刻家に非ずなど稱し自ら篆刻法活論に通じて技術も遙か一頭地を抜いて永きよりの住人として老練家として人の許せるより大言壯語傲放の方にて一寸依頼するも普通の手間賃にては容易に彫刻せず夫丈け腕前は慥かなるもソコは奇人にて流俗の外別に一家を爲せり齢既に耳順なるべし詩作に長けて竹木、象牙水牛等の彫刻を能し、版木としては人物花鳥文人畫の彫刻に妙を得扱人名十八番を掲ぐれば二十名にて

（金銀玉石、水晶、銅鐵、琥珀、瑪瑙、珊瑚、瑠璃、竹木、牙角）三好天山（谷地頭町）同木村嵓山（相生町）同木村幾太郎（末廣町）

（竹木、象牙、水晶、水牛類專門）印判彫刻師長尾常助（大町）同湯田文治（末廣町）同矢澤大四郎（惠比須町）同三宅末吉（同町）同第一勸工場内（同町）同末廣町勸工場内同函館勸工場内大柄同蓬萊町勸工場内同和泉榮助（鶴岡町）印判並版木北村嘉一（同町）版木彫刻師三輪富三郎（末廣町）同植島市藏（相生町）同兎月堂中井源次郎（末廣町龜田屋小路）同手島平太（寶町）同三宅他作（地藏町）同井上（大黒町勸工場内）同松岡時榮（會所町）

東京は鐵筆彫刻流行するも函館は未だし多くは茂木氏（春日町）の版下に基きて皆彫刻せり

（旅人宿）水は銀波金波を酌きて清涼限りなし主人の叮嚀懇切は旅情を慰籍して客意に行路の心を失はしめ女中の斡旋周到なるは至れり盡せりなり乘降頻繁棧橋の繁華を前にして巍然たる三層樓の一等旅人宿は角上、違山勝田、キト宗澤、角大、角長等を始めとして各旅店を案内すれば其數左の如し

（壹等）東濱町角上岡七郎兵衛、丸和和田惟一、遠三勝田彌吉、キト宗澤、角大樋口重親（旅人組合副取締）角長納代定吉、キト、荻原豊次郎、會所町北辰舘石田辰太郎、青柳町公園内函館ホテル中村久次郎

（二等）仲濱町丸百茶郷六太郎、末廣町角サ佐藤辰五郎、同角キ草宮ナカ、同丸一小山内敬六郎、同金森甚吉、同渡邊三代吉、下原留吉、遠山廣吉、丸八島田りせ、曲長藤本喜三郎（取締）仝宮崎ヨシ、舟場町赤川デン、豊川町内山金兵衛、仝渡邊タメ、鶴岡町佐藤カセ、谷地頭町嶋崎イト、末廣町吉江助太郎、若松町林フデ、仝白山金助、東濱町金子彌兵衛、

（三等）三十三軒（氏名略ス）

但迎送人一等四人二等三人三等二人の規定にて一等は格別なるも二等三等は家屋座敷の數に拘はらず迎送人の都合より三等のものは二等營業するものと知るべし

而して止宿料定額は左の如し

（一等）（上等）一泊三食二圓三十錢

食一圓四十錢一泊二食一圓十錢一食六十錢（下等）一泊三食一圓一泊二食七十五錢

一食四十錢外國人は一日無食二圓以上三圓以下

（二等）（上等）一泊三食一圓五十錢一泊二食一圓二十錢一食六十錢（中等）一泊三食一圓二十錢一泊二食九十錢一食四十五錢（下等）一泊三食八十錢一泊二食七十錢

一食三十五錢外國人は一日無食二圓以上三圓以下

（三等）（中等）一泊三食九十五錢一泊二食八十錢一食四十錢（下等）一泊三食七十錢一泊二食五十五錢一食三十錢外國人は前同樣

（移住民）三食料四十錢一食料十四錢宿泊料五錢七歳以下四歳迄三食三十錢一食十錢宿泊料五錢

（藥店）藥九層倍と云ふも今はソンなに利益あらざるべし新聞に高價の大廣告するは三ツの中に一ツ賣當れば宜しいと云ふ投機的の遣方にて今重なるものを紹介すれば左の如し

國領(辨天町)高橋、千島、新谷。網塚(大町)常野、小林。鈴木(大黒町)川口。鎌内(末廣町)香中、濱野。山本。野中(恵比須町)福本、柴田。金田(地藏町)片山、佐藤、白崎。二八堂(鶴岡町)岡田。富谷(若松町)相馬(海岸町)金子。輕部(東雲町)淺井(榮町)渡邊。柏倉(蓬萊町)柏谷(相生町)等

(呉服店) 現下の境遇を見て過去に及ぶは人の情なり丸井呉服店主今井氏の武富方に奉公せしは昔の事明治五年札幌に開拓使廳を設置さるゝや氏は札幌に赴き呉服商の旗揚げをなしたる久〻一のヤス子姉サンと人に持囃されて千辛萬苦と奮闘し性來の力量を發揮して現代の旺盛を致したる等立志の實歷數多あるも餘白なき上に案内の主意に戻るを以て記載せず單に呉服太物店として重なるもの丶氏名印を紹介せん

(末廣町) 丸井今井、曲タ齋藤(地藏町)一山十加藤(辨天町)久〻一岩船(鶴岡町)

卸商としては

(末廣町)塚本、角小杉、川毛山(大町)小野(地藏町)山田外山(地藏町)笹野、大又丸藤浪、曲彦安部(若松町)乂丸等

瀧等

(金貸業) 人呼で高利貸と蛇蝎視するも銀行の下に立て能く市中の金融機關を補助するは金貸業なり今有名なるものを掲ぐれば左の如し就中相馬氏の如きは金錢の運轉と云ふことに就いては銀行も及ばざる勢ひなり

相馬哲平(大町)松岡陸三(壽町)岩佐喜太郎(會所町)龜井邦太郎(東濱町)近藤孫三郎(舟場町)渡邊長藏(仝町)小島益三(鍛治町)石館兵右衞門(曙町)泉孝三(曙町)

(財産家) 一萬二萬圓の資産を有するもの屈指に遑あらず十萬二十萬圓となれば一寸屈指するの遑あるも先づ子供まで知れる有名の財産家は渡邊熊四郎、相馬哲平、杉浦嘉七の三氏にて杉浦は素封家として渡邊熊四郎の隱居渡邊孝平氏は公共事業の熱心家として有名なり

(辯護士) 馬場民則(會所町)八木橋榮吉(仝)佐藤槌之丞(相生町)三坂亥吉(壽町)横井道直(仝)谷川定次(末廣町)山本喜勇(青柳町)江口淡(仝)山本平藏(仝)中名生知

徳(仝)山田辰之進、峰本銀次郎(春日町)伊藤忍(曙町)高橋泰(青柳町)高橋文五郎(曙町)伊藤隆眞(恵比須町)黒住成章(富岡町)等

(公證人)　横山吉四郎(會所町)伊藤高秋(末廣町)

(執達吏)　伊藤廣吉(青柳町)中根鎭八郎(春日町)

(漁業家)　本道の産業は海産を主とするを以て函館人士中漁業を以て成功したるもの少なからずされば豊漁なれば景氣忽ち外に上り不漁なれば憐れ意氣銷沈何となく大風後の觀あり本項中に網羅せる營業者も漁不漁の影響にて興廢するもの亦少なからず今日の大廈高樓は明日の裏借屋住居と變移するもの重に此漁業にあり故に日露戰後の漁業條約は著しく漁業家をして奮起せしめたり現に六月下旬は帆走船の港内に碇泊するもの百五十餘艘に達し帆檣林立眞に近年稀有の壯觀を呈せしも無理ならず之れ皆露領沿海州に赴く漁業船にて我外交の拙劣なるを罵り漁業季に間に合はんとして一日千秋の思ひをなせり而して沿海州漁業は之れまで露國官憲に束縛せら

れ所謂創業時代とも云ふべき有様に在りて成功したるもの少なきも樺太は疾くに成功時代に入りて一代の資産家となりしもの少なからず今其重なる沿海州、樺太漁業家の氏名を紹介すれば左の如し

ニコライス　鮭鱒

高橋松太郎(大黒町)　細野良吉(西濱)　小林榮次郎(富岡)
小川彌四郎(辨天)　坂井定吉(辨天)　久谷久五郎(大町)
大道和作(幸)　遠山五某(幸)　鎌田文助(舟場町)
曲二山崎某(同)　大野某(辨天)　永野彌平(鍛冶)
水間三左衛門(辨天)　内山吉太(天神町)　小熊幸一郎(西濱)

樺太

能登豊吉(西濱)　相馬寅之助(若松)　西村利光(住吉町)
カム、オコック　鮭鱒　角野梅次郎(春日)
川口金次郎(東濱町)　山田竹次郎(會所)　桂久藏(辨天)
石垣秀助(西濱)　米林伊三郎(同)　内山祐平(青柳)
品田鹿藏(西濱)　山田竹次郎(會所)　笹野榮吉(辨天)

次に漁場仕込み或は海産物委托問屋として西出孫右衛門(西濱町)松橋龜作本庄丑吉(仲濱町)氏等あり

（回●店●）　郵船會社回漕店は

和田惟一（東濱町）納代定吉（同）坂井正義（同）丸三田邊（仲濱町）川口晶三（同）の五軒にて右の外單獨に海運部回漕店をなし居れるもの左の如し

金森合資會社回漕部（舟場町）丸本山本（同）共同回漕部（西濱町）工藤海運部（地藏町）角二阿部（船場）尼崎汽船北海部（稅關前）高橋（東濱）一山庄吉田（仲濱）樋口（東濱）板村（船場）藤野（東濱）山縣（同）北海産業會社（同）共榮（仲濱）丸岡飯岡（東濱）前田船舶部（東濱）丸久回漕部（仲濱）等

（船●具●店●）　金森（西濱町、船場町）函濱船具會社（東濱町）

（毛●皮●商●）　川丁（末廣町）松下熊槌（同）中村新八（東濱町）馬具商としては丸松松山吉三郎（末廣町）川丁等なり

（靴●直●）　川丁（末廣町）山力（同）並木（同）等重なるものなり

（小●間●物●）　角ヲ星（末廣）丸九加藤（同）丸と長田（同）八二（地藏町）山田藤代（同）曲タ竹田（惠比須町）

（時●計●商●）　重なるものは金森（末廣町）曲久（同）其他小資商の大なるもの澤山あるも重なる卸商のみ此處に記載して以下略す

位ならんか時計師の看板にて販賣を兼ね居るもの多數あるも略す

（開●業●醫●）　函館病院を除くの外至る處開業醫あるも最も多き町内は會所町にて今重なるものを掲ぐれば左の如し

內外科渡邊健藏（會所町）後藤病院（東濱町）豐川病院佐藤廉（豐川町）函館外科病院（會所町）婦人科藤野病院（同）伊東（同）櫻井（同）齒科大條政吉（同）大條（相生町）眼科田中（會所町）同町田（同）齒科高木（富岡町）同長谷川（會所町）槇山、北川（富岡町）耳鼻咽喉科鈴木精一郎（元町）同田中浩（惠比須町）高松病院（辨天町）深瀨病院（船見町）橫山病院（同）婦人小兒科藤野（惠比須町）同菊地醫院（鶴岡町）由利病院（惠比須町）等にて私立病院記事は別項に記載す

其他內科あり外科あり小兒婦人、齒科あり各專門を以て開業し居るもの少なからざるも畧す

（硝●子●店●）　製造卸小資を廣くなすものは曲羽安齋（惠比須町）角大佐野（大町）曲半（鶴岡町）なり

（唐●物●店●）　金森（末廣町）今市（同）丸井今井（同）西島尾川口（東濱町）等は重なるも

のなり

（質屋）馬琴の質屋庫でなくとも不景氣程入質するもの多く受質するもの少なくして和服と洋服、掛物と刀劍の相談或は永らくの入質に呻吟し居る質物の宿何程あるや、一六銀行とて各町に出張所を設け居る柿本作之助（恵比須町）又ヨ龜井邦太郎末廣町龜田屋小路）を始めとして其數少なからず

（陶器店）寺井（末廣町）九同森（仝）曲吉糸崎（大町）等重なるものなり

（茶舗）常野（大町）山西小西（末廣町）山大（地藏町）

（洋服店）仕出屋は正柳組（末廣町）注文仕立處は金森（末廣町）丸井今井（同）三浦（同）横山（相生町）其他處々にあり

（銃砲店）三田（會所町）髙谷（同）富澤（末廣町）

（石鹸香油）熊谷（青柳町）井印 内山（末廣町）㊇長田（末廣町）巴石鹸製造所（東川町）

（鐵物店）曲二平田（末廣町）重松、寺井（同）伊藤（大町）曲ヨ、金二（地藏町）

其他鍋釜及物類の販賣店到る處にあり

（青物屋）山千坂本（末廣町）九安釣田（東濱町）山太白戸（地藏町）等なり

（材木商）浦田（仲濱町）薮越（艇澗町）大村（眞砂町）濱岡（若松町）石塚（眞砂町）其他少なからず

（雜貨卸商）久保久一（西濱町）濱崎（同）山ヨ新（同）酒谷小三郎（同）奥寺仁三郎（仝）梅津福次郎（末廣町）橋谷（辨天町）山忠伊豫田（東濱町）三輪（幸）大庭彦平（幸町）等にて其他は卸小賣等なり

（漬物屋）夏季の頃水兵は上陸して函館程大なる漬物屋のある處なしと云ふが如く東濱町の石塚彌太郎氏を卸屋として惠比須町の山平、一ヨ等は小賣の重なるもの

（煙草商）官製煙草元賣捌人は酒谷、新、濱崎、久保、三輪、奥寺、鹽谷七人の合資になれる官製煙草元賣捌所合資會社（末廣町にありて四十年五月二十五日指定）を始めとして單獨には曲三細川（末廣町）仲村（同）黒田（同）梅津福次郎（同）峯友茂平

（地藏町）あり

（鹽販賣）　鹽販賣組合（仲濱町）北海産業會社（東濱町）奥寺仁三郎（西濱町）津田甚右衞門、（同）山上松野（東濱町）

（請負師）　福田由松（開發）山口利太郎（天神町）鈴木二谷地頭）永森福太郎（青柳町）其他十數名あり

（寫眞屋）　田本研造を始めとして技術は扱置き先づ聞え居るもの左の如し

田本研造（會所町）栗田（末廣町）小林（大町）紺野（惠比須町）田中（逢萊町）等

（紙屋）　山ヨ新（大町）中一奏貞三郎丸加黒田（末廣町）角〆（地藏町）

（文房具）　靜光堂（末廣町）一二堂（末廣町）西堀（地藏町）小島大盛堂文房堂松邑（相生町）其他兼業として到る處にあり

（書籍店）　魁文舍（末廣町）西堀（大町）一二堂（末廣町）西堀（地藏町）は重なるものなり

（酒造家）　賞谷善司（地藏町）小山富藏（大町）岡田勇作（大黒町）菊泉（末廣町）其

他鹽原、東出、小森、丸中中村等なり

（菓子商）　老舗として聞ゑ居るは

西洋菓子、精養軒（相生町）東洋堂（會所町）東千秋庵（末廣町）風月堂（同）富月堂（大町）開運堂、相生町）開化堂、會所町）柳田（辨天町）萬年堂（末廣町）三星（大町）

等にて其他各町に奇麗なる菓子屋ありて何程甘黨にても心配は御無用なり

（新聞賣捌所）　愛新軒（末廣町）日新堂（相生町）報知新聞支局（仝）朝日、萬朝（富岡町）なり就中、古さは愛新軒にて故種助七氏の如きは人知らざるものなし

（砂糖商）　逸見久上（末廣町）增田屋（同）三ッ星渡邊（同）九一小嶋（同）等は本業家として有名なり

（書畫）　書は石川重友、畫は北條玉洞、北山昊文、大塚和樂、油畫夏井潔等は重なるものにて大塚翁の如きは畫號和樂と稱し年七十九歳なるも書畫共に堪能なり

右の外記すべきこと澤山あるも各商店陳列に美を極め一寸出れば物品の購求に差支

なく看板に新聞の廣告に不自由を感ずることなく偖り繁雑に亙るを以て以下畧する
こと丶せり

勸工商場

蓬萊町に蓬萊、恵比須町に第一、西川町に函館、大黒町に大黒、都合四ケ所の勸工商場あり、工商に關するものは何品とて之れなきはなく、陳列法も大に進歩して京阪に讓らず、勸工商場は現金主義にて正札附きは動かすべからざる方針なるも因襲の久しき商人よりも購求者は容易に改むること能はず、第一正札なれば買ふものなく先登一番マケロと云ふは常例にて之れを直引せざれば振棄て他に行くソレを遣ずと機嫌を取るは商人の弱點之に付け込む客人の横着此後就れより改良すべきや今以て矯正すること能はずされは商品の直段品質を心得ざる漁夫勞働者に向つては品にも依れど七八割をも懸けて賣るものあり、之れ又就れか非なるや一般とは云はず、

市中商店は一般に懸直なく商店に依ては其時の都合上進んで元直に賣放つものあるらしきも大抵は些少の品を買ふにマケロ等を云ふ御客にはテンデ應せざる風あり、勸工商場と市中商店の相違如斯、處かはれば風かはるで旅客たるもの多少心得ありて可然と存ず

最新函館案内 上編 終

北海道物産共進會其他北水協會及び
第三四五各回內國勸業博覽會受賞牌

北海道高島水產試驗所御用達

登錄商標

烏賊釣針製造所

第五八三一號特許器械摺、第一二五四〇號新案登錄
申請電氣錆止鍍金、仝上角上手嶺新漁具附屬物一式

○內外藥品○有名賣藥○製劑本家

市田建太郎
函館區鶴岡町二十八番地
(通號)二八堂(電署)二八

※明治四十年東京勸業博覽會紀念※
三等賞牌受領

T.KŌZAKI

美麗ナ丈夫ナ靴ガ安ク出来マス

神前靴製造販賣
函館末廣町六十二番地

營業科目
香油香水各種、線香元結類、
鬢付梳油製造、和洋石鹼類、
花蠟朱蠟燭類、流行化粧品類、

食用工用諸油
サラリ油
巴香油本舖

本家商標
巴香堂
井内山油店
函館末廣町五十九番地

書籍類併ニ文具類一切
和洋小間物洋物類
婦人小間物手遊類
并ニ花物類各種
函館惠比壽町三十七番地
松吉商店
仝西川町（遊園地前）
函館勸工場内

◉製品ハ材料ヲ精撰シ染色法ヲ改メ不變色素ヲ使用ス故ニ在來製品トハ全ク其趣ヲ異ニセリ

◉器具類ハ弊社鐵工場ニ於テ製作ス故ニ正確廉價請合ナリ

東京市神田區鍋町拾番地

日本造花株式會社

電話番號本局一二六五番

振替貯金口座八一二二番

◉材料ハ獨逸マヤー、グース會社ト全國一手販賣ノ特約ヲ結ビ直輸入ヲナス故ニ品質優等ニシテ價格又廉ナリ

◉營業目錄ハ御申越次第進呈可仕候

藥種

ひきかぜ妙藥
風邪散

のぼせ引下げ
通じ丸

めぐすり
一滴水

やけどできもの妙藥
全癒膏

製劑本舖

函館區惠比壽町

各國藥品
寫眞用各品
漆類各品

販賣

メニ野中藥舖

電話 ノナカ 六三二

小間物　學校用品・各
筆墨硯　花かるた　種
卸商△兒玉商店
函館西川町（願乗寺前）

北海道御定宿
御旅館
東京市日本橋區濱町一ノ一七
巴館　漆原まき
電話特浪花二七七〇番
函館區末廣町九十八番地
諸新聞雜誌取次所
諸新聞廣告取次所
愛新軒
電話二百五十六番

貯蓄預金（金壹錢ヨリ御預リ申候）利息 年五分四厘
定期預金（百圓に付）利息 年五分五厘
當座預金（全）利息 日歩八厘
小口當座預金（全）利息 日歩壹錢壹厘

各地送金爲替取組其他銀行一般ノ業務

諸事御便利ヲ旨トシ迅速叮嚀ニ御取扱申候

株式會社 北海道貯蓄銀行函館支店
函館區末廣町四十三番地（十字街角）
（發電略號ホチ 電話壹六十番）

資本金 貳拾七萬圓
本店 札幌
支店 上川 岩見澤、小樽、岩内、壽都、江差、福山、函館
出張所 瀬棚

最新函館案内 中編

●所得高累年比較表

年次	人員	所得高	所得税
三十五年	二、七七三人	二、七三二、一七七、九〇五円	四八、四一七、三六一円
三十六年	二、九五八	三、七六七、八〇五、五〇九	六七、七七三、三四〇
三十七年	三、〇六六	三、二四七	一一四、九二五、六七〇
三十八年	三、二五九	三、六四五、四六二、六一七	二〇三、五〇八、五六〇
三十九年	三、四七八	三、八九五、〇八八、五六一	二一一、三九四、一八〇

●所得納税者人名表（いろは順）（明治三十九年度調査に據る）

氏名	住所	税額
伊藤俊三郎	幸町三	八、四〇〇
伊藤佐治衞	大町七	二、三一〇
伊鎚之助	富岡町五	三、七九〇
伊藤昌吉	富岡町五	六、四一〇
伊藤廣吉	汐見町二一	三、七三〇
伊藤嘉吉	青柳町八一	七、九一〇
伊藤隆眞	青柳町一四	二〇、一六〇
伊藤榮五郎	春日町二三	八、二〇〇

伊藤廣三郎	富岡町八	二〇、一五〇
伊藤　傳三	會所町六二	九、六〇〇
伊藤義三郎	富岡町一	六、〇〇〇
伊藤耕兵衛	汐見町九	四、八〇〇
伊藤房次郎	天神町五五	三、七一〇
伊藤　幸一	同　九	三、五八〇
伊藤伊勢藏	同　二四	七、八五〇
伊藤愛次郎	若松町八九	六、〇〇〇
伊藤　和藏	船見町四三	三、六一〇
伊藤　長市	元町一三	五一、〇〇〇
伊藤　正行	船見町九二	六、四〇〇
伊藤仲二郎	船場町	六、四〇〇
伊藤益次郎	末廣町三五	三、九六〇
伊藤　高秋	末廣町八〇	三六、二五〇
伊藤　廉三	東濱町九	二二、九三〇
伊藤藤太郎	地藏町五三	六六、〇一〇
伊藤　勘作	蓬萊町三八	六、四八〇
伊藤治右衛門	東雲町二五〇	四六、六二〇
伊藤　金彌	大黒町一三〇	三四、五〇〇
伊藤　クニ	大黒町七一	六、〇〇〇
伊藤福三郎	旭町二三九	一六、三四〇
伊藤庄太郎	蓬萊町一二二	七、四四〇
伊　藤　一	辨天町四四	八、四〇〇
伊藤　知也	仲町九三	四五、五四〇
伊　藤　忍	曙町三	四一、四〇〇
伊藤　悌造	會所町五五	五五、一〇〇
伊藤　富藏	西川町八	二三、五六
伊勢忠次郎	大黒町四	六、〇〇〇
伊勢金太郎	東濱町四一	六、〇〇〇
伊勢　ハル	音羽町一〇	八、一六〇
伊勢　磯松	元町四七	八、〇〇〇
伊勢田清平	地藏町二	一七、五二〇

伊勢貞次郎	黒町三九	四一、一六〇
伊草　カネ	相生町六七	一九、一三〇
伊澤多美治	蓬來町六二	八、七六〇
伊豫田德次郎	東濱町一五	一九、八一〇
伊月　三郎	地藏町六二	八、九一〇
伊賀喜三郎	富岡町七	一五、八六〇
伊集院ヒデ	春日町三四	一八、一三〇
伊崎與太郎	西川町七三	六、八四〇
伊多波嘉一郎	西川町五九	一八、八八〇
五十嵐久治	青柳町三四	六、〇〇〇
五十嵐シン	青柳町三四	二、四四〇
五十嵐チカ	青柳町五四	六、一四〇
五十嵐定吉	末廣町六五	九、三一〇
五十嵐政吉	船場町二五	四五、一三〇
五十嵐七次郎	惠比須町三五	六、四六〇
五十嵐平治	蓬來町二四	一五、五四〇
五十嵐末吉	鶴岡町一四	八、〇六〇
五十嵐熊市	海岸町九九	六、九一〇
五十嵐市太郎	龜田村	八〇、五九〇
五十嵐松吉	汐止町二	三五、五八〇
五十嵐治太郎	相生町一〇三	七、一四〇
五十嵐西門	會所町三九	八、四〇〇
五十嵐ミヲ	元町三九	一、一〇〇
五香長右衛門	鶴岡町八	七、〇〇〇
池田清兵衛	蓬來町一八	三〇、八九〇
池田　重吉	眞砂町四	四八、五五〇
池田辰一郎	眞砂町三	七、三一〇
池田種之助	元町七二	五、二八〇
池田新左衛門	元町七二	〇、七一〇
池見　タキ	惠比須町一八	一八、四〇〇
池見與太郎	豊川町二一	六、一〇〇
池上　三郎	汐見町一	一四三、五一〇

池谷伊三郎	鶴岡町二三	八、六〇〇	井
猪俣精一郎	船見町六二	三四、四〇〇	井
猪多　正信	谷地頭町五	八、四〇〇	井
猪熊辰四郎	西川町一五	七、八〇〇	井
猪飼　正雄	元町六五	八、四〇〇	井
伊藤　長七	天神町七四	八、六〇〇	井
伊　藤　明	會所町一二	九、〇〇〇	井
市田勘次郎	大町三〇	二三、六一〇	井
市田龜次郎	大黒七一	二四、三六〇	井
市中安太郎	青柳町二五	八、九四〇	井
市村　禮治	富岡町二九	八、五八〇	井
市原　鉞雄	相生町九一	八、四〇〇	井
市原芳兵衛	末廣町一二	八、〇〇〇	井
市　川　敏	眞砂町六	五、四八〇	井
一二庄太郎	壽町四	二三、〇〇〇	井
一ノ谷八太郎	東雲町二四一	八、六四〇	井
井上　秀彌	船見町五六	八、四〇〇	井
井上　賴敎	元町七一	一三、六一〇	井
井口　退輔	末廣町一一五	四二、三七〇	井
井口兵右衛門	末廣町一一五	八、六〇〇	井
井上源太郎	汐見町	八、一〇〇	井
井上　精則	龜田村	一七、二三〇	井
井上軍兵衛	末廣町九	八、六四〇	井
井上長九郎	元町六〇	一四、七四〇	井
井上幸太郎	青柳町一七	七、七八〇	井
井上　政吉	相生町六	八、〇〇〇	井
井上　粂吉	曙町三	六、四三〇	井
井上　チカ	曙町三	八、一七〇	井
井上竹治郎	豊川町五一	五三、四一〇	井
井上　文治	鶴岡町三五	六、九八〇	井
井上幾太郎	鶴岡町三六	七、五〇〇	井
井口第一郎	旅龍町三二	二一、一七〇	井

井上市太郎	春日町三二	九、二〇〇	稻
井上元一郎	汐止町一五	四四、一四〇	稻
井上キヨエ	汐止町一五	四、一四〇	稻
因幡吉右衛門	相生町四五	一五、一三〇	稻
井筒粂太郎	海岸町一三	六、二〇〇	稻
井　澤　一	元町一	六、〇〇〇	稻
井本卯太郎	旭町八六	六、四五〇	稻
井村峰次郎	若松町九九	六、一六〇	稻
泉　孝　三	曙町六	五八、三一〇	稻
泉　運　吉	粂町一六八	二五、一三〇	稻
稻田常次郎	大町二八	一三、二七〇	稻
稻見三之助	富岡町八	七、一〇〇	稻
稻垣大次郎	元町三八	一六、一七〇	稻
稻津幸次郎	船場町	一八、三三〇	稻
稻山吉次郎	相生町一一	八、二〇〇	稻
稻川　直温	東川町一八三	九、二六〇	稻
稻葉　秀安	龜田村	三、八〇〇	石
稻葉　ユキ	龜田村	二、八八〇	石
石川伊三郎	大黒町一〇	二三、一八〇	石
石川　永吉	相生町五八	三三、六八〇	石
石川　イチ	鍛冶町五〇	三五、〇五〇	石
石川清次郎	旅龍町五六	二一、九〇〇	石
石川　清吉	末廣町六	五一、二四〇	石
石川　安藏	地藏町一九	一三、四〇〇	石
石川　貞藏	西川町六	一三、七八〇	石
石川　啓吉	若松町八	八、四〇〇	石
石川　七男	會所町五五	六、〇〇〇	石
石川　末吉	會所町	一五、二三〇	石
石川　由松	相生町四八	七、〇〇〇	石
石岡　多七	住吉町三二	八、一八〇	石
石田　長吉	仲濱町一六	六、〇〇〇	石
石田　定吉	天神町	九、一〇〇	石

所得納稅者人名表

石田辰太郎	會所町二四	二四、四四〇	
石垣　秀助	幸町七	三九、三四〇	
石垣隈太郎	東濱町八	二、三六六、八六〇	
石垣嘉一郎	汐止町二九	五九、九六〇	
石黒龜太郎	西濱町三九	四〇、八九〇	
石黒藤太郎	汐見町一二	六、四八〇	
石黒　兼三	青柳町二五	六、四八〇	
石塚彌太郎	東濱町三五	三八二、六二〇	
石塚三五郎	惠比須町三五	一九、〇七〇	
石塚彦四郎	眞砂町九	五六、八六〇	
石橋　七藏	辨天町六八	六、三六〇	
石井和三郎	船場町一九	一八、一四〇	
石井鐵太郎	汐止町七	一〇六、五一〇	
石澤孫十郎	西濱町二五	七八、六四〇	
石澤　宇記	東雲町二四二	六、〇〇〇	
石澤　熊藏	若松町八四	四〇、二七〇	
石澤　岩松	音羽町八一	六、六〇〇	
石館兵右衛門	壽町二六	一、二九一、七六〇	
石館　友作	壽町二六	二四三、五四〇	
石戸唯四郎	辨天町一七	四八、七六〇	
石倉勝次郎	幸町八	七、六一〇	
石倉　善七	西川町七七	三九、六五〇	
石橋　桑助	住吉町一九二	六、〇〇〇	
石橋富五郎	蓬萊町一五四	八、四〇〇	
石田　善助	大黒町一二五	一三、〇〇〇	
石山　宗伯	末廣町四五	八、四〇〇	
稻葉　喜正	相生町七三	六、〇〇〇	
井波菊太郎	蓬萊町三	六、〇八〇	
井浪　精一	東雲町二四一	四、〇〇〇	
井浪　鶴吉	東雲町二四一	三、九七〇	
石井鎌次郎	末廣町九	八、四〇〇	
池田金五郎	寶町三八	四八、三〇〇	

池田　キヨ	寶町三八	四、七六〇	
今井定太郎	西濱町二四	一五八、三三〇	
今井　マツ	大黒町四七	六、五四〇	
今井市右衛門	末廣町一〇二	四〇四、九五〇	
今井市次郎	末廣町一〇二	三、七六	
今井　倉吉	西川町六七	八、六四〇	
今井辰太郎	旭町二三六	一五四、九七〇	
今野　直尚	海岸町六九	一三、六一〇	
今野金四郎	海岸町九五	一七、六四〇	
今野　長助	相生町六七	七、二〇〇	
今　與作	豐川町四二	三四、八二〇	
今川　定吉	豐川町一三	八、九四〇	
今泉半兵衛	西川町三一	三六、六四〇	
今津悅次郎	蓬萊町一五五	八、〇〇〇	
今井　清雄	天神町二〇	一三、二一〇	
今村寅五郎	末廣町六三	七、二〇〇	
飯田喜太郎	鍛冶町一〇	六七、四八〇	
飯尾清太郎	青柳町六九	六、〇〇〇	
飯田　林藏	青柳町五一	六八、九四〇	
飯田　八三	末廣町五五	七、八〇〇	
飯田　辰治	會所町六三	六、〇〇〇	
飯田　藤吉	若松町五九	六、四八〇	
飯田　廉平	西川町七〇	一五、一二〇	
飯田　ステ	蓬萊町九	一五、四八〇	
飯田　芳松	住吉町六六	六、〇〇〇	
飯田桑次郎	若松町二一	一五、一二〇	
飯田　滿壽	旅籠町三一	三九、五八〇	
飯岡　新吉	仲濱町二一	三四、六八〇	
飯田　彦助	豐川町三	八、五四〇	
飯塚　和助	青柳町四五	一五、一二〇	
飯塚　寅吉	汐止町九	九、二八〇	
飯塚　キク	蓬萊町一五五	九、二八〇	

飯嶋	タイ	蓬萊町一三〇	八、六四〇
飯島金八郎		會所町三一	八、四〇〇
飯坂源右衛門		末廣町一〇〇	九、二五〇
飯坂	六郎	末廣町一〇〇	三一、二七〇
飯白富太郎		豐川町一一	七、〇四〇
飯島喜三郎		會所町一九	六、〇〇〇
飯塚	豐治	天神町七八	六、〇〇〇
岩谷	平八	豐川町一六	五、四八〇
岩谷ヨシノ		豐川町一六	一、五〇〇
岩佐	政吉	鍛治町三一	五一、六八〇
岩佐喜太郎		會所町二八	四三六、四四〇
岩崎岩次郎		幸町三	三三、三一〇
岩崎	卓直	鶴岡町四六	七、二〇〇
岩崎	秀海	元町一二	九、六〇〇
岩崎	常七	船場町二五	四八、六一〇
岩崎作次郎		地藏町一七	四五、四五〇
岩崎治太郎		旭町二八六	八、六四〇
岩船峰次郎		辨天町六三	一、五〇二、四七〇
岩船	和助	西川町七〇	一九、八〇〇
岩間	三修	船見町五二	六、〇四〇
岩間	三賢	船見町五五	五五、二七〇
岩間	忠藏	辨天町七七	九、三六〇
岩谷	林平	若松町六七	一三、一六〇
岩谷	幸助	元町一八	一三、九七〇
岩清水弓太郎		汐見町三二	八、七二〇
岩川佐治右衛門		山春泊町八四	一三、六一〇
岩本	常雄	船場町	三五、一九〇
岩本	熊雄	海岸町六九	四一、七九〇
岩見	慶七	船場町二四	八、八〇〇
岩岸	仙藏	鶴岡町三三	四四、九一〇
岩岸	久松	若松町二四	六、四八〇
岩井	ミツ	旅籠町二六	六、〇〇〇

岩田茂三郎		地藏町三六	六、〇〇〇
岩澤	敏	相生町二	一六、三八〇
岩澤	常吉	豐川町五七	八、一六〇
岩館兼次郎		蓬萊町一五五	七、二〇〇
池田	キク	惠比須町二五	七、一八〇
池田	要吉	辨天町四七	八、七〇〇
池田德次郎		大黑町七七	六、〇〇〇
池田	セイ	大黑町一三六	八、一四〇
池田	定吉	東濱町三六	七、二一〇
池田仁三郎		大黑町一三六	八、〇八〇
池田	豐藏	青柳町八	七、九二〇
池田勝右衛門		豐川町三五	五〇、二一〇
池田宗一郎		西川町一三	七、〇〇〇
池田仁三郎		旅籠町八四	六、四八〇
池田	三次	西川町一三	二一、一七〇
磯野	員爲	曙町一	二四、三六〇
磯野	源藏	船場町	六、〇〇〇
磯西角次郎		若松町二五	五八、〇一〇
磯部	文吉	榮町四六	六、四〇〇
池本安次郎		西川町八一	一〇、〇八〇
池本	トワ	西川町八一	二、五二〇
入山	與助	海岸町六〇	三、一四〇
入山	丑松	海岸町六〇	五、二一〇
入山	リト	海岸町六〇	一、一〇〇
入村	富吉	相生町一六	九、〇六〇
生田治太郎		鶴岡町四九	三三、一八〇
生駒多次郎		末廣町九	九、九八〇
生駒	鹿藏	鶴岡町二七	四八、四二〇
生駒利三郎		西川町二六	一五、八八〇
生駒	鼎	大黑町二七	七、二〇〇
岩城	龜松	旅籠町一六	九、六〇〇
井口	シノ	東濱町四九	六、〇〇〇

板垣儀三郎	西川町五九	六、〇〇〇	
板村助右衛門	辨天町二三	一六九、八〇〇	
糸崎吉助	大黒町四四	一三、八六〇	
井筒松吉	山春泊町三	七、〇〇〇	
五十嵐卯吉郎	若松町八八	一三、一〇〇	
池田喜代治	鶴岡町六五	一三、一四〇	
一宮松五郎	音羽町六八	六、一八〇	
今井儀三郎	寶町二六	九、〇〇〇	
今野金太郎	蓬萊町一五三	七、二〇〇	
濱野熊次郎	末廣町二八	一三、八六〇	
濱崎治助	西濱町二三	九一六、七三〇	
濱崎甚吉	天神町五一	八、四〇〇	
濱崎政吉	末廣町五一	二〇、〇三〇	
濱谷重次郎	東濱町四九	一四、五七〇	
濱谷新吉	船場町三	八、四〇〇	
濱谷與三松	小船町三	一七、一八〇	
濱谷英太郎	鶴岡町三六	八、八二〇	
濱岡重藏	東雲町二八二	九二、九四〇	
濱岡源助	若松町九六	三三五、〇四〇	
濱坂タカ	大黒町八三	八、〇八〇	
濱坂寅吉	龜田村	一四、七八〇	
濱部忠兵衛	天神町一三二	六、〇〇〇	
濱中傳三郎	辨天町六〇	二〇、二七〇	
濱根岸太郎	西濱町三九	七五、九〇〇	
濱村彌助	旅籠町七〇	三三、四七〇	
濱本寅治	船場町	八、四〇〇	
濱口作次郎	船場町	六、〇〇〇	
濱岡粂太郎	大町二七	八、〇〇〇	
濱本多六	鍛冶町五三	一八、四〇〇	
早川慶吉	旅籠町四七	一九、六六〇	
早川彦次郎	天神町四二	一五、六七〇	
早坂兵三郎	惠比須町五六	六、〇〇〇	

秦清八	末廣町九三	一〇九、七六〇	
秦眞三郎	末廣町二一	八五、一九〇	
秦慶治	末廣町二一	二四、一三〇	
馬場民則	會所町五二	四五、四五〇	
馬久地松太郎	船見町六九	一九、六六〇	
林宇三郎	辨天町一八	一七、六四〇	
林菊次郎	仲濱町一一	八二、六六〇	
林兵作	大黒町八五	一八、〇〇〇	
林忠太郎	富岡町五	一八、九八〇	
林悅郎	元町三一	一五、〇三〇	
林梓	末廣町一一二	六、一六〇	
林豐三郎	末廣町一〇五	八八、一五〇	
林鎌治郎	地藏町一五	一四、二四〇	
林三郎左衛門	西川町七五	七、二六〇	
林吉右衛門	蓬萊町四九	一三、〇〇〇	
林哲郎	蓬萊町五〇	七、九二〇	
林繁	鶴岡町四一	四〇、六二〇	
林榮	鶴岡町四一	七、四五〇	
林友吉	大黒町七七	七、二〇〇	
林保壽	汐見町一八	六、〇〇〇	
林菊松	豊川町二四	七、五〇〇	
林寅吉	天神町四五	二一、〇二〇	
畑久造	辨天町一	三九、四七〇	
畑野宇三郎	蓬萊町一一三	二七、七八〇	
畑野賢治郎	蓬萊町一一三	二〇、九五〇	
畑野薫	寶町三一	四〇、一五〇	
畑澤豊吉	東雲町二四一	一八、九〇〇	
畑中由太郎	鶴岡町六三	三七、四〇〇	
畑中熊吉	東川町二一八	一五、一二〇	
畑中寅吉	蓬萊町九八	六、〇〇〇	
畑野米八	末廣町二四	三、六〇〇	
畑野シケ	末廣町二四	三、八六〇	

芳賀　光任	豊川町二七	六、九八〇	
原　貞太郎	辨天町六六	四三、四七〇	
原　勇作	音羽町八三	一三、二六〇	
原　龜吉	末廣町一三	一四、〇一〇	
原　長藏	龜田村	八、四〇〇	
原田　三五	谷地頭町	二三、六〇〇	
原子千代三郎	元町七一	一三、一〇〇	
原子　チス	元町七一	二、八八〇	
芳賀　高成	谷地頭町四八	六、二四〇	
芳賀傳次郎	眞砂町二	六、一〇〇	
萩野　精二	蓬萊町一三三	一三、八六〇	
萩野市兵衛	地藏町五四	一五五、四三〇	
橋本正三郎	仲濱町二六	一、四一八、三六〇	
橋本金太郎	船場町二五	一四一、六三〇	
橋本五郎吉	蓬萊町七一	六、六六〇	
橋本　カノ	蓬萊町七一	二、五七〇	
橋本與三松	榮町一七一	八、二六〇	
橋本　清流	青柳町三三	七、二〇〇	
橋本　榮吉	西川町七七	六、二〇〇	
橋谷己之吉	辨天町四九	五六六、七一〇	
橋谷共右衛門	駒止町一一	三、四七〇	
橋谷初次郎	西濱町一六	一七八、七八〇	
橋本　政吉	元町七〇	一五、一三〇	
橋谷内勇藏	東川町二	七、九六〇	
橋谷　常吉	臺場町三	四五、五四〇	
橋場　金藏	西川町一	四四、二八〇	
橋川與三松	仲町二	六、一一〇	
春日　英吾	會所町三三	一五、一一〇	
畠山　厚二	會所町四八	九、〇〇〇	
畠山　永吉	春日町二八	一、四八〇	
畠山仁一郎	春日町二八	四、八〇〇	
畠中　國一	船場町	八　四〇〇	

羽倉　キク	蓬萊町一五五	一九、七八〇	
服部半左衛門	船場町二五	七七四、三八〇	
服部　サン	船場町二五	五一、八三〇	
服部　佐吉	船場町二五	六、七五〇	
服部常次郎	豊川町四一	一四、四七〇	
服部豊次郎	海岸町二〇	一〇八、〇三〇	
服部津之助	豊川町三六	七、九四〇	
服部　ミス	豊川町三六	五、八四〇	
服部　エイ	船見町七	一九、二四〇	
服部　勇助	西川町五三	三、一〇〇	
速見　辨輔	谷地頭町六	一七、一二〇	
播摩　米吉	辨天町一	三、四二〇	
花澤儀三郎	大黒町九四	一五、一二〇	
花野　マツ	西川町六五	八、八二〇	
濱　延　初	仲濱町六	八一五、一〇〇	
幡垣　角市	壽町一三	八、三四〇	
初谷　崇路	元町四八	九、五一〇	
伴　熊三郎	鍛冶町一三	七、二五〇	
花田辰三郎	青柳町五八	六、六四〇	
花田　三郎	青柳町二	六、二八〇	
西村精四郎	船場町	六、〇〇〇	
西村半太郎	天神町七四	一三、六一〇	
西村　泰七	汐見町二三	八、四〇〇	
西村　利光	住吉町七	八一、五六〇	
西村　五郎	住吉町七	五、一五〇	
西村　長吉	相生町二四	八、三〇〇	
西村馬太郎	船場町二三	三四、四八〇	
西村由太郎	船見町六七	九、六〇〇	
西村　岩吉	臺町	八、四〇〇	
西浦　キシ	冨岡町一〇	三、九八〇	
西勝　キン	暉町三	一八、八二〇	
西川長之助	蓬萊町四五	一六、九一〇	

西川重太郎	旭町二四〇	九、三一〇
西川　フサ	鍛冶町三五	八、九〇〇
西川仁三郎	豊川町九	七、一〇〇
西口　宗一	仲濱町二	一七、六四〇
西澤　音八	地藏町二八	三六、五二〇
西田貞太郎	東川町二〇九	七、一〇〇
西多松太郎	大黒町七六	六、〇〇〇
西谷　隆一	東川町二〇八	二木　彦七	九、六〇〇
西山　音吉	西川町一〇	二ノ上七五三ヱ郎	二四、三〇〇
西山善太夫	船見町六九	西井　半平	一五、一一〇
西山新之助	惠比須町七二	似内茂平治	四一、二六〇
西郡秀左衛門	鶴岡町二〇	似内　テツ	六二、五六〇
西堀久次郎	地藏町六四	仁井田カツ	九、六〇〇
西脇　濟	汐見町一八	庭山　榮松	六、五六〇
西本仁太郎	辨天町五九	撿井　榮作	一五、一一〇
西念　スヱ	會所町二七	堀　彌平	一四

西平　ナヲ	臺場町	八、〇〇〇
西島　健三	青柳町二六	六、四四〇
西堀久太郎	大町	七、九〇〇
二階堂富作	元町六〇	一五、一三〇
二階堂伊一	會所町一一	九、六〇〇
二ッ谷善松	鶴岡町三二	六、一四〇
二ッ森藤松	若松町一〇一	三、八九〇
二木　彦七	元町四一	九三、八四〇
二ノ上七五三ヱ郎	汐見町	八、四〇〇
西井　半平	谷地頭町	六、〇六〇
似内茂平治	鶴岡町四六	四、四一〇
似内　テツ	鶴岡町三六	二、六八〇
仁井田カツ	蓬萊町一五五	一六、七四〇
庭山　榮松	若松町七	二〇、一六〇
撿井　榮作	龜田村	一四、一一〇
堀　彌平	辨天町七〇	八、八〇〇

堀　文次郎	末廣町三	四七、九二〇
堀内　豊吉	仲濱町六	一三、六一〇
堀内　源作	春日町七	一七、五四〇
堀ノ内榮太郎	谷地頭町五三	一八、一四〇
堀内　久保	龜田村	四七、九五〇
堀内　俊平	汐見町二三	六、〇〇〇
堀田繁次郎	海岸町五八	六、四四〇
堀田增太郎	榮町五三	六、九〇〇
堀井　末吉	海岸町五二	六、〇〇〇
堀井　大助	西川町七〇	八、三一〇
堀井鐵太郎	壽町一四	九、六〇〇
堀川　道藏	壽町二一	一三、六一〇
堀川　勘藏	船見町一八	七、四〇〇
堀川勘右衛門	旭町一四一	九、八四〇
堀合　源助	荒川町九	九、一〇〇
堀越　邦麿	天神町七四	六、〇〇〇

堀込　キチ	蓬萊町五八	七、八四〇
堀込　常吉	蓬萊町五八	六、〇五〇
堀井　彌吉	船場町	六、〇〇〇
堀内吉次郎	相生町五三	八、〇〇〇
星野　亮治	蓬萊町一五三	三、八七〇
星　清藏	寶町三七	六、七二〇
星野　權藏	山脊泊町三五	一六、三八〇
星野熊太郎	西川町六二	七　三六〇
星野　ナヲ	惠比須町二四	九、九六〇
星野　鐵藏	蓬萊町一三	一七、六二〇
星野熊五郎	東川町二〇八	二一、四二〇
細川　伊吉	末廣町一〇七	一六、〇九〇
細川由太郎	惠比須町三一	七、二〇〇
細野　良吉	西濱町三九	二〇一、四三〇
細野　巖平	大黒町一五	六、〇〇〇
細井辰五郎	龜田村	六、二四〇

所得納税者人名表

細田卯之吉	西川町一五	一五、二五〇	
保坂　濱吉	船見町八二	一五、一一〇	
保田　七藏	豊川町四	三九、四〇〇	
本庄　丑吉	西濱町三二	一五四、〇五〇	
本庄　房吉	天神町四〇	一五、三三〇	
本庄　タキ	蓬萊町一〇九	一〇七、九二〇	
本庄　イシ	大町五	一三、五七〇	
本庄谷喜助	壽町二五	四六、二三〇	
本間　勘七	大町二八	一四、六四〇	
本間政太郎	大町四三	二〇、五六〇	
本間　金作	相生町七六	七、二〇〇	
本間　聰作	壽町二	六三、一四〇	
本間富次郎	豊川町二四	一八、〇六〇	
本間　與作	地藏町四㊧	三五、五四〇	
本間　要作	蓬萊町三四	七、四四〇	
本間　鹿藏	鶴岡町四二	一八、一四〇	

本間　吉藏	青柳町二九	六、〇〇〇	
本間　與助	富岡町七	八、四〇〇	
本吉　イワ	船見町九〇	三、四七〇	
本山十五郎	天神町一二七	七、九六〇	
本田儀左衛門	會所町一一	九、〇〇〇	
本田仁兵衛	相生町九一	六、〇〇〇	
本田力太郎	天神町九四	一三、六一〇	
本間　豊藏	若松町四〇	七、一〇〇	
逸見　ミヨ	末廣町八四	二五三、七五〇	
逸見政次郎	末廣町八四	二五二、一九〇	
德田　セン	東濱町二八	六、二四〇	
德田由太郎	大黒町一	四三、四〇〇	
德田　要助	大黒町一	四、〇〇〇	
德田直太郎	龜田村	七、一〇〇	
德茂　元吉	天神町四一	一三、六一〇	
德根卯三郎	春日町一	一八、一四〇	

德橋源太郎	青柳町一九	六、二四〇	
德山マサエ	鍛冶町二五	二〇、一四〇	
德重元之助	富岡町四	六、〇〇〇	
富田　金吾	壽町二五	七、九二〇	
日岡　ケシ	海岸町七一	七、九〇〇	
富川要太郎	鶴岡町六八	八、三三〇	
富田　コト	旅籠町三六	七、一〇〇	
富谷ジユン	若松町六〇	六、六八〇	
富安　平次	惠比須町一三	一八、七五〇	
豊田仁太郎	青柳町二〇	二四、〇七〇	
豊島　スミ	蓬萊町一二二	六、七二〇	
豊田カホル	相生町七一	六、八〇〇	
豊田　フミ	相生町七一	八、五八〇	
豊島嘉太郎	船場町	八、四〇〇	
外山　平治	地藏町二一	六、九四〇	
外山　治平	西川町六七	一四、七六〇	

外山　德平	蓬萊町一二七	九三、四〇〇	
外山　由松	寶町二	一四、六二〇	
堂後　甚平	東濱町五六	一六、一五〇	
戸來　清	船見町九四	一五、〇八〇	
戸田　幸吉	相生町一八	二〇、〇八〇	
戸田富太郎	大町四四	八、三四〇	
戸田　スエ	蓬萊町一五五	八、二二〇	
戸崎政五郎	眞砂町三	六、四六〇	
戸山ハツノ	鶴岡町三九	七、九六〇	
戸島　末吉	蓬萊町三五	四二、七二〇	
時田　マス	蓬萊町…五五	二七、七六〇	
時田芳太郎	蓬萊町一五四	一四、八五〇	
時　松三郎	龜田村	六、〇〇〇	
鳥井駒次郎	山脊泊町七一	六、〇〇〇	
鳥尾文右衛門	相生町八五	七、四〇〇	
鳥井國太郎	相生町一〇二	一五、一二〇	

鳥居 ナカ	相生町一〇二	四、五四〇	近藤孫三郎
鳥居 藤作	住吉町一五一	六、一六〇	近藤 萬助
友義勝三郎	西川町一四	九、六〇〇	近藤 龜吉
留澤喜太郎	船場町	六、一〇〇	近藤 嘉助
當銀 駒吉	大 町一四	七、一〇〇	近藤嘉次郎
千倉 サメ	蓬萊町一五五	八、二一〇	近江 久治
千葉 慶助	海岸町五一	六、七〇〇	曙町二七
千葉與茂治	龜田村	六、〇〇〇	帖佐喜之助
千葉春之助	春日町一九	六、四八〇	茶邨六太郎
千島市五郎	辨天町六五	六、〇〇〇	近藤 豊
千倉滿太郎	谷地頭町	八、一六〇	小島 キヤ
近江 義明	船見町九六	六、七一〇	利田 久助
近江 勇藏	末廣町三	一三、一六〇	了馬 寅藏
近江 コト	末廣町三	二、四四〇	貫名 顯義
近藤 清次	相生町七九	三九、四三〇	塗師松之助
近藤銀次郎	東濱町四八	九、七六〇	塗師久太郎

船場町五	一、四八五、二七〇		
大黒町五五	七、〇〇〇		
青柳町六〇	一五、三五〇		
東雲町二四七	八四、九六〇		
惠比須町三五	九、六〇〇		
西川町三八	六、〇〇〇		
曙町二七	八六二、一〇〇		
龜田村	六、九六〇		
仲濱町一二	一二、六〇〇		
鶴岡町一六	四、八〇〇		
鶴岡町一六	二、〇〇〇		
汐止町九	六、〇〇〇		
大黒町一二	七、五四〇		
大町三七	五一、六八〇		
地藏町四三	四四、七六〇		
東濱町四九	九、三六〇		

沼田 タカ	蓬萊町八二	八、四一〇	大倉 庄吉
沼田 磯吉	西川町六〇	六、〇〇〇	大貫 德松
太刀川善吉	西濱町二八	五二八、五一〇	大石三津男
太刀川利藏	西濱町二八	一九、〇八〇	大石勝太郎
太刀川松平	豊川町五一	四〇、〇一〇	大瀧喜八郎
太刀川力良	旅籠町三二	八、七〇〇	大瀧半三郎
太田金之亟	曙町三	四九、六五〇	大瀧五十郎
太田孫太郎	東川町一九八	六、四一〇	大瀧丁太郎
太田 忠吉	音羽町一四	八、一六〇	大脇 道寧
太田 耕治	元町三六	六、〇〇〇	大塚 六郎
太田 又六	辨天町一	七、六一〇	大塚 善松
太田 リヨ	寶町三三	六、〇〇〇	大塚 定七
太田 庄助	蓬來町一三七	四一、四〇〇	大脇藤太郎
太田 慶七	曙町四	六、〇〇〇	大村篤四郎
太田 之友	汐止町一二	六、〇〇〇	大矢永次郎
大倉 嘉一	辨天町三五	二一、一七〇	大矢 多助

相生町一七	六、一一〇		
仲濱町二〇	一三、三二〇		
天神町八五	一五、六〇〇		
天神町七〇	一三、二二〇		
辨天町六五	六、一〇〇		
地藏町四四	五四、五六〇		
大黒町六二	六、五四〇		
富岡町八	一五、一六〇		
春日町二一	六、二四〇		
若松町二	六、〇〇〇		
汐止町九	一八、五四〇		
東濱町四三	六、四八〇		
鍛冶町五三	二一、一七〇		
鶴岡町四六	七、二〇〇		
惠比須町二四	一四、一三〇		
寶町一	七、〇〇〇		

大矢	サヨ	惠比須町三九	九、一〇〇
大矢增太郎		惠比須町三九	四、六二〇
大川	キン	大黒町四五	六、〇〇〇
大川	ヒデ	蓬萊町八	一〇五、五五〇
大川佐兵衛		豐川町二五	二三、八三〇
大島	憲吉	惠比須町四二	三三、七八〇
大島	俊吉	惠比須町四二	八、二八〇
大島	德松	東雲町二四二	一八、四四〇
大島	虎吉	壽町四	一三、四二〇
大島	經男	青柳町一四	六、〇〇〇
大澤	龜吉	會所町	四三、四七〇
大澤福太郎		會所町	一二、九八〇
大澤	キタ	會所町	三、七〇〇
大澤勇太郎		天神町三一	六、〇四〇
大井梅治郎		西濱町二七	四八、九七〇
大井	熊吉	西濱町二二	七、五四〇
大坂	末藏	西川町二七	二三、六八〇
大坂	タカ	寶町一八	六、〇〇〇
大坂儀一郎		海岸町一一九	一五、二七〇
大塚敬四郎		船場町	六、〇〇〇
大塚	ハル	西川町一三	六、〇一〇
大竹	敬藏	青柳町五二	一二、六四〇
大竹	ハツ	青柳町五二	四、八三〇
大竹	宗政	船場町一〇	一三八、〇〇〇
大越	長吉	地藏町三二	五一、三四〇
大越久太郎		仲濱町二九	九一、三三〇
大和	由松	東川町二一六	九、九〇〇
大和佐次郎		鍛冶町三九	六、〇〇〇
大村虎次郎		眞砂町二	一九七、七一〇
大越	タマ	船見町一〇二	七、四八〇
大倉	佐七	曙町三一	六、一〇〇
大倉	ユキ	汐止町五	一七、二八〇

大内長四郎		蓬萊町七八	一三、〇〇〇
大内	武	青柳町三四	一〇、九四〇
大内	武雄	青柳町三四	三、一一〇
大條	敬吉	會所町二九	四八、三〇〇
大條龍太郎		相生町七	一一三、〇〇〇
大條恒之助		船見町五二	一八、一四〇
大橋三次郎		海岸町五三	一二、六〇〇
大橋	松藏	西川町五一	四五、〇三〇
大橋織太郎		豐川町一	三九、一一〇
大橋	東悟	龜田村	六、三一〇
大橋太右衛門		春日町二	一四、四五〇
大久保利助		龜田村	四八、六九〇
大久保恒三		船場町二二	四〇、九一〇
大久保幸作		山脊泊町八五	一九、八〇〇
大野	藤藏	辨天町六七	六三、八〇〇
大谷	八藏	築町一〇三	七、八〇〇
大谷	直枝	汐見町一二	九、六〇〇
大森	重郎	海岸町六九	八、四〇〇
大森	四郎	汐見町九	六、〇〇〇
大森德次郎		豐川町二四	一六、九一〇
大森德三郎		鰡潤町三八	八、一〇〇
大山	マキ	若松町九	三五、〇三〇
大山	良久	曙町四	九、六〇〇
大門文次郎		青柳町一二	一七、八一〇
大門	岩松	小舟町二三	七、五四〇
大西	久次	豐川町三八	四一、四〇〇
大西清左衛門		蓬萊町七九	八、一四〇
大西	近藏	大黒町一八七	六、五〇〇
大軒吉五郎		東雲町二四七	九、八〇〇
大	泉 泰	築町一七四	三四、六四〇
大宅	鶴吉	海岸町一一九	四六、八五〇
大本松太郎		眞砂町五	八、八〇〇

大場仁三郎	汐止町二	三元、一九〇	
大下喜久之丞	青柳町七三	八、三六〇	
大庭俊太郎	元町七一	一三、六一〇	
大道和作	幸町一	三元、八六〇	
大桃哲次	東雲町二四二	一三、八六〇	
大瀬久吉	大町三三	六、五〇〇	
大河マツ	蓬萊町二七	八、三〇〇	
大湯至行	相生町五〇	七、二〇〇	
大黒圓吉	西川町五一	八、九四〇	
大石兵藏	青柳町三六	八、八六〇	
大須賀金吾	東濱町	九、〇〇〇	
大圖孝之助	東雲町二四二	一八、一四〇	
大竹永藏	船見町五六	七、二〇〇	
大和梅治	元町一二	三、六六〇	
大泉庄五郎	東川町二一八	六、〇〇〇	
大和田秀	元町五三	六、〇〇〇	
大場律治	寶町二二	一〇、二一〇	
大垣誠一郎	鍛冶町三一	一五、二一〇	
大津早熊	若松町四	六、〇〇〇	
大山善吉	小舟町三六	七、〇八〇	
大堀信隆	龜田村	三、三六〇	
大堀正助	龜田村	三、四〇〇	
大黒茂三郎	東濱町四九	六、〇〇〇	
大澁藤次郎	青柳町八〇	六、〇〇〇	
大村德太郎	東川町三	六、〇〇〇	
大畑藤太郎	寶町三九	六、四〇〇	
大久保正巳	東川町一七七	六、一六〇	
落合榮壽	船場町	一九、六六〇	
岡野鎌次郎	東濱町	一四、六一〇	
岡遐	谷地頭町五	一五、二一〇	
岡田省吾	元町六二	六、〇〇〇	
岡崎半治	辨天町三〇	七、二一〇	

岡崎金三郎	辨天町三〇	六、二六〇	
岡貫一	船見町六三	六、〇〇〇	
岡喜一郎	豊川町一	一四、二六〇	
岡七郎兵衛	東濱町二三	四九、六八〇	
岡トヨ	東濱町二三	〇、三三〇	
岡益太郎	東濱町二三	〇、六三〇	
岡次郎	末廣町四	二、六〇〇	
岡敬明	谷地頭町八一	三、四八〇	
岡村小三郎	東濱町一〇	二〇六、四四〇	
岡村藤治	辨天町五	三三、二六〇	
岡村善太郎	辨天町五	五、五二〇	
岡田勇作	大黒町九〇	一四〇、〇五〇	
岡田吉次郎	大黒町八五	二〇、二一〇	
岡田喜代松	旅籠町四九	五三、八二〇	
岡田平助	旅籠町一〇	六、〇〇〇	
岡田小八郎	末廣町二八	六一、六二〇	
岡田フミ	鶴岡町三一	六、〇〇〇	
岡崎官次郎	天神町八七	六、〇〇〇	
岡崎敬太郎	青柳町二六	一四、五一〇	
岡島勘右衛門	鍛冶町四〇	六二、一〇〇	
岡崎宗三郎	若松町二	六、〇〇〇	
岡崎トキ	蓬萊町九四	一六、七四〇	
岡本康太郎	末廣町三一	一六五、八八〇	
岡本忠藏	末廣町二	八五一、一〇〇	
岡本方太郎	船見町五〇	九、二四〇	
岡本幸吉	若松町七	一三、九〇〇	
岡本イト	惠比須町三七	六、二〇〇	
岡本言雄	西濱町一九	七、二〇〇	
岡本鶴藏	惠比須町三七	七、六〇〇	
岡部多吉	東川町二	一四、九七〇	
岡部治平	仲濱町三	六七、九四〇	
岡部龜太郎	榮町七	六、三六〇	

所得納税者人名表

岡部　榮吉	會所町五三	五、三〇	
岡部重次郎	西川町七三	二〇、二一〇	
岡野牧太郎	相生町八四	三一、六八〇	
岡川五郎松	榮町四八	九、〇八〇	
岡山　岩吉	大黒町六八	六、三八〇	
岡地　太吉	地藏町一四	八、一三〇	
岡本竹次郎	大黒町四	七、二〇〇	
岡本　カノ	仲町一六	六、〇〇〇	
岡部太一郎	大黒町一〇四	六、〇〇〇	
岡本奈良松	鶴岡町三〇	八、〇〇〇	
岡本　嘉八	海岸町二八	六、〇〇〇	
岡本　永助	東川町二〇〇	六、〇〇〇	
岡田　傳吉	大黒町八一	七、〇〇〇	
音無　菊丸	相生町五四	六、四八〇	
興村忠兵衛	末廣町一一二	一九、三一〇	
興村吉五郎	末廣町一八	五三、一〇〇	

沖田　兵助	春日町二三	八、〇四〇	
尾崎源次郎	地藏町一二	一四、〇三〇	
尾崎　イシ	蓬萊町一五	六五、二七〇	
尾崎榮三郎	天神町一〇二	一九、二四〇	
尾古　謙藏	元町四五	一五、一二〇	
尾見　千彦	谷地頭町八二	六、四四〇	
尾賀興三七	西濱町	一五、一二〇	
尾杉　利八	東濱町一五	一四、二八〇	
尾越　新吉	富岡町七	九、一二〇	
奥寺仁三郎	西濱町三四	一六一、六一〇	
奥田興太郎	幸町六	七、二〇〇	
奥田佐兵衛	天神町一三五	一九、四八〇	
奥津　鶴吉	末廣町六〇	九、七三〇	
奥坂角太郎	青柳町六〇	二三、六九〇	
奥山　新藏	大黒町四三	七、八〇〇	
奥山　音吉	大町二七	四五、二〇〇	

奥山三男三郎	春日町二八	七、三六〇	
奥野信太郎	音羽町一七	八、九四〇	
奥村重太郎	豊川町四二	七、七〇〇	
奥村　シゲ	西川町六	三二、七九〇	
奥村　奥松	汐止町一八	一七、一四〇	
奥村　鉦平	西川町六〇	九、二六〇	
奥井　ヤス	大黒町六六	六、〇〇〇	
奥野　順藏	地藏町六六	六、〇〇〇	
荻野榮治郎	榮町一七五	一八、三八〇	
荻野　清六	地藏町三八	六四、六三〇	
荻野喜兵衛	蓬萊町二八	一二、八五〇	
荻野小次郎	寶町二九	三八、〇九〇	
荻原豊次郎	東濱町九	四一、四〇〇	
荻原宏太郎	若松町四一	一六、七二〇	
荻田　フミ	元町三五	七、八〇〇	
荻田茂三郎	惠比須町五七	一四、九九〇	

及川初五郎	谷地頭町	六、〇八〇	
及川　大治	蓬萊町三二	六、〇〇〇	
及川榮之助	東濱町四九	九六、九〇〇	
及川　テウ	東濱町四九	一、八九〇	
及能三五郎	西川町三〇	一四四、三〇〇	
及能仁三郎	西川町二〇	三三、九二〇	
及能　ツワ	西川町二〇	九、六〇〇	
折原　淺吉	富岡町	三二七、一二〇	
押野　友作	富岡町二	一八、四四〇	
押田鶴次郎	大町四五	二四、四四〇	
桶　與三松	西川町七四	八、五六〇	
桶與三右衛門	西川町一七	八、六〇〇	
大鳥收之進	西川町五一	六、五八〇	
大西　太吉	天神町九六	一八、一四〇	
大八木常藏	豊川町三八	六、九六〇	
緒方　省三	龜田村	一九、五七〇	

恩田繇一郎　元町四三　六、八四〇
大島　東藏　惠比須町四二　七、五〇〇
脇坂保次郎　鍛冶町八〇　一七三、六五〇
輸島　ミツ　蓬萊町二七　三四、五〇〇
若山　保平　天神町五二　八、六七〇
若山藤兵衛　天神町五二　五、四四〇
若山惣太郎　末廣町一　九五　九六〇
若松與之助　西川町八　八、五六〇
若松　ナツ　惠比須町七八　二〇、六二〇
若松　英太　天神町一三九　九、三六〇
若狹直次郎　豊川町二二　六、三六〇
若狹半兵衛　鶴岡町五一　一八、五六〇
若林　清作　相生町四九　六、〇六〇
若杉勘左衛門　蓬萊町三　一五　五四〇
和田　安平　旅籠町一七　七、二〇〇
和田治五郎　辨天町二八　七九、三三〇
和田次郎吉　末廣町一一　六一、一八〇
和田　惟一　東濱町二一　二三、三八〇
和田伊太郎　西川町六五　一六　九六〇
和田　兼吉　松風町二五五　二〇、〇一〇
和田　運吉　音羽町四　八、四〇〇
和田　才助　住吉町一七三　六、〇〇〇
和田　喜助　豊川町三六　八、〇六〇
和田　常吉　西川町五九　六、〇〇〇
和泉・榮助　鶴岡町二一　六、一〇〇
和歌山富次郎　船見町七五　二〇、二一〇
若松　力松　住吉町三九　六、〇〇〇
若山榮太郎　辨天町四　六　〇〇〇
若山政太郎　蓬萊町六〇　一五、一二〇
渡邊　留吉　豊川町四六　六、〇〇〇
渡邊　銀治　青柳町二九　三九、〇三〇

渡邊　元仲　青柳町八三　七、三八〇
渡邊藏之助　元町六二　二八、二一〇
渡邊　藏吉　元町六二　一四、九〇〇
渡邊　克吉　春日町一五　九、〇七〇
渡邊　ミヨ　春日町一五　四、四三〇
渡邊　熊藏　相生町四八　七、四二〇
渡邊　健藏　會所町八　二三、五〇〇
渡邊熊四郎　末廣町一〇四　一六、八二七、九三〇
渡邊　孝平　末廣町一〇四　七、一四〇
渡邊源太郎　末廣町四〇　三〇　五五〇
渡邊　榮藏　春日町　一四、九二〇
渡邊　サト　春日町　七、六四〇
渡邊三代吉　東濱町六　七、二〇〇
渡邊清太郎　春日町二九　六、〇四〇
渡邊　長藏　船場町一二　一、五二九、七四〇
渡邊太之助　若松町一〇五　一四、二六〇
渡邊　繁七　惠比須町四二　一五、二九〇
渡邊　仁吉　大森町二八　一七、〇一〇
渡邊　アキ　惠比須町七五　四七、五九〇
渡邊　市郎　東濱町一〇　六、三四〇
渡邊增太郎　東川町一〇六　五四、〇〇〇
渡邊　金次　青柳町八一　三、八四〇
渡邊忠次郎　若松町一一一　五二、〇七〇
渡邊　梅吉　鶴岡町二九　六、〇〇〇
渡邊　榮助　龜田村　八、〇四〇
渡邊　仁平　西川町六六　七、四〇〇
渡邊粂太郎　旭町二四〇　八、八六〇
渡邊權次郎　寶町三五　四、五〇〇
渡邊　ミヤ　鍛冶町一九　二、四三〇
渡邊　トミ　鍛冶町一九　四、二八〇
渡邊　サダ　鍛冶町一九　五、三一〇
龜井惣十郎　末廣町八二　三六、四七〇

加藤 寅藏	鶴岡町三五	二二、一七〇	
龜井 惣吉	末廣町五五	二八、二一〇	
加藤竹三郎	汐止町一五	三五、〇五〇	
龜井 シン	末廣町五五	二一、七一〇	
加藤善太郎	惠比須町四	四、六五〇	
龜井邦太郎	末廣町五四	三八六、七一〇	
加藤喜久治	西川町一八	六、四四〇	
龜井 三郎	末廣町五四	二二、六七〇	
加藤 彌助	春日町二九	一三、八六〇	
龜井 アサ	元町三二	一八、三八〇	
加藤 義範	曙町一五	九、六〇〇	
龜治中鶴松	鶴岡町三六	一三、九四〇	
加藤七百七	會所町六二	七、二〇〇	
龜山 權藏	眞砂町三	七、二〇〇	
加藤宗兵衛	地藏町一九	四、〇三〇	
龜岡和氣次郎	相生町八二	八、〇〇〇	

加藤文五郎	末廣町九四	三六四、五〇〇	
龜山保太郎	春日町四一	三、六〇〇	
加藤久太郎	末廣町七九	四一、八九〇	
加賀谷與太郎	惠比須町六一	四、五〇〇	
加藤 長藏	末廣町六六	四、五四〇	
加藤彦太郎	寶町三九	七、二〇〇	
加藤政之助	臺町四八	三九、〇七〇	
加藤永太郎	旭町二八五	一七、〇一〇	
加藤 政治	辨天町七八	四九、六二〇	
加藤梅太郎	榮町一一九	四、六九〇	
加藤 藤吉	富岡町一	八、七八〇	
加藤 熊造	大町三七	六、六〇〇	
加賀 與吉	汐止町六	七八、三三〇	
加藤慶次郎	地藏町六三	四六六、三九〇	
加賀谷富藏	豊川町四	七 四一〇	
加藤新之助	地藏町一四	四六、五八〇	

加納 權吉	會所町七	九 二一〇	
加藤豊太郎	蓬萊町七	七、二〇〇	
加島 ヨネ	地藏町二四	一〇、七一〇	
加藤友次郎	西川町六九	四五、四七〇	
加畑 藤吉	船場町一四	一六、四九〇	
加藤 三作	寶町三五	一三、八九〇	
加茂 兵作	曙町四	九、二八〇	
加藤 仁助	寶町二七	三七、七四〇	
加越 仲吉	山春泊町八三	四、五〇〇	
加藤 喜七	鶴岡町七二	二三三 六一〇	
川口 昌三	仲濱町一〇	三六、一六〇	
川口 惣吉	龜田村三	七、二〇〇	
川道治兵衛	榮町三二	一三、八二〇	
川口 スミ	鶴岡町六九	四、五〇〇	
川岡貞次郎	旭町二四〇	一六、七七〇	
川口清太郎	海岸町三八	七、九〇〇	

川中 乙松	壽町一二	六、一二〇	
川口喜一郎	寶町二五	一三、八五〇	
川村織右衛門	音羽町六六	七〇〇	
川口金次郎	東濱町一二	一七六、七三〇	
川添 清二	會所町一一	四 九三〇	
川口 榮藏	青柳町七六	六、八〇〇	
河野 豊治	地藏町五	八、四六〇	
川口拾次郎	大黑町三四	六、二三〇	
川原 明	龜田村	六、四八〇	
川崎 藤七	鶴岡町四七	一五、〇八〇	
河村 圭三	龜田村	九、六〇〇	
川崎 彌吉	豊川町一五	二〇、〇一〇	
河村嘉太郎	鶴岡町三七	三八、八三〇	
川崎 清二	船場町一九	二三、七一〇	
河井清太郎	辨天町五二	二四、二一〇	
川崎 藤藏	相生町四	五、九三〇	

河合　三作	船場町	四、九三〇	
川端石太郎	仲濱町一九	一七〇、八一〇	
河平　文藏	小舟町四	六、一〇〇	
川島榮三郎	青柳町二三	二八、五〇〇	
河合　全吉	鍛冶町	九、一三〇	
川島　カノ	遂莱町一二四	九、九〇〇	
河合　省吾	汐見町	一七、六四〇	
川内竹次郎	天神町四〇	七、二〇〇	
河東田經清	汐見町一六	七八、一三〇	
川上　榮吉	東川町二五	八、三三〇	
金田健次郎	地藏町六六	六四、四九〇	
川井　アキ	青柳町六一	一〇、六九〇	
金田實八郎	天神町五〇	二〇、八一〇	
川合　惣吉	榮町四六	六、一四〇	
金田マツノ	惠比須町三三	一三、三三〇	
川合　皆吉	惠比須町二六	八、一〇〇	
金田　喜一	青柳町二九	六、四八〇	
川守田良助	艦間町四四	八、二〇〇	
金田　順作	春日町三六	九、六八〇	
川守田市郎	末廣町二八	九、一六〇	
金田　ミヨ	春日町二六	四、五四〇	
川名得太郎	大町二二	一、四八、八二〇	
金澤豊三郎	地藏町一〇	二四、九一〇	
川原吉三郎	遂莱町一二四	一四、〇一〇	
金澤庄五郎	仲町六三	八、八六〇	
金澤　彦作	富岡町五	三八、五二〇	
金澤　清七	壽町九	二〇、〇六〇	
金子　タシ	春日町一九	一三、〇六〇	
金子　廣七	若松町九	三三、五三〇	
金子　綉介	青柳町四	六、〇〇〇	
金子孝太郎	地藏町四四	八、七二〇	
金子　伊平	旅籠町七七	一三、六〇〇	

金子源次郎	音羽町三三	六、三六〇	
金丸善太郎	仲濱町一三	三七、九二〇	
金森剛太郎	春日町二三	七、六八〇	
金森　甚吉	東濱町六	一三、六〇〇	
金井　末吉	末廣町三五	八、〇〇〇	
金谷幸次郎	東川町二〇九	六、〇〇〇	
金谷　フサ	西川町二四	八、〇〇〇	
金本　清松	富岡町二九	八、八〇〇	
金能　米吉	海岸町五一	六、五〇〇	
金子　文治	海岸町五六	六、一八〇	
金井文太郎	青柳町一一	六、〇〇〇	
金田　敬吉	天神町四一	六、九六〇	
金山幸之助	艦澗町三二	六、〇〇〇	
金野榮三郎	末廣町三五	七、〇〇〇	
兼村榮太郎	大黒町七二	三、四八〇	
蒲生　富吉	船見町一〇八	二、九四〇	
蒲生　武彦	旅籠町五三	七、二〇〇	
蒲原　シン	蓬莱町九四	七、八〇〇	
風間　鶴松	蓬莱町一一七	一七、六八〇	
風間　丑藏	鍛冶町六三	六、〇〇〇	
鎌田善三郎	末廣町一一四	一五〇、〇一〇	
鎌田　莊八	末廣町八五	一六、三八〇	
鎌田　文助	船場町二一	二、七三〇、二一〇	
鎌田　ヒデ	蓬莱町一三五	五七、六六〇	
鎌田　潭	寶町三九	六、二八〇	
柿崎　長藏	曙町三	二〇、五〇〇	
柿本芳三郎	蓬莱町九七	三三、三九〇	
柿本作之助	惠比須町一〇	一三九、六九〇	
柿田勇二郎	船場町	六、〇〇〇	
柿崎　健作	鍛冶町	九、八〇〇	
柿崎卯三郎	會所町四六	一四、八三〇	
笠川　治助	末廣町三六	二一、〇五〇	

笠原平太郎　海岸町六一　三八、〇〇〇
笠巻榮太郎　若松町一一五　一三、四〇〇
苅谷鐵之助　汐止町七　二三、七〇〇
苅田喜一郎　地藏町二六　六、八三〇
片岡介三郎　谷地頭町一六　一四、九七〇
片倉助三郎　辨天町三二　六、六〇〇
片岡昇　海岸町四　六、四八〇
片岡卯三郎　末廣町一一〇　四一、一三〇
片桐菊藏　若松町二七　四一、三三〇
片山金平　地藏町一　六、〇〇〇
片谷勇藏　仲濱町二七　二四、二三〇
桂久藏　辨天町三九　一、七九三、一五〇
柏木宗兵衛　末廣町六七　九、二六〇
柏谷茂太郎　會所町一一　八、四〇〇
樫田德次郎　末廣町三三　一四、二八〇
相生町二八　一九、五七〇

唐澤榮次郎　相生町二八　一〇、一九〇
唐橋代次郎　地藏町二四　一七、七五〇
神山豊吉　東雲町二四二　八、六〇〇
神谷良平　青柳町四五　二六、一七〇
神田金太郎　船場町　八、四〇〇
神崎延太郎　元町六七　七、七四〇
神谷ムメ　豊川町五六　七、八〇〇
茅原勇吉　西川町一〇一　一九、八七〇
香川書城　天神町一〇〇　八、二八〇
勝浦タマ　蓬萊町三三　四一、四〇〇
勝木仁右衛門　地藏町三七　三七、三八〇
葛西千秋　元町七〇　一七、六四〇
葛西耕芳　豊川町四一　一〇三、九〇〇
梶原作次　海岸町三四　六、〇〇〇
片桐吉次郎　鍛冶町八一　一三、〇〇〇
片山フヨ　蓬萊町一五五　七、二四〇

片山チカ　曙町三　一六、三〇〇
片野民三郎　眞砂町二　八、〇四〇
柏木タカ　駒止町三〇　一四、〇五〇
柏倉道弘　谷地頭町八八　一三、九四〇
柏谷龍次郎　船場町　三七、二六〇
柏田友次郎　鶴岡町二九　七、九一〇
唐澤トク　相生町二八　一四、九五〇
唐澤岩吉　相生町二八　〇、四五〇
神山和雄　汐見町一〇　五二、四四〇
神谷重次郎　若松町四六　六、〇〇〇
神田一勝　眞砂町五　一三、九一〇
神雄之助　惠比須町六七　九、六〇〇
神尾金彌　東濱町　一六、四五〇
神堅吉　春日町一五　六、一八〇
香中景三　末廣町三三　六、二八〇
勝浦清次郎　惠比須町三　七、二〇〇

勝田彌吉　東濱町一五　四三、七一〇
勝木多仲　眞砂町五　二〇、四三〇
葛西多市　天神町一〇一　一三、八七〇
貝瀨幾十郎　西川町四一　六、〇〇〇
梶沼長三郎　汐見町二　九、三〇〇
加川文次　惠比須町三五　六、一三〇
門馬啓吾　龜田村　九、六〇〇
改田武馬　船場町一九　一八、一四〇
蛎崎廣親　元町四六　一五、一三〇
垣內國藏　鶴岡町四六　二四、三〇〇
四ッ柳周　青柳町六　九、六六〇
四ッ柳三次郎　大黑町七六　六、五〇〇
四方曆次　豊川町一六　四四、八五〇
依田彌吉　大黑町四〇　七、九六〇
米谷喜代松　末廣町八二　一五、二六〇
米谷與兵衛　末廣町七九　一七、四三〇

米田勝次郎	相生町七八	一四、三一〇
米倉　剛	青柳町二五	六、〇〇〇
米林伊三郎	會所町四一	一、八一五、四七〇
横山吉四郎	會所町四九	四三、九〇〇
横山　長吉	旭町　三六	一九、七八〇
横山喜一郎	仲濱町三一	五三、八三〇
横山壽次郎	相生町八五	一九、四九〇
横田庄兵衛	惠比須町二三	八、六四〇
横田　佐吉	西川町七五	二四、九九〇
横井　道直	汐見町一八	四三、〇三〇
横井專之助	船見町五五	九、六〇〇
横島　貞藏	若松町九	一四、八九〇
横江　太吉	船場町二三	三、六〇〇
横山　スミ	會所町二〇	八、〇〇〇
四ツ柳龜太郎	青柳町六	九七、二〇〇
四ツ柳シン	青柳町六	九、六六〇
四ツ柳與三郎	相生町八九	九一、八三〇
四辻久太郎	惠比須町四	二三、六〇〇
依田　一郎	相生町八八	九、六〇〇
米谷　サダ	蓬萊町一四〇	四七、六六〇
米谷與太郎	末廣町七九	三、七三〇
米澤　八重	西川町三六	七、一三〇
米内平次郎	青柳町二五	六、〇〇〇
横山　豐吉	豐川町二八	六、一八〇
横山和三郎	西川町四二	一八、〇三〇
横　山　參	船見町三五	三七、四七〇
横山　忠治	曙町三	八、四〇〇
横山　政治	惠比須町一	六、七三〇
横田釩千代	東川町二	六、〇〇〇
横井桂太郎	若松町一	一九、二四〇
横　又八	天神町一二六	三一、五九〇
横岡慶五郎	青柳町三八	六、四八〇

横江愛之助	船場町二三	二、八八〇
横江ナツヱ	船場町二三	〇、六四〇
吉田善次郎	鍛冶町二九	一五、七一〇
吉田　カネ	鍛冶町二九	二一、三三〇
吉田　ヒサ	鍛冶町二九	三一、七八〇
吉田　ミツ	鍛冶町二九	七、六四〇
吉田　辰巳	天神町二九	九、〇〇〇
吉田　庄作	船見町六二	六八、八六〇
吉田　三喜	鍛冶町二四	一三、九七〇
吉田東太郎	天神町七四	九、六〇〇
吉田　萬助	相生町九九	六三、一七〇
吉田信之助	末廣町八六	一四、七四〇
吉田　曾和	末廣町三六	一五、四九〇
吉田　キタ	蓬萊町七三	一四、五七〇
吉田龜次郎	旭町一六八	一四、二一〇
吉田佐太郎	東川町五〇	二一、三九〇
吉田　シナ	蓬萊町一五五	六、九〇〇
吉田マツヱ	蓬萊町一〇一	八、四八〇
吉田善右衛門	海岸町三一	一七、〇三〇
吉田豊太郎	龜田村	六、〇〇〇
吉田　榮	仲町一九	一七、四九〇
吉田八百吉	東川町一一五	六、〇〇〇
吉田隆次郎	鶴岡町二六	六、一〇〇
吉田　鍔郎	谷地頭町	一九、五七〇
吉田初太郎	船場町二二	一六、五九〇
吉村友治郎	末廣町四	一五、九〇〇
吉村清次郎	地藏町一	一九、六四〇
吉村文右衛門	高砂町八	六、三〇〇
吉村文右衛門	海岸町四	四八、九二〇
吉村龜太郎	龜田村	二、〇四〇
吉村　茂雄	龜田村	四、二八〇
吉村　將三	汐見町一二	六、〇〇〇

所得納稅者人名表

吉川　榮吉	汐止町二〇	一三、三一〇	
吉川辰五郎	惠比須町二六	六、四八〇	
吉川　三六	西川町九	七、六四〇	
吉野　德藏	富岡町七	六、八四〇	
吉野榮次郎	會所町四〇	一三、八五〇	
吉野　章三	旭町二四〇	五、二八〇	
吉野　テイ	旭町二四〇	三、三六〇	
吉岡　憲	富岡町五	一四、八五〇	
吉永又四郎	若松町八九	八、四四〇	
吉浦久次郎	元町七二	七、八五〇	
吉本　義直	會所町二四	六、〇〇〇	
吉崎龜次郎	富岡町八	七、三四〇	
吉崎又右衛門	鰮潤町八	九、六〇〇	
吉崎　武雄	船場町	四、四〇〇	
吉武房太郎	龜田村	六、七一〇	
吉澤　福彌	龜田村	七、二〇〇	
吉增イワエ	海岸町	九、〇〇〇	
吉江助太郎	末廣町七	七、五六〇	
吉村　良藏	龜田村	六、〇〇〇	
賴廣　太助	旭町二四	三、八四〇	
賴廣　太吉	旭町二四	二、一六〇	
寄　友松	小船町四	一四、五一〇	
反保　圓平	海岸町五八	八一、二六〇	
丹羽　常吉	大町三七	九、〇〇〇	
代島　元聖	天神町七〇	九、四六〇	
玉本　賢藏	大町一五	一四七、八九〇	
玉島常次郎	相生町六〇	七、二〇〇	
龍田治三郎	元町五六	一九、八二〇	
龍岡　信熊	元町一	一二、三七〇	
瀧本勘五郎	住吉町六八	九、九二〇	
瀧本　楢楠	會所町五	二四　二九〇	
瀧野惣次郎	東濱町三七	五一、六九〇	

瀧野善三郎	青柳町一五	七五四、六五〇	
瀧野　榮作	眞砂町三	六、〇〇〇	
瀧澤　イナ	東川町二二〇	八、四四〇	
瀧野兵太郎	末廣町七〇	一五、二二〇	
瀧澤松太郎	船見町四七	七、二〇〇	
立山　四郎	船見町四七	九、〇七〇	
立山　テル	船見町四七	五、四四〇	
立花藤四郎	豊川町三	七、〇八〇	
立花　幾司	末廣町一一五	六、〇〇〇	
立花　アキ	青柳町二七	六、九〇〇	
立島富次郎	鶴岡町三六	八、三四〇	
立澤峯太郎	蓬萊町一四七	二四、一九〇	
立壁　彌三	船見町二五	四一、二一〇	
立壁　イト	船見町二五	七、八〇〇	
立花與三吉	旅籠町七一	六、〇〇〇	
木田　キセ	旅籠町七一	三、七八〇	
種田直右衛門	鶴岡町七	一〇、九四〇	
種田　ナヲ	鶴岡町七	六、〇五〇	
種谷　キン	春日町二〇	六、〇一〇	
種　勘七	末廣町九八	五一、〇四〇	
種　彌八郎	末廣町九八	五、八〇〇	
谷津菊右衛門	船場町四	一五〇、〇〇〇	
谷口與三吉	蓬萊町一三	一三、一四〇	
谷口　ユキ	末廣町一〇八	一五、一三〇	
谷口元次郎	龜田村	八、〇四〇	
谷　治平	旅籠町一四三	七、一〇〇	
谷　乙吉	大黑町六〇	六、〇〇〇	
谷　德太郎	西濱町二八	六一、五五〇	
谷川政次郎	末廣町八九	一九、〇五〇	
谷川　定次	末廣町一三	四三、六四〇	
谷野亥之吉	豊川町四一	八、三〇〇	
谷田　セン	大黑町一二八	一八、〇〇〇	

谷口 市藏	西川町七七	六、〇八〇	
谷澤好太郎	會所町三六	七、二〇〇	
武 清彦	東川町二四二	六、四八〇	
武岡幾次郎	壽町一四	六、〇〇〇	
武宮 環	元町七一	三四、五〇〇	
武富 平作	末廣町三九	三一、三三〇	
武富 カメ	曙町四	五八、二八〇	
武富 新吾	船見町六三	一五、一三〇	
武藤 彌助	西川町七〇	一五、八三〇	
武藤 善七	末廣町四七	一九、九二〇	
武藤 イン	末廣町四七	二、四四〇	
武藤 重治	東濱町三八	六、六〇〇	
武藤權次郎	船見町五六	六、〇〇〇	
武田 運吉	寶町三三	一三、四八〇	
武田 勇吉	西川町六五	六、七四〇	
武田 キン	汐止町一一	六、〇〇〇	
武田安之助	龜田村	五五、二〇〇	
武田留五郎	元町二二	一五、一三〇	
武田 友吉	相生町五五	二九、五三〇	
武田 テツ	相生町五五	八、八八〇	
武田專一郎	西川町六三	三四、五〇〇	
武内 時三	東濱町二九	六四、三一〇	
武内市太郎	末廣町七三	一七〇、三四〇	
武子猪次郎	蓬萊町一五五	一五、五三〇	
武藏野祐五郎	蓬萊町一二五	九二、五一〇	
武藏野キヨ	蓬萊町一五五	一五、四八〇	
武田 林治	谷地頭町	八、四〇〇	
武山 一郎	元町四八	九、六〇〇	
武本三九郎	大町二七	六、〇〇〇	
武内 鐵二	末廣町一〇七	七、六八〇	
武越 金藏	仲濱町二一	八、〇〇〇	
竹内 勝藏	天神町八一	一九、〇三〇	

竹内壽八郎	地藏町七	八、〇〇〇	
竹内幸次郎	龜田村	九、〇〇〇	
竹内 リナ	蓬萊町一五五	七、七五〇	
竹内 フサ	旅籠町三九	八、六三〇	
竹内 タミ	蓬萊町二九	一三、二八〇	
竹内 多吉	海岸町八〇	六、六三〇	
竹内 三郎	惠比須町七一	三四、七一〇	
竹内 トフ	惠比須町六七	四、〇八〇	
竹内 コウ	惠比須町六七	二、〇三〇	
竹内新次郎	惠比須町二二	二四、九五〇	
竹内 喜七	相生町六九	六一、九二〇	
竹内與兵衛	元町六七	八〇、八〇〇	
竹内 ミキ	元町六七	六、四四〇	
竹田 晋藏	青柳町一	八、四〇〇	
竹森 徹郎	東川町二〇九	一七、八一〇	
竹谷石太郎	會所町四一	八、四六〇	
竹島重次郎	船見町二九	六、七三〇	
竹本喜兵衛	山脊泊町五	六、一三〇	
竹中彌右衛門	船見町四三	二一、一七〇	
竹田眞一郎	船場町	一八、一四〇	
竹内 眞道	元町六七	九、〇〇〇	
竹野銀次郎	末廣町六五	六、〇〇〇	
竹内 惣吉	鶴岡町二二	六、〇〇〇	
竹内松三郎	大黒町七八	六、〇〇〇	
竹内彌平次	相生町四八	六、〇四〇	
田澤 文藏	末廣町五三	六、八八〇	
田川熊三郎	壽町四	一九、六四〇	
田森 タネ	船見町八	三、一三〇	
田島金太夫	東川町一七九	六、〇〇〇	
田島甲子次郎	蓬萊町一五四	一五、〇四〇	
田島善太郎	辨天町一七	八、七四〇	
田澤 マサ	蓬萊町三二	一九、六一〇	

田端 宇七	西濱町一三	一五五、三九〇	
田宮松太郎	大森町三〇	六、〇〇〇	
田本 研藏	會所町一五	一四七、九八〇	
田本 繁	相生町三一	七、六八〇	
田畑辰次郎	辨天町四七	六、〇〇〇	
田畑 幸助	榮町七	七、一四〇	
田畑ハツヱ	西川町六三	六、〇〇〇	
田畑彦五郎	東川町一一六	八、四〇〇	
田畑幸四郎	東川町一一六	六、〇六〇	
田畑房太郎	海岸町五〇	二〇九、三〇〇	
田村長五郎	辨天町四六	九一、六八〇	
田村 義治	龜田村	七、二〇〇	
田村喜三郎	蓬萊町一〇七	一五、九六〇	
田村喜三郎	元町二一	一〇、〇〇〇	
田村 與七	豊川町五四	一七、〇一〇	
田村力 郎	船場町二四	四〇、八五〇	
田村 明吉	天神町一二	九、八〇〇	
田中仙太郎	幸町六	三七、六一〇	
田邊 萬助	相生町七三	七、〇〇〇	
田邊 顯夫	仲濱町一一	八四、四六〇	
田邊 萬吉	大黒町五九	四六、七一〇	
田邊 正一	大黒町五九	三、九一〇	
田邊 ヨシ	大黒町五九	二、六二〇	
田中 フジ	汐止町一一	六、〇〇〇	
田中 ヨヲ	青柳町六一	三八、六四〇	
田中友次郎	汐止町一四	一七、〇一〇	
田中 勉	蓬萊町一三五	九、〇〇〇	
田中嘉一郎	蓬萊町一五一	四六、一一〇	
田中 庭吉	蓬萊町一五五	三八、二三〇	
田中 浩	惠比須町八	五一、七五〇	
田中清七郎	汐止町七	三八、四三〇	
田中幸四郎	船場町一五	八四、〇五〇	

田中文次郎	船場町二二	三五、五八〇	
田中源之助	壽町二四	六、〇〇〇	
田中 舍平	會所町四三	一〇九、八七〇	
田中 賴昌	汐見町二三	八、四〇〇	
田中 僊藏	船見町一一〇	一六、六五〇	
田中 ヒサ	船見町一一〇	一、一一〇	
田中 イツ	旅籠町六八	二〇、一四〇	
田中 吉藏	天神町一〇〇	六、四八〇	
田中正右衛門	天神町七五	三二九、五九〇	
田中 收藏	富岡町一	七、二四〇	
田村 音松	鍛冶町二八	七九、〇五〇	
田中松五郎	船見町一〇八	八、四〇〇	
田村 兵八	鶴岡町五六	四〇、九八〇	
田代 隆德	元町一七	九、六〇〇	
田村 フク	谷地頭町五二	四七、九三〇	
田邊敬三郎	西川町八六	六、三八〇	
田邊芳太郎	東雲町二四二	七、〇一〇	
田村 辰吉	旅籠町一六	七、一六〇	
田畑 岩吉	鰭潤町二八	六、〇〇〇	
田中金次郎	西川町七四	六、五一〇	
田中 益吉	大町一二	六、五八〇	
田野 政吉	若松町五七	六、〇四〇	
田口吉三郎	辨天町二	二、二四〇	
田口 榮吉	辨天町二	四、三一〇	
田中 春治	鶴岡町三二	六、二八〇	
高橋與三郎	榮町番外地	二一、四六〇	
高橋 末治	鶴岡町二九	六、七一〇	
高橋 春松	西川町一三	六、〇〇〇	
高橋 傳吉	末廣町二〇	一七、二四〇	
高橋 長藏	汐止町七	一〇二、五六〇	
高橋 武七	汐止町七	九、二一〇	
高橋 嘉藏	若松町九八	九、五〇〇	